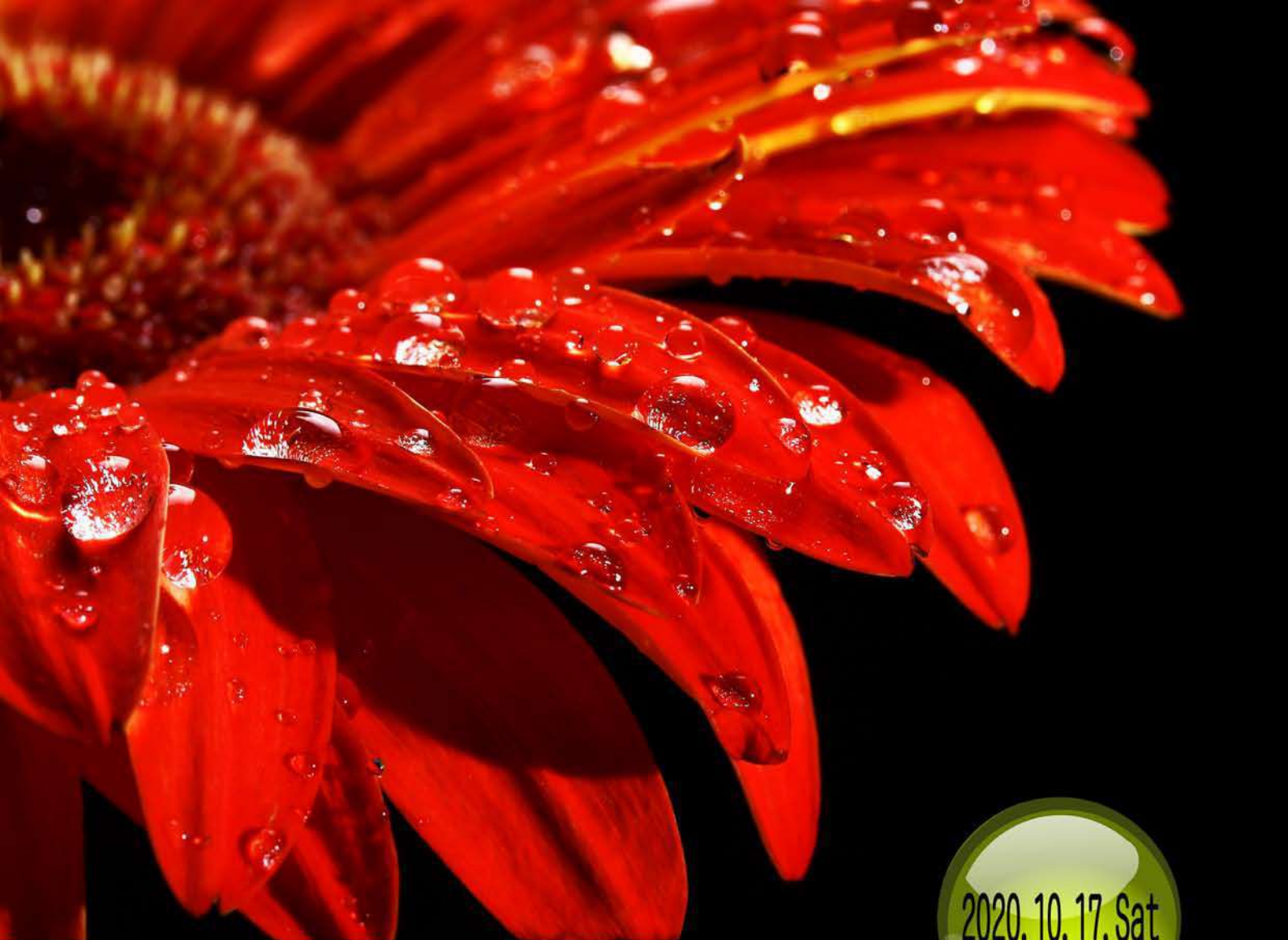




2020.10.17.Sat

WEB開催



男女共同参画
学協会連絡会

第18回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 資料集

女性研究者・技術者の 意志・能力・創造性を活かすために ～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～

第 18 回男女共同参画学協会連絡会

シンポジウム

女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために
～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～

資料集

日時：2020 年 10 月 17 日（土）10：00～17：40

会場：ウェブ開催（Zoom）

目次



男女共同参画学協会連絡会 第 18 期委員長挨拶	1
第 18 回シンポジウムプログラム	3
講演・登壇者紹介	6
ポスター発表参加一覧	24
加盟学協会 活動報告	25
大学・研究機関 活動報告	88
第 18 期男女共同参画学協会連絡会 活動報告	91
ワーキンググループ 活動報告	96
男女共同参画学協会連絡会規約・細則	114
第 18 期 男女共同参画学協会連絡会担当	117

第 18 期委員長挨拶



熊谷 日登美

(日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部・教授)

男女共同参画学協会連絡会 (Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)) は、正式加盟 54 団体、オブザーバー加盟 56 団体 (10 月 17 日現在) で構成されており、100 団体を超える組織となっております。日本農芸化学会は昨年 11 月より第 18 期幹事学会として活動を開始してきました。日本農芸化学会は、ビタミン B₁ の発見者である鈴木梅太郎博士により、1924 年に設立された 100 年近くの歴史を持つ学会です。2020 年 2 月 29 日現在、会員は 10,114 名で、このうち一般会員は 7,499 名 (女性 1,441 名: 19%)、学生会員は 2,615 名 (女性 1,096 名: 42%) になっています。女子学生の会員は増えてきているものの、このことが、正会員増になかなかつながりません。2012 年に日本農芸化学会が男女共同参画学協会連絡会に加入した当初は、委員会等の女性比率もそれ程高くありませんでしたが、学協会連絡会で行っている加盟学協会の女性比率調査による現状の把握や、2015 年に設置された男女共同参画委員会 (現 ダイバーシティ推進委員会) の活動等で、女性を増やそうという気運がたかまり、多くの委員会で女性比率が増加しました。しばらくは、現状を数値化し、意識して女性を「見える化」することが大切と考えています。第 18 期幹事学会の活動は、このダイバーシティ推進委員会の委員で分担して行ってきました。第 18 期に行った主なことは、1) 一般社団法人への法人化、2) 緊急事態宣言が科学者・技術者に与えた影響についての実態調査、3) 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画策定に対する提言・要望活動になります。

男女共同参画学協会連絡会は、任意団体であるということが長年、組織の課題となっておりました。この第 18 期の間で開催した 3 回の運営委員会において法人化について検討し、11 月 1 日からは、一般社団法人となることが決まりました。一般社団法人になっても運営形態はほとんど変わりませんが、これまでと異なるのは、個人会員というカテゴリーができること、および、オブザーバー学協会会員は有期会員となることです。これにより、所属学協会での男女共同参画委員を退任しても、個人会員になれば、学協会連絡会の活動に参加できることとなります。また、オブザーバー学協会会員は、3 年で正式加盟学協会会員になります。法人化することにより、学協会連絡会が、より発展していくことを願っております。

5 月 15 日～6 月 13 日にかけて実施した新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が科学者・技術者に与えた影響についての実態調査では、学協会連絡会に所属する自然科学系

学協会の会員だけでなく、人文社会科学系学会の研究者も含めた計 11,112 人が回答してくださいました。回答者の多くが、今後の研究や教育に不安を抱いており、特に、任期・契約期間付き職や学生の方の状況が深刻であることが伺えました。また、家事・育児の負担が増え、勤務の支障となったという回答は女性に多くみられました。このアンケートについては、新聞社や NHK から取材を受けました。アンケート結果の詳細は、本資料集およびホームページに掲載している報告をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、第 2 回目と第 3 回目の運営委員会はウェブ開催になりました。当初は、スムーズな運営ができるか心配でしたが、遠方の方や、育児・介護中の方も参加しやすくなったため、出席者は通常の約 1.5 倍になり、また、進行にも問題はありませんでした。今後は、ウェブ開催がスタンダードの形になると思います。

今年は、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画の策定の年であることから、提言・要望活動も活発に行いました。内閣府 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）の議員や文部科学省の方々とウェブで面談し、数値目標の設定等による女性研究者の戦略的増加策や若手女性研究者の効果的支援について、基本計画に入れていただくよう要望しました。パブコメが始まりましたら、ぜひ皆様のご意見も出していただきたく、お願い申し上げます。

女性研究者の割合は伸びてきていますが、このままの伸び率では、第 5 期科学技術基本計画での目標値でした 30% に達するのは 2060 年頃になってしまいます。学位を取得した人達が研究者としてのポストを得て、研究を続けることができれば、この傾きは大幅に増加します。今はまだ、アフーマティブ・アクション等により、意識して女性を増やさなければならない時期ですが、女性比率がある一定割合を超えると、無意識のバイアスは払拭され、自然に増えてくるようになります。1 日も早くそのような時が来ることを願って、「女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～」というテーマでシンポジウムを企画いたしました。このシンポジウムでは、既にリーダーになって活躍しておられる方々に、それぞれのお立場で取り組んでこられたことや、男女共同参画に関するお話をお話していただきます。また、前日の 10 月 16 日には、これからリーダーになっていかれる方を対象にした「若手女性研究者のリーダーシップ育成とネットワーク構築のための Workshop」を開催いたします。この Workshop では、講師の講義を聴いた後、参加者の交流会を開催し、異なる分野の研究者とのネットワーク構築を行います。この Workshop を通じてリーダーシップを育成し、各分野において、将来のリーダーが育つことを願っております。最後に、第 18 期の活動を支援してくださった皆様に、心から御礼と感謝を申し上げます。

第 18 回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために
～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～

- 【日時】 2020 年 10 月 17 日（土） 10:00～17:40
【場所】 ウェブ開催（Zoom）
【主催】 男女共同参画学協会連絡会
【共催】 日本大学生物資源科学部、在日米国大使館
【後援】 内閣府男女共同参画局，文部科学省，経済産業省，
科学技術振興機構，日本国立大学協会，日本私立大学連盟，国立女性教育会館

開会挨拶 10：00～10：05

熊谷 日登美（日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部教授）

分科会 10：05～11：50

司会 吉永 直子（京都大学）、佐野 幸恵（筑波大学）

10:05～10:45 講演 1 「南極で活躍する女性たち」

原田 尚美（JAMSTEC 地球表層システム研究センター長 第 60 次南極観測隊夏隊長）

座長 吉永 直子（京都大学）

10:45～11:25 講演 2 「キリンググループの多様性推進とキャリア形成について」

神崎 夕紀（協和発酵バイオ株式会社 常務執行役員経営企画部長）

座長 佐野 幸恵（筑波大学）

11:30～11:50 Workshop Summary

Lily Cushenbery (Associate Professor, Stony Brook University's College of Business)

座長 熊谷 日登美（日本大学）

特別企画 11：50～12：30

11:50～12:00 第18期提言・要望活動の報告

熊谷 日登美（日本大学）

12:00～12:30 緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査報告

志牟田 美佐（東京慈恵会医科大学助教）

座長 野尻 美保子（高エネルギー加速器研究機構）

シンポジウム 13:20 ~ 17:40

総司会 室田 佳恵子 (島根大学)

13:20 ~ 13:50 挨拶

第18期幹事学会挨拶 吉田 稔 (日本農芸化学会会長・理化学研究所・東京大学教授)

共催者挨拶 大矢 祐治 (日本大学副学長・生物資源科学部長・日本大学教授)

共催者挨拶 Kelsey De Rinaldis (Assistant Cultural Affairs Officer, U.S. Embassy, Tokyo)

来賓挨拶 松尾 泰樹 (文部科学省 文部科学審議官)

来賓挨拶 林 伴子 (内閣府 男女共同参画局局长)

13:50 ~ 14:30 基調講演1 「男女共同参画はゴールかツールか？」

上野 千鶴子 (東京大学名誉教授・

認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 理事長)

座長 裏出 令子 (京都大学)

14:30 ~ 15:10 基調講演2 「Advancing Women in STEM: NSF Experiences Through the Decades」

Elizabeth Lyons (Program Director, Office of International Science and Engineering, NSF)

座長 熊谷 日登美 (日本大学)

15:10 ~ 15:50 基調講演3 「ポストコロナ社会の男女共同参画」

渡辺 美代子 (科学技術振興機構副理事)

座長 野尻 美保子 (高エネルギー加速器研究機構)

15:50 ~ 16:30 基調講演4 「学協会による男女共同参画活動の歩み」

栗原 和枝 (東北大学名誉教授・NICHe教授, 男女共同参画学協会連絡会第8期委員長
(第5期副委員長))

座長 原田 慶恵 (大阪大学)

16:30 ~ 16:40 休憩

16:40 ~ 17:30 パネルディスカッション

パネリスト 上野 千鶴子, 渡辺 美代子, 栗原 和枝

司会 北川 尚美 (東北大学)

17:30 ~ 17:40 挨拶

第18期委員長挨拶 熊谷 日登美 (日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部教授)

第19期委員長挨拶 岩熊 まき (日本技術士会・株式会社東建エンジニアリングR&Dセンター所長)

若手女性研究者のリーダーシップ育成と ネットワーク構築のための Workshop

- 【日時】 2020 年 10 月 16 日（金） 8:00 ~ 15:00
【場所】 ウェブ開催（Zoom）
【主催】 男女共同参画学協会連絡会
【共催】 日本大学生物資源科学部、在日米国大使館

【Workshop】 Zoom A

【講師】 Dr. Lily Cushenbery (Associate Professor, Stony Brook University's College of Business)

Workshop 1: 2020年10月16日（金） 8:00 ~ 9:30
Barriers for women in STEM and leading change

Workshop 2: 2020年10月16日（金） 10:00 ~ 11:30
Leading teams for innovative performance

Workshop 3: 2020年10月16日（金） 12:00 ~ 13:30
Practicing persuasion and influence

【交流会】 Zoom B

Workshop 1: 2020年10月16日（金） 9:30 ~ 11:00
Barriers for women in STEM and leading change

Workshop 2: 2020年10月16日（金） 11:30 ~ 13:00
Leading teams for innovative performance

Workshop 3: 2020年10月16日（金） 13:30 ~ 15:00
Practicing persuasion and influence

【Follow-up workshop】

関東地区と関西地区で4月頃開催予定

講演・登壇者紹介

午前の部

分科会（10：05～11：50）

講演 1：原田 尚美 氏

（（国研）海洋研究開発機構 地球表層システム研究センター長
第 60 次南極観測隊夏隊長）

講演 2：神崎 夕紀 氏

（協和発酵バイオ株式会社 常務執行役員経営企画部長）

Workshop Summary:

Dr. Lily Cushenbery

（Associate Professor, Stony Brook University's College of Business）

特別企画（12：00～12：30）

講演：志牟田 美佐 氏

（東京慈恵会医科大学助教）



講演 1
「南極で活躍する女性たち」

はらだ なおみ
原田 尚美 氏

(国研) 海洋研究開発機構地球環境部門
地球表層システム研究センター センター長

最終学歴

1995年3月：名古屋大学大学院理学研究科大気水圏化学専攻博士後期課程満了博士（理学）

職歴ほか

1991年9月～1992年3月：第33次南極地域観測隊夏隊（文部技官）

1995年4月～現在に至る：（認）海洋科学技術センター（現海洋研究開発機構）研究員

2015年9月～2020年9月：第23-24期日本学術会議第三部連携会員

2017年4月～2020年3月：地球環境史学会会長

2017年6月～現在に至る：Ecosystem Study of Sub-Arctic and Arctic Seas 共同議長

2017年11月～2019年3月：第60次南極地域観測隊副隊長兼夏隊長

2018年1月～現在に至る：Geochemical Society Board Member (Asia-Oceania Director)

2018年11月～2020年3月：国立極地研究所客員教授研究専門は生物地球化学。

北太平洋の高緯度域を中心に海底堆積物に記録されたバイオマーカーを用いた過去の環境（水温など）を解析する研究を行ってきた。現在は、北極海の海水減少にともなう海洋生物の生産や生態系の応答を明らかにする研究などを実施。



講演 2

「キリンググループの多様性推進とキャリア形成について」

かんざき ゆき
神崎 夕紀 氏

協和発酵バイオ株式会社
常務執行役員経営企画部長

出身地

福岡県宗像市

略歴

1982年3月 福岡県立宗像高等学校卒業
1982年4月 佐賀大学農学部農芸化学科入学
1986年3月 佐賀大学農学部農芸化学科卒業
1986年4月 佐賀大学農学研究科入学
1988年3月 佐賀大学農学研究科修了
1988年4月 体外診断薬メーカー入社
1992年3月 キリンビール入社福岡工場品質保証担当
1997年3月 神戸工場品質保証担当
1998年3月 神戸工場醸造担当
2004年9月 横浜工場醸造担当
2007年9月 栃木工場醸造担当部長
(2008年12月 日経ウーマン「ウーマンオブザイヤー2009」受賞)
2010年11月 生産本部生産統轄部生産管理担当主査
2013年10月 キリン株式会社 R & D 本部酒類技術研究所副所長
2015年3月 キリンビール株式会社神戸工場長
2017年3月 キリンビール株式会社執行役員横浜工場長
2019年3月 キリンビール株式会社常務執行役員横浜工場長
2020年3月 協和発酵バイオ株式会社常務執行役員(現職)



Workshop summary

リリー クッシュンベリー

Dr. Lily Cushenbery

Associate Professor of Management at Stony Brook University

Director of the Leadership & Creativity Research Lab in the College of Business

Dr. Lily Cushenbery is a tenured Associate Professor of Management at Stony Brook University and the director of the Leadership & Creativity Research Lab in the College of Business.

Her research in leadership, innovation, and conflict applies science-based approaches to practical organizational problems. Her work focuses on 1) the process by which leaders overcome failures and 2) the dynamics of innovative teams. Her primary research examines the consequences of leader mistakes and mistake recovery on leader-follower relationships. Her innovation research includes constructs such as team member influence, team climate, and malevolence. Dr. Cushenbery's research has been published in *Organizational Behavior and Human Decision Processes*, the *Journal of Organizational Behavior*, *The Leadership Quarterly*, *Advances in Developing Human Resources*, *Human Resource Management Review*, and *The Journal of Creative Behavior*. Her work has also been featured in *Fortune*, *Fast Company*, *Business Insider*, *Inc.*, and *Pacific Standard Magazine*.

Dr. Cushenbery is an award-winning teacher in the Stony Brook University MBA program. She also serves as the Director of Graduate Training for the College of Business, and has taught hundreds of professionals in corporate, non-profit, and university environments.

Her consulting clients include the North Atlantic Treaty Organization (NATO), Del Monte Foods, Brookhaven National Labs, PNC Bank, Gold Coast Bank, Stony Brook Medicine. In addition, Dr. Cushenbery serves on the Executive Committee of the Board of Directors for Planned Parenthood Hudson Peconic, a New York affiliate of Planned Parenthood Federation of America.

Prior to joining Stony Brook, Dr. Cushenbery was a Post Doctoral Research Fellow at the International Center for the Study of Terrorism researching the process of terrorist deradicalization for a grant from the Office of Naval Research working with domestic and international government defense agencies. Dr. Cushenbery received her Ph.D. in Industrial-Organizational Psychology from Penn State University and a B.A. in Psychology from California State University, Fresno. For more information, please visit www.theLCLab.com.



特別企画

緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査報告

しむた みさ
志牟田 美佐 氏

東京慈恵会医科大学 薬理学講座 助教

日本生理学会 男女共同参画推進委員
大規模アンケート設問設定・解析 委員
提言・要望書WG 委員

略歴

東京理科大学理学部数学科卒。東京医科歯科大学、東京大学を経て2000年神戸大学にて学位を取得（医学博士）。2001年東京大学医科学研究所研究員。2003年出産のため研究活動を中断。2004年渡英。英国では第2子出産を期に現地の保育ボランティア活動を行う。2006年ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンにて非常勤研究員として研究職に復帰。2011年より現職。専門は神経生理学。

講演・登壇者紹介



午後の部

シンポジウム（13：20～17：40）

第18期幹事学会挨拶：吉田 稔 氏

（日本農芸化学会会長・理化学研究所・東京大学教授）

共催者挨拶：大矢 祐治 氏

（日本大学副学長・生物資源科学部学部長・日本大学教授）

共催者挨拶：Kelsey De Rinaldis 氏

（Assistant Cultural Affairs Officer, U.S. Embassy, Tokyo）

来賓挨拶：松尾 泰樹 氏

（文部科学省 文部科学審議官）

来賓挨拶：林 伴子 氏

（内閣府 男女共同参画局局长）

基調講演1：上野 千鶴子 氏

（東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）
理事長）

基調講演2：Dr. Elizabeth Lyons

（Program Director, Office of International Science and Engineering, National
Science Foundation）

基調講演3：渡辺 美代子 氏

（科学技術振興機構副理事）

基調講演4：栗原 和枝 氏

（東北大学名誉教授・NICHe 教授, 男女共同参画学協会連絡会第8期委員長（第
5期副委員長））

パネルディスカッション司会：

北川 尚美 氏

（東北大学教授, 男女共同参画学協会連絡会第15期委員長）

第18期委員長挨拶：熊谷 日登美 氏

（日本農芸化学会・日本大学生物資源科学部教授）

第19期委員長挨拶：岩熊 まき 氏

（日本技術士会・株式会社東建エンジニアリング R&D センター所長）



第18期幹事学会挨拶

よしだ みのる

吉田 稔 氏

日本農芸化学会会長

理化学研究所 環境資源科学研究センター 副センター長

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

1986年東京大学大学院農学系研究科博士課程修了（農学博士）、同年東京大学助手。1995年同助教授を経て2002年より理化学研究所主任研究員（吉田化学遺伝学研究室）。2013年より理化学研究所基幹研究所グループディレクター、2018年環境資源科学研究センターグループディレクター、2020年より同副センター長。また、2017年より東京大学大学院農学生命科学研究科教授（クロスアポイント）も務める。

微生物が生産する生理活性物質の作用機序研究に取り組み、ヒストン脱アセチル化酵素、タンパク質核外輸送因子、スプライシング因子等を発見し、それらの創薬における重要性を明らかにした。

2009年バイオインダストリー協会賞、2010年文部科学大臣表彰科学技術賞、2011年日本農芸化学会賞、2015年日本学士院賞などを受賞。

日本農芸化学会会長のほか、日本分子生物学会理事、日本癌学会評議員、文部科学省世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）プログラムディレクター代理などを務める。



共催者挨拶

おおや ゆうじ
大矢 祐治 氏

日本大学副学長・生物資源科学部長
日本大学教授

昭和52年日本大学農獣医学部食品経済学科卒業

平成10年日本大学生物資源科学部助教授

平成18年同教授

平成27年日本大学生物資源科学部長・同大学院生物資源科学研究科長・同大学院獣医学研究科長、日本大学評議員・理事

令和2年日本大学副学長



共催者挨拶

ケルシー デ リナルディス

Kelsey De Rinaldis 氏Assistant Cultural Affairs Officer
the U.S. Embassy in Tokyo

Kelsey De Rinaldis is a Foreign Service Officer with the U.S. Department of State, where she currently serves as the Assistant Cultural Affairs Officer in the Public Affairs Section of the U.S. Embassy in Tokyo, Japan. She previously served as a Consular Officer in Kingston, Jamaica. Prior to the State Department, Kelsey managed grants in Albania, Kosovo, and Macedonia from her base in Belgrade, Serbia. Originally from Colorado, she participated in a Sister City Exchange to Moriya, Japan while in high school. Kelsey earned a bachelor's degree in international studies, German, and Russian from the University of Denver. She is fluent in Russian, and speaks some Italian and Japanese.

ケルシー・デリナルディス米国国務省の外交官。現在、東京、在日米国大使館広報文化交流部文化交流担当官補として勤務。前任はジャマイカ、キングストン米国大使館、領事担当官。国務省に入省する前は、セルビアを拠点にアルバニア、コソボ、マケドニアの助成金を管理。出身地コロラド州の姉妹都市、守谷市の高校に交換留学経験がある。デンバー大学より学士号（国際関係、ドイツ語、ロシア語）を取得。ロシア語に堪能で、イタリア語と日本語も話す。



来賓挨拶

まつお ひろき
松尾 泰樹 氏
 文部科学省文部科学審議官

昭和37年10月26日生

出身地 青森県

昭和60.3 東京大学理学部物理学科卒業
 61.10 国家公務員採用I種試験（物理）合格
 62.3 東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程修了
 62.4 科学技術庁科学技術振興局企画課
 63.4 科学技術振興局国際課
 平成 1.5 科学技術振興局国際課国際交流推進室
 1.7 科学技術振興局国際課国際交流推進室推進係長
 2.4 研究開発局ライフサイエンス課ライフサイエンス係長
 4.3 研究開発局企画課総括係長
 5.4 原子力局政策課立地地域対策室専門職
 5.10 原子力局政策課課長補佐（総括担当）
 7.4 外務省経済局（総務参事官室）（課長補佐級）
 9.9 科学技術庁長官官房秘書課専門職
 10.4 外務省在中華人民共和国日本国大使館一等書記官
 13.6 文部科学省大臣官房人事課専門官
 13.7 科学技術・学術政策局政策課課長補佐
 14.9 大臣官房人事課人事企画官
 17.9 研究振興局ライフサイエンス課長
 19.1 研究開発局研究開発戦略官
 20.7 独立行政法人理化学研究所横浜研究所研究推進部長
 22.8 文部科学省高等教育局学生・留学生課長
 23.4 （併）高等教育局学生・留学生課留学生交流室長
 25.7 科学技術・学術政策局人材政策課長
 26.7 大臣官房参事官
 28.1 大臣官房審議官（高等教育局担当）
 30.1 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当及び高等教育局担当）
 30.6 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当）
 30.7 科学技術・学術政策局長
 令和 1.7 内閣府政策統括官科学技術・イノベーション担当
 2.8 文部科学省文部科学審議官



来賓挨拶

はやし ともこ

林 伴子 氏

内閣府男女共同参画局長

略歴

- 1987年 東京大学卒業後、旧経済企画庁入庁
- 1994年 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）経済学修士号取得
- 1998年 OECD経済発展審査委員会（日本政府代表部）
- 2006年 内閣府歳出・歳入一体改革補佐室参事官
- 2008年 内閣府参事官（海外経済分析担当）
- 2011年 内閣府参事官（経済対策・金融担当）
- 2013年 内閣府参事官（経済社会システム・総括担当）
- 2014年 内閣官房副長官補付内閣参事官（内政総括）
- 2016年 内閣府大臣官房審議官（経済財政分析担当）
- 2019年 内閣府政策立案総括審議官
- 2019年 OECD経済政策委員会副議長
- 2020年 内閣府男女共同参画局長



基調講演 1

「男女共同参画はゴールかツールか？」

うえの ちづこ

上野 千鶴子 氏

社会学者・東京大学名誉教授

認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN)
理事長

富山県生まれ。京都大学大学院社会学博士課程修了。平安女学院短期大学助教授、シカゴ大学人類学部客員研究員、京都精華大学助教授、国際日本文化研究センター客員助教授、ボン大学客員教授、コロンビア大学客員教授、メキシコ大学院大学客員教授等を経る。1993年東京大学文学部助教授（社会学）、1995年から2011年3月まで、東京大学大学院人文社会系研究科教授。2012年度から2016年度まで、立命館大学特別招聘教授。2011年4月から認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長。専門は女性学、ジェンダー研究。この分野のパイオニアであり、指導的な理論家のひとり。高齢者の介護とケアも研究テーマとしている。

1994年『近代家族の成立と終焉』（岩波書店）でサントリー学芸賞受賞。2011年度、「朝日賞」受賞。受賞理由「女性学・フェミニズムとケア問題の研究と実践」2019年、フィンランド共和国からHän Honours受賞（長年の男女平等への貢献に対する感謝状）

『上野千鶴子が文学を社会学する』（朝日新聞社）、『差異の政治学』『生き延びるための思想』（岩波書店）、『当事者主権』（中西正司と共著、岩波新書）、『ニーズ中心の福祉社会へ』（中西正司と共編、医学書院）『岩波シリーズケアその思想と実践』（共編著、全6巻、岩波書店）、『世代間連帯』（辻元清美と共著、岩波新書）、『家族を容れるハコ家族を超えるハコ』（平凡社）、『老いる準備』（学陽書房）、『おひとりさまの老後』『男おひとりさま道』（法研）、『ひとりの午後に』（NHK出版）、『女ざらい』（紀伊國屋書店）、『女は後半からがおもしろい』（坂東眞理子と共著、潮出版）、『結婚帝国』（信田さよ子と共著、河出書房）、『不惑のフェミニズム』（岩波現代文庫）、『ケアの社会学』（太田出版）、鼎談『フェミニズムの時代を生きて』（岩波現代文庫）、『現代思想総特集上野千鶴子』（青土社）、DVDブック『生き延びるための思想』（講談社）、『ナショナリズムとジェンダー』（岩波現代文庫）、『生き延びるための思想』（岩波現代文庫）、『快樂上等』（幻冬舎）、『みんな「おひとりさま」』（青灯社）、『上野千鶴子が聞く小笠原先生、ひとりで家で死ぬますか？』（朝日新聞出版）『身の下相談にお答えします』（朝日新聞出版）『＜おんなの思想＞私たちはあなたを忘れない』（集英社インターナショナル）『女たちのサバイバル作戦』（文藝春秋社）、『ニッポンが変わる、女が変える』（中央公論新社）、『上野千鶴子の選憲論』（集英社新書）『何を怖れる』（岩波書店・共著）、『老い方上手』（共著・WAVE出版）、『ケアのカリスマたち看取りを支えるプロフェッショナル』（亜紀書房）、対談集『思想をかたちにする』『セクシュアリティをことばにする』（いずれも青土社）、『非婚ですが、それが何か？』（対談集・ビジネス社）。『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、『上野千鶴子のサバイバル語録』（文藝春秋社）、『時局発言！』（WAVE出版）、『また身の下相談にお答えします』（朝日新聞出版）、『世代の痛み団塊ジュニアから団塊への質問状』（中公新書ラクレ）、『おひとりさまVSひとりの哲学』（朝日新書）、『戦争と性暴力の比較史へ向けて』（編著・岩波書店）『情報生産者になる』（筑摩書房）『女ざらいニッポンのミソジニー』（朝日新聞出版・文庫）など著書多数。最新刊に『上野先生、フェミニズムについてゼロから教えてください！』（大和書房）がある。WAN URL <http://wan.or.jp/>



基調講演 2

「Advancing Women in STEM: NSF Experiences Through the Decades」

エリザベス ライオンズ

Dr. Elizabeth Lyons

Program Director, Office of International Science and Engineering, National Science Foundation

Elizabeth (Libby) Lyons works in the U.S. National Science Foundation's Office of International Science and Engineering where she helps American universities, scientists, and students build international networks and collaborations. She has served at NSF for over 23 years, including as Head of NSF's Tokyo Regional Office in 2016, as Program Coordinator for NSF's flagship international program, the Partnerships for International Research and Education, as a Senior Advisor loaned to the U.S. Department of State for 3.5 years, and as a Program Director in the Directorate for Biological Sciences.

In her decades at NSF Dr. Lyons has been a strong advocate for increasing the participation, prominence, and influence of women in U.S. S&T, spearheading activities such as organizing a recent international event on NSF's groundbreaking Sexual Harassment Policy, hosting a visit to NSF by the Director of iGIANT (impact of Gender/Sex on Innovation and Novel Technologies), representing NSF and U.S. Embassy Tokyo in 2016 with speeches at several Japan universities and the World Assembly for Women, and developing and running an NSF-wide funding program in the 1990's called POWRE (Professional Opportunities for Women in Research and Education).

She has written multiple articles about U.S. international S&T engagement, most recently "How Collaborating in International Science Helps America", published in 2016 in Science & Diplomacy. Before moving to NSF, she served on the faculties of Northwestern University and Amherst College. She earned an A.B. in Sociology from Harvard University, a Masters of Forest Science from Yale University, and a Ph.D. in Botany and Genetics from Duke University. She is an avid birdwatcher and Red Sox fan.



基調講演 3

「ポストコロナ社会の男女共同参画」

わたなべ みよこ

渡辺 美代子 氏

科学技術振興機構副理事

1979年東京理科大学理学部物理学科卒業、同年東芝総合研究所研究員、化合物半導体の研究に従事、理学（論文）博士。1986年カナダダルハウジー大学ポスドク。1996年アトムテクノロジー研究体研究員として半導体ナノテクノロジーの研究に従事。1997年英国バーミンガム大学客員研究員を経て、2002年東芝研究開発センター材料応用技術センター長、2004年東芝経営監査部参事、2005年同電力・社会システム社技術管理部グループ長、2006年同研究開発センター技術管理部門長、2009年同イノベーション推進本部経営変革統括責任者を務めた。2014年より科学技術振興機構執行役（現・副理事）、同機構にて科学コミュニケーションセンター長とダイバーシティ推進室長を併任し、サイエンスアゴラおよびジェンダーサミット10双方の議長を務めた。2018年より内閣府STEM Girls Ambassador。このほか、日本学術会議第24期副会長、現在、内閣府男女共同参画会議の専門委員、World Science Forumの組織委員などを兼任。



基調講演 4
「学協会による男女共同参画の歩み」

くりはら かずえ
栗原 和枝 氏
東北大学名誉教授・NICHe教授
男女共同参画学協会連絡会第8期委員長
(第5期副委員長)

学歴：1979年東京大学大学院工学系研究科修了・工学博士。

専門分野：コロイドおよび界面科学・高分子。

職歴：1979年東京大学技官などを経て、1987年ERATOグループリーダー、1992年名古屋大学助教授、1997年東北大学反応化学研究所（現多元物質科学研究所）教授、2010年同大原子分子材料科学高等研究機構教授（多元研教授兼務）、2016年東北大学名誉教授、2017年同大未来科学技術共同研究センター教授（現在に至る）。

公職：2005年～日本学術会議会員（第20～22期）、2007年～文部科学省独立行政法人評価委員会委員、2007年男女共同参画学協会連絡会副委員長、2010年男女共同参画学協会連絡会委員長、2012年～International Association of Colloid and Interface Scientists 会長、他。

受賞：2000年日本化学会学術賞、2011年オーストラリア化学会 A.E.Alexander Lectureship Award、2013年IUPAC 2013 Distinguished Women in Chemistry or Chemical Engineering Award、2016年高分子学会高分子科学功績賞、2018年科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞、他。



パネルディスカッション
司会

きたがわ なおみ
北川 尚美 氏

東北大学教授

男女共同参画学協会連絡会第15期委員長

略歴

1985 年 3 月 埼玉県立川越女子高等学校卒業
1989 年 3 月 東北大学工学部化学工学科卒業
1991 年 3 月 同大学院工学研究科博士課程前期化学工学専攻修了
1994 年 3 月 同大学院工学研究科博士後期課程 化学工学専攻修了、博士（工学）を取得
1994 年 4 月 通商産業省工業技術院東北工業技術研究所非常勤研究員
1994 年 5 月 東北大学反応化学研究所（現 多元物質科学研究所） 助手
1996 年 4 月 東北大学大学院工学研究科助手
2002 年 10 月 同大学院工学研究科准教授
2017 年 5 月 同大学院工学研究科教授

研究分野：化学工学、反応工学、生物工学



第18期委員長挨拶

くまがい ひとみ

熊谷日登美 氏

日本大学生物資源科学部 教授

男女共同参画学協会連絡会 第18期委員長

日本学術会議 会員

お茶の水女子大学大学院家政学研究科食物学専攻 修士課程修了
東京大学大学院農学系研究科農芸化学専攻 博士課程修了（農学博士）
日本大学生物資源科学部 助手，講師，准教授を経て現在教授
この間，2000年3月から1年間，2人の子供を連れ，
イギリスThe University of Nottinghamで海外派遣研究員

2006年 第11回安藤百福賞 優秀賞受賞

2016年 日本食品科学工学会 学会賞受賞

専門は食品科学

日本農芸化学会 ダイバーシティー推進委員会 委員長

日本大学生物資源科学部 男女共同参画推進委員会 委員長



第 19 期委員長挨拶

いわくま

岩熊 まき（眞起）氏

株式会社東建エンジニアリングR&Dセンター所長

公益社団法人日本技術士会副会長

株式会社東建エンジニアリング R&D センター所長

主な経歴等

千葉大学園芸学部卒

株式会社建設技術研究所 株式会社東京建設コンサルタント を経て現職

独立行政法人国立高等専門学校機構理事（2010－2014）

独立行政法人国立女性教育会館運営委員（2014－現在）

公益社団法人日本技術士会 理事（2005－2007） 副会長（2007－2009）

男女共同参画推進委員長（2011－2015） その他委員歴任

公益社団法人日本技術士会フェロー 公益社団法人土木学会フェロー

技術士（応用理学 文部科学省登録 15111）

ポスター発表参加一覧



加盟学協会（学協会 ID 順）

002	化学工学会	037	種生物学会
006	日本化学会	038	日本獣医学会
007	日本原子力学会	039	日本質量分析学会
009	日本女性科学者の会	043	日本木材学会
010	日本植物生理学会	044	日本技術士会
011	日本数学会	045	日本植物学会
012	日本生化学会	047	日本農芸化学会
013	日本生態学会	048	日本解剖学会
014	日本生物物理学会	050	日本中性子科学会
016	日本蛋白質科学会	059	日本内分泌学会
018	日本動物学会	061	日本海洋学会
020	日本比較内分泌学会	062	地形学連合
021	日本物理学会	135	組織細胞化学会
023	日本森林学会	137	応用物理学会
024	地球電磁気・地球惑星圏学会	140	プラズマ・核融合学会
026	日本バイオイメージング学会	141	日本数式処理学会
029	日本結晶学会	147	日本放射線影響学会
030	日本地球惑星科学連合	153	軽金属学会
036	日本建築学会	161	日本高血圧学会

研究機関

森林機構

ワーキンググループ

国際調査 WG

女子中高生理系進路選択支援 WG

加盟学協会 活動報告一覧



加盟学協会（学協会 ID 順）

002	化学工学会	039	日本質量分析学会
003	高分子学会	041	日本畜産学会
005	日本宇宙生物科学会	043	日本木材学会
006	日本化学会	044	日本技術士会
007	日本原子力学会	045	日本植物学会
009	日本女性科学者の会	047	日本農芸化学会
010	日本植物生理学会	048	日本解剖学会
011	日本数学会	049	日本魚病学会
012	日本生化学会	050	日本中性子科学会
013	日本生態学会	055	日本熱帯医学会
014	日本生物物理学会	056	日本応用数理学会
015	日本生理学会	057	日本衛生学会
016	日本蛋白質科学会	059	日本内分泌学会
018	日本動物学会	060	日本国際保健医療学会
020	日本比較内分泌学会	061	日本海洋学会
021	日本物理学会	062	地形学連合
023	日本森林学会	105	地盤工学会
024	地球電磁気・地球惑星圏学会	113	日本女性技術者フォーラム
025	日本神経科学学会	116	土木学会
026	日本バイオイメージング学会	126	日本鳥学会
028	日本育種学会	134	日本植物バイオテクノロジー学会
029	日本結晶学会	135	組織細胞化学会
030	日本地球惑星科学連合	137	応用物理学会
031	日本繁殖生物学会	140	プラズマ・核融合学会
032	生態工学会	141	日本数式処理学会
033	錯体化学会	147	日本放射線影響学会
034	日本進化学会	149	日本食品科学工学会
035	日本遺伝学会	152	日本脂質栄養学会
036	日本建築学会	153	軽金属学会
037	種生物学会	161	日本高血圧学会
038	日本獣医学会	162	日本水産学会

化学工学会における男女共同参画の取組

公益社団法人 化学工学会 (男女共同参画委員会, future_inquiry@scej.org)

The Promotion of Gender Equality in the Society of Chemical Engineers

The Society of Chemical Engineers, Japan (Gender equality committee, future_inquiry@scej.org)

Abstract:

Our committee has promoted gender equality to develop and improve the research/education environment for women chemical engineers through the following activities. 1) In 2011, the Women's Prize was established and the winners of the prize will act as role models for young chemical engineers. 2) A nursery room is arranged during the autumn and annual meetings which admitted 5 people free. 3) The workshop is provided to develop a network of women chemical engineers. 4) The messages from role models about their research and carrier are introduced in our scholarly journal. 5) We joined the 2020 IUPAC Global Women's Breakfast event.

1. 学会紹介

本学会は1936年化学機械協会として発足しました。本会の一番重要な務めは、化学工学の学術的水準の進展を支え、人材を育成し、それらの成果を有機的に社会へ還元するための中心的学会として活動することです。そのため、日頃から産・学・官が協力できる数多くの場を提供しています。

2003年度に設立された化学工学会男女共同参画委員会は、化学工学の多様化、国際化、複雑化に対応できる人材育成とイノベーションの実現を目指して、ダイバーシティー促進の側面から、「女性賞」や「女性技術者ネットワーク」を設立するなど、様々な活動を行っています。

2. 学会員構成 (2020年8月1日現在)

学会の特徴として、正会員に企業会員が多いということが挙げられます。会員の構成を下表に示します。個人会員に対する女性の割合は、この17年間で3%から9.5%に上昇しました。また、理事25名中女性は4名(内1名は副会長、女性割合は16%)、監事2名中1名女性となっております。

	男性	女性
正会員	5029 名	376 名 (7.0%)
学生会員	917 名	248 名 (21.3%)
法人会員	462 社	

3. 本年度の主な委員会活動状況

1) 女性賞受賞講演と女性技術者フォーラム開催

2011年に化学工学会女性賞を創設しました。本賞は業績に加えてワーク・ライフ・バランスの実現や男女共同参画推進への貢献を総合的に

評価して女性個人を表彰するものです。年会において、受賞講演会と合わせて、著名な女性指導者と意見交換をする場、及び女性研究者・技術者が研究発表をする場を提供する“女性技術者フォーラム”を開催しています。

2) 年会・秋季大会における保育サービスの実施

2013年より、育児中の会員の大会参加をサポートするために、就学前児童を対象として、大会期間中の保育サービスを実施しています。2014年からは、一日5名まで費用を学会で全額負担しています。

3) 女性技術者ネットワーク

年に数回、情報交換の機会が少ない女性技術者、研究者を中心に、お互いの貴重な経験や悩みを共有して、問題解決に向けて進んでいける女性限定での情報交換の場を設けています。企業からの参加者が多く、毎回活発な議論が行われています。

4) 学会誌での紹介

学会誌「化学工学」で連載中の「広がれ！ダイバーシティー」において、活躍する女性研究者・技術者の方にご自身の研究生活やキャリアアップについてご執筆頂き、広く会員に紹介しています。

5) Global Women's Breakfastへの参加

応用化学研究に携わる世界中の女性研究者が世界各国で時を同じくしてBreakfast Meetingという形で集い、男女共同参画の重要性を世界的に共有することを目的としたIUPACのイベントに参加しました。

高分子学会における男女共同参画推進の取り組み

高分子学会 男女共同参画委員会

(委員長：高井まどか・東京大学、委員：赤井日出子・三菱ケミカル、秋山恵里・花王、浅沼浩之・名古屋大学、上田一恵・ユニチカ、織田ゆかり・九州大学、佐藤絵理子・大阪市立大学、竹岡裕子・上智大学
中藺和子・東京工業大学、長谷陽子・豊田中央研究所、前田瑞夫・理化学研究所
宮田隆志・関西大学、吉江尚子・東京大学)

Activities for Gender Equality in the Society of Polymer Science, Japan

The Society of Polymer Science, Japan

Abstract:

Activities of women network in the Society of Polymer Science, Japan (SPSJ), started more than 20 years ago in the occasions of annual meetings. A day nursery school in the annual meeting began in 2002 ahead of the times, and the gender equality promotion committee was established in 2006. In order to promote the return to work after some life events, SPSJ introduced the renewed membership system for both women and men. The Seminar for the gender equality has been held each year at the SPSJ annual meeting.

1. 男女共同参画に対する学会の取り組み

高分子学会では、20数年前インフォーマルに開始された高女性研究者の会(WPSJ)のネットワークを中心として、年次大会や討論会の開催時に女性研究者が交流を図ってきました。年次大会・討論会での保育室の設置は他学会に先駆けて2002年より行い、男女共同参画学協会連絡会にも発足時から参加し、2006年度には男女共同参画委員会を設置しました。男女共同参画委員会は定期的な活動の他、再チャレンジ会員制度の提案など幅広い活動を行っています。

2. 今年度の活動(中止行事も含む)

(1)「第13回高分子学会男女共同参画セミナー」

今年度も第69回高分子学会年次大会(5月開催予定)に併設する形式でセミナーを企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大により年次大会が中止になったため、セミナーも中止となりました。本セミナーは、産官学における研究者・技術者の男女共同参画について、学会として何ができるかを考える機会として、高分子年次大会に併設され、学生を含む様々な年齢層や職域から、男女を問わず多くの方にご参加いただき、活発な意見交換が行われてきております。今後もセミナーを継続していきたいと考えております。

(2) しなやかなキャリアパスを考えよう-研究者のたまごたちとの交流会 2020-

毎年、高分子討論会に併設して、交流会を企画しております。当初は、女子学生や若手女性研究者のキャリアパスをメインテーマとしてきましたが、昨今では男女格差の悩みよりもむしろ、研究者がどのようなキャリアプランを描いていくかという課題が関心事となってきたため、今

年度は男女を問わず、広く若手研究者を対象とした交流会を企画しておりました。第69回高分子討論会がオンライン開催となり、残念ながら交流会は延期となりました。

(3) 学会誌「高分子」での連載「先輩からのメッセージ-仕事と私事-」

産官学のさまざまな機関で活躍する幅広い年齢層の先輩から、若手研究者、学生に向けて、男女共同参画の視点を入れた温かいメッセージを送る、学会誌「高分子」の企画です。2008年6月から掲載を開始し、これまでに約170名の方に寄稿いただき、人気を博しています。掲載記事は学会の男女共同参画ホームページで公開しておりますので、是非ご覧下さい。

(<https://main.spsj.or.jp/danjo/shigoto.html>)

(参考)

2020年4月号 “男女共同参画委員会の活動”

(加藤隆史 東京大学大学院)

2020年5月号 “私のしごと～女性研究者として～” (帯刀陽子 東京農工大学大学院)

2020年6月号 “子連れ在外派遣 in 台湾”

(相見順子 物質・材料研究機構)

2020年7月号 “感謝の気持ちを忘れずに -山あり谷あり-” (中村綾乃 資生堂)

2020年8月号 “20年目に思うこと”

(近藤高志 東京大学)

(4) 高女性研究者の会(WPSJ) 活動支援

(5) ホームページの運営

高分子学会 HP (<https://www.spsj.or.jp/>) から

日本宇宙生物科学会-活動報告2020

日本宇宙生物科学会 (横谷香織・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp,

加藤浩・三重大・katohiro@gene.mie-u.ac.jp清水美穂・農工大・mshzm@cc.tuat.ac.jp,

跡見順子・農工大・yatomi@cc.tuat.ac.jp,)



Japanese Society for Biological Sciences in Space - Activity report 2020

Japanese Society for Biological Sciences in Space (Kaori Tomita-Yokotani・

yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp Miho Shimizu・TUAT・mshzm@cc.tuat.ac.jp, Yoriko

Atomi・TUAT・yatomi@cc.tuat.ac.jp)

Abstract: Japanese Society for Biological Science in Space is including the several study fields, astrobiology, planetary science, biology, eco-engineering and natural ecosystems. We will participate in Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE) under the widely scientific knowledge.

＜日本宇宙生物科学会について＞ 日本宇宙生物科学会は、太陽系や地球の歴史の解明と平行して生命の起源を探るアストロバイオロジー、地球という星で進化しその環境に適応してきた多様な生物のありさまを明らかにする惑星生物学、そして人類の宇宙への進出を実現するための生物・生態系工学、そしてそこから分かる“人間の生命・生物特性”といった広い分野を包含する科学領域です。生命がこの地球上に生まれて以来約37億年という長い歳月の間に、生物は次第に進化し様々な種に分かれ、またあるものは滅亡してきました。現存する動物や植物、菌類など様々な生物は、長い間地球上の環境の中でその生命を連続させ、各々の種を維持してきたものです。近年、地球上の重力や磁力、放射線、光、空気の組成など種々の環境要因が生命の維持や発生、生物個体や群の行動など生物の基本的な現象と密接にかかわりあっていることが次第に明らかになりつつあります。生命の持つ奥深さと美しさは、その原理と機構が科学的に解明されていくにつれて、益々深く認識されるようになっていきます。しかしその原理と機構は、地球上での実験のみでは完全に理解することはできません。生物科学の視野を広げ、宇宙環境における生物の環境因子に対する感受性と適応、生活環境の構成等を知ることは、生命の基本原理の解明にとって重要であり、基礎生物学の発展に寄与すると期待されます。また、国際宇宙ステーションの存在意義ときぼうでの科学実験は、人類の平和への寄与という大きな使命があります。

＜日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会における活動＞ 日本宇宙生物科学会は、男女共同参画社会への意識は高く、連絡会発足時から参加・協力しその内容を実践する努力を行っています。日本宇宙生物科学会の男女共同参画社会への取り組みは、科学を通してこれを当たり前に取り入れる基盤を確立することです。生命科学の視野を宇宙にまで広げて学際的に研究を行ない「生命の存在様式」を明らかにし人類の生命観、宇宙観の確立をめざす学

会です。

＜科学者生活委員会の活動として＞ 日本宇宙生物科学会の男女共同参画委員会は、「科学者生活委員会」の中で活動しています。科学者個々の生涯を対象とし、次世代に科学や技術に携わる中で得てきた知恵の継承を行うことが出来る場を提供することが重要と考えています。今後も、宇宙生物科学における多様な生物・生命研究成果のネットワークを大いに活かし、複雑な人間社会の調和を、科学・技術を基盤にして未来の平和社会に向けて貢献していきます。

＜本連絡会における活動として＞ 地球の重力に注目し、我々の健康に深く関連した生活について指導的活動を継続して行っています。具体的には、個々の会員や人々が一生健康で活躍できることを目的に、直立二足歩行を常態とする人間の身体やその中で生きる細胞のつくりとつながる生命の原点から展開した「身心一体科学」と「体幹体操」の指導です。これらは、実は心の脳とつながるバランス能力と重要な体幹を考える脳の領域を増やす運動です。生活習慣は大きく関係します。COVID-19パンデミックでの心身の健康対応としても役立つことがわかってきました。科学者の一生を通した話題と世代を超えた語り合いに力を入れています。

＜日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会におけるこれまでの主な活動＞ 2010-2011年は第9期男女共同参画学協会連絡会の幹事としてwithコロナのオンライン時代に先駆けて会議資料の電子化を最初に行いました。3.11直後ということもあり、時代の要求として「いのちと健康」をテーマにしたシンポジウムを開催し、要望書を提出しました。日本学術会議発行の学術の動向に特集記事が掲載されました。プレWGの世話役として第三回大規模アンケート実施に貢献、そのときに作成した国の政策と連絡会アンケートの関係の対応年表はいまも活用されています。宇宙生物科学会で展開してきた「重力健康科学」をふまえ、学術会議小委員会の活動として第6期科学技術基本計画にのれるべき人間中心の科学と教育についてシンポジウムを開催し、大臣官房審議官(科学技術・イノベーション担当)とも意見交換を行いました。

＜日本宇宙生物科学会ロゴマーク＞ (右上) 会員から公募で選ばれたロゴマークです。宇宙の中に青い地球が浮かび彫りになります。

日本化学会における男女共同参画推進委員会の取り組み

男女が共に働く豊かな多様性社会



公益社団法人日本化学会（男女共同参画推進委員会, info@chemistry.or.jp）

Activity of the Gender Equality Committee (GEC) in the Chemical Society of Japan (CSJ)

The Chemical Society of Japan (Gender Equality Committee, info@chemistry.or.jp)

Abstract: The Committee aims to promote the realization of a real gender equality society in the field of chemical science and engineering. In 2003, CSJ decided a positive action plan to increase the ratio of female members both on the board and committees up to 20% by 2020. Our committee's symposium, held in the annual meeting of the CSJ since 2002, contributes to encourage not only female chemists, but also young members of the CSJ. The CSJ Award for Young Female Chemist (up to 2 people each year) was established in 2012. This award is granted for significant research results in fundamentals and applications of chemistry and for contribution to gender equality activities.

1 日本化学会とは

日本化学会は明治11年（1878年）に創立され、化学と化学工業の全分野を網羅する基幹学会である。

正会員数 17,586名（内女性1,566名（9%）、女性役員2名（理事27名＋監事4名）（2020年3月現在）

2 男女共同参画推進委員会の発足

2002年9月に男女共同参画推進委員会が発足した。これ以降、毎年約4回の委員会を開催している。現在の委員13名（女性6名）、企業から4名、理事1名を含む。現在の委員長は北川尚美（東北大学）。

3. ポジティブアクション

A. 本委員会提によるポジティブアクション（2003年1月の理事会で承認）

- 1) 理事会、支部、部会、委員会等における女性役員の比率が2020年までに20%になるように女性の登用に努める。
- 2) 日本化学会が主催する学会、講演会等において基調講演や招待講演者の中に女性科学者を含め、ロールモデルとして示すこと。
- 3) 優れた女性化学者を顕彰する賞を創設すること。

B. ポジティブアクションの成果

- ・女性理事の会長指名枠の新設：2005年度より1名。現在2名の理事。
- ・2012年度に女性化学者奨励賞が新設された：年2件以内。
- ・2018～2019年度の会長に川合眞紀氏（分子研所長）が就任。初めての女性会長が実現。
- ・2019～2020年度の副会長に加藤昌子氏（北大院理）が就任。初めての女性副会長が実現。

4. 女性化学者奨励賞

2013年度より毎年表彰。学術研究に傑出した業績と貢献、社会貢献にも努め、国内外での研究活動・交流を通して、我が国の女性化学者の地位向上に寄与し、科学者・技術者を目指す学生や若手研究者の目標となる、化学会会員の若手女性化学者（40歳未満）を表彰。第8回女性化学者奨励賞（2020年3月）は小阪田泰子氏（大阪大学）と若林里衣氏（九州大学）が受賞した。

5. 男女共同参画シンポジウム

2002年度から継続的に年会で開催。2020年3月は「働き方改革時代におけるプロモーションとマネジメント」を取り上げ、新しい時代の変革に際して、キャリア形成の新たな動向や産業界・アカデミアの取り組みを紹介いただき、参加者も含めたディスカッションを行う予定であった。残念ながら新型コロナ禍で中止となったものの、「ポストコロナ時代の働き方」といった観点を加え、2021年度3月に開催予定。

また、2020環太平洋化学会議も1年延期（2021年12月16-21日）となった。引き続き、「シンポジウム”Empowering Women in the Chemical Sciences & Engineering”」を開催予定、積極的な参加を期待。

6. 学会開催中の託児所の設置

2001年3月の年会で初めて開設され、その後継続的に設置されている。利用者累計約160名以上。

7. 女子中高生夏の学校

男女共同参画学協会連絡会の女子中高生理系進路選択支援WGの世話役団体を務める。

※日本化学会の男女共同参画推進委員会の活動：
<http://www.chemistry.or.jp/activity/cooperation>

日本原子力学会ダイバーシティ推進委員会 — 活動報告2020

一般社団法人日本原子力学会 (ダイバーシティ推進委員会、kaiin@aesj.or.jp)

The AESJ Diversity Promotion Committee - Activity report 2020

Atomic Energy Society of Japan (The AESJ Diversity Promotion Committee、kaiin@aesj.or.jp)

The Society was founded on February 14, 1959, and celebrated its 60th anniversary in 2019. We are pursuing academic and technical progress related to the peaceful use of nuclear energy, contributing to the promotion of R&D in Japan, and working in accordance with the purpose of establishment to strive for mutual awareness among members. Since May 2017, as the current committee, it is not limited to gender equality, but also recognizes the diverse values of a wide range of academic members and builds an environment where further development is possible.

1. 学会紹介

本会は1959年2月14日に創立され、2019年には60周年を迎えました。原子力の平和利用に関する学術および技術の進歩を図り、我が国の研究開発の振興に寄与するとともに、会員相互の啓発に努めていくという設立の趣旨に沿って活動しています。2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故により、我が国の原子力安全に対する信頼は失墜し、本会の活動も大きな影響を受けました。このような状況の中で、事故への対応を含む学会活動を振り返りつつ、原子力の平和利用に対する信頼の回復と新たな発展への展望を開くため、2019年4月25日には、創立60周年シンポジウムを開催致しました (<http://aesj.net/hp/60thsymp/>)。

2. 学会員の構成 (2020年7月8日現在)

本会には19部会、5連絡会があり、原子力・放射線分野の多くの専門領域から構成され、また、全国8地方支部においても独自の活動を展開しています。会員種別及び総数については下表に示す通りです。学生会員においては13.8%の女性比率であるところが、正会員では4.6%に留まっている点に関してはまだまだ改善の余地があると考えています。また、多様な会員構成という点で、新たに教育会員を設け、小中高等学校の教員の皆様にご入会いただき情報発信する仕組みを構築しています。あらゆる方に参加いただける学会としての活動・体制づくりを進めています。

会員種別	女性比率	
正会員	5,815名	266名 (4.6%)
学生会員	349名	48名 (13.8%)
推薦会員	17名	1名 (5.9%)
教育会員	6名	1名 (16.7%)
総数	6,187名	

3. 主な活動状況

本会ダイバーシティ推進委員会は、2003年1月に男女共同参画ワーキンググループとして発足して以来、本会の中での男女共同参画に関する啓発活動、提言を行ってきました。2007年6月には委員会に昇格し、2017年5月よりダイバーシティ推進委員会として、本会理事を委員長とするなど組織の再編を行い、また、男女共同参画にとどまらず、広く学会員の多様な価値を認め、一層発展していける環境の構築のために情報の収集、発信を行っています。

主な活動について以下に紹介します。

1) 年会・大会でのポスターセッション

研究者だけではなく本会の関わる分野で従事される方とのネットワークの場を作りたいという思いから交流の機会としてのポスターセッション・意見交換会を行っています。テーマも「私の働き方」といったタイトルで業務紹介やワークライフバランスの紹介を中心にする事で、これまで学会に参加する機会の少なかった業務に就いている方にもご参加いただく場を創出しています。

2) 女子中高生夏の学校

なじみが薄く、必ずしもイメージがよいとはいえない原子力・放射線分野について、独自に製作したロールモデル集を紹介するなどして、少しでも親しみを持ってもらうことを目的として、毎年ポスター発表に参加しています。2018年からは放射線応用技術の研究機関である量子科学研究機構高崎研究所とのコラボを実現し、放射線照射したプラスチックの形状記憶作用について簡単な実験を通じて体感してもらうような展示を行っています。

3) 情報発信

ホームページのほかに Facebook を利用した情報発信を始めています。ぜひご覧ください。
<http://www.aesj.or.jp/~gender/index.html>
<https://www.facebook.com/aesj.diversity/>



一般社団法人日本女性科学者の会活動報告 2020

一般社団法人日本女性科学者の会 会長：近藤科江（東京工業大学 教授）

事務局：神奈川県横浜市緑区長津田町 4259 東京工業大学 生命理工学院 近藤研究室内

E-mail : sjws-office@sjws.info Tel & Fax : 045-924-5800

Activity Report 2020 of the Society of Japanese Women Scientists

General incorporated association The Society of Japanese Women Scientists (SJWS), President Shinae Kondoh,
Tokyo Institute of Technology, 4259 Nagatsuta-cho, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa, 226-8501 JAPAN

E-mail : sjws-office@sjws.info Tel : 052-564-6151 Fax : 052-564-6251.jp

Abstract :

The Society of Japanese Women Scientists (SJWS) was established in April, 1958 to foster friendship among female scientists, facilitate knowledge exchange among them in various fields of research and provide support during their career with the ultimate goal of advancing world peace. There are a wide range of members in SJWS, including researchers in science, engineering, medicine, pharmacy, and agriculture, belonging to universities, research institutions, as well as researchers and engineers from companies. SJWS is providing opportunities to facilitate the exchange of knowledge in various fields of academic researches particularly for women scientists.

■設立経緯と沿革

1958年「女性科学者の友好を深め、研究分野の知識の交換を図り、女性科学者の地位の向上を目指すと共に、世界の平和に貢献すること」を目的とし、日本婦人科学者の会が設立されました。1996年6月に日本女性科学者の会(SJWS)と改名し、現在、会員数は約270名と少人数ながら理学・工学・医学・薬学・農学等を専攻する大学や研究機関に所属する研究者、企業の研究者・技術者など多岐に渡り、幅広い科学・技術分野をカバーしています。

■活動/近年のイベント

2020年1月に九州工業大学戸畑キャンパスにて「分野を超えた女性研究者ネットワークの構築」というテーマで新春シンポジウムを行いました。九州工大における男女共同参画の取り組みの紹介(安河内恵子副学長)等3件のご講演の他、中国・四国・九州・沖縄ブロックの若手が参加しやすいようポスター発表も行いました。参加者37名のうち学生が14名という、若い研究者が目立つ会になりました。

共催事業として年間5回(2019年度)にわたって佐世保市少年科学館での子供科学教室への協力を行っています。小学生が対象ですが、夏休み自由研究の一環として中学生の参加もありました。8月には100名近い応募があり、教室の関係から20名~24名が限度であるため抽選になりました。次世代育成の観点から、今後も積極的に協力していきたいと考えています。

刊行事業として、日本女性科学者の会学術誌の刊行(年1回/2011年より電子化¹⁾) 日本女性科学者の会NEWSを発行(年2回)いたしました。学術誌の

原稿募集や賞の公募を行っています。事務局またはホームページへご連絡をお願いします²⁾。

■日本女性科学者の会奨励賞・功労賞

理系分野で研究業績をあげ、将来性を期待できる者で、本会の目的に賛同し、その達成に努力していると認められる本会会員に対して、年齢、国籍、性別は問わず奨励賞を贈呈しています。2020年の第25回奨励賞は、坂田麻実子氏(筑波大学)、服部梓氏(大阪大学)が受賞されました。功労賞は日本女性科学者の研究推進や地位向上等に寄与した方や、会のため尽力し顕著な功績のあった会員を対象に、賞状と記念品を贈呈しています。今年度は大島範子氏(東邦大学)、森義仁氏(お茶の水女子大学)が受賞されました。

■新型コロナ流行下での活動

例年8月には次世代育成活動として「女子中高生夏の学校」で実験展示やポスターの協力をしていましたが、今年は新型コロナウイルスの流行に伴い、縮小されwebにて開催されました。女性科学者の会の総会や理事会も、webで行っています。奨励賞及び功労賞の受賞式および記念講演も現地参加できない会員向けに遠隔配信を行いました。また、web開催等に慣れたことで、webでの勉強会も開催しました。

Web開催とすることで、対面でのやり取りができなくなってしまう一方、遠方の会員の参加が増えるなど、現地開催をしないことのメリットも感じています。

1) <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/sjws/-char/ja/>

2) <http://www.sjws.info/history/index.html>

日本植物生理学会 男女共同参画リーフレットの作成と配布

日本植物生理学会 (吉本 光希・明治大学 農学部 生命科学科・kohki_yoshimoto@meiji.ac.jp)

Creation and distribution of gender equality leaflet of the JSPP

The Japanese Society of Plant Physiologists; JSPP (Kohki Yoshimoto・Meiji Univ.)

Abstract:

One of the things that academic societies can do in gender equality is the enlightenment activity to academic members. It is important to foster an environment in which at least young peoples have hopes for this academic society and academic fields and can participate in the academic society continuously while forming their careers. The Gender Equality Committee of the Japanese Society of Plant Physiology was established in 2011 and has been supporting them through the "Luncheon Seminar" held at the annual meetings. However, at that time, there were some opinions such as "Why is gender equality necessary in the first place?" and "What is the basis?". Therefore, regarding what is known as gender equality, we should summarize what we already know, share it with our members, and send out a message that encourages young people's further participation and retention. Recently, we have created a leaflet for the purpose, so I will introduce it here.

男女共同参画において学会ができることの一つは学会員への啓発活動です。少なくとも若い方々が本学会や学問分野に希望を持ち、キャリアを形成しながら継続的に学会に参画できる環境の醸成は重要です。日本植物生理学会の男女共同参画委員会は2011年に発足し、年会における「ランチョンセミナー」の開催を通して、それらの後押しを図ってきました。しかし、その際に「そもそもなぜ男女共同参画活動は必要なのか」「根拠はなにか」などの意見も聞かれたため、男女共同参画に関して、すでにわかっていること（その多くは調査や研究に基づく事実）をわかりやすくまとめて、会員の皆様と共有し、若い方々のさらなる参画と定着を促すメッセージを発信することを目的としたリーフレット「なぜ女性研究者を増やさなければいけないのか？どうすればより多くの女性研究者が活躍できるのか？」を前日本植物生理学会男女共同参画委員長・田中亮一先生（北海道大）が中心となり作成しました。

これまでの年会アンケートにおいて、「公文書のような冊子は誰も読まない」という指摘を頂いたため、多くの会員の皆様に気軽に目を通していただけるように、会話形式で作成し、親しみやすいよう挿絵を入れました。リーフレットの登場人物の名前は、「花子（はなこ）さん」、「草太（そうた）くん」、「植木（うえき）先生」と植物に因んだ名前にし、大学の教授の植木先生の研究室で、大学院生の草太くんが友人の花子さんと話し込んでいるところに、植木先生がやってくる設定です（右下図参照）。具体的には、①女性 は理系に向いていない、というのは思い込み、②無意識のバイアス、③なぜ男女共同参画は大事な？、④ロールモデルと周囲の支援、⑤Slackのある組織づ

くり、⑥「女性」研究者が当たり前の社会、の6項目を取り上げ、実際の例や詳しい数値、そしてそれらの引用文献も含めて簡単にわかりやすい文章で紹介しています。どうすれば、無意識のバイアスを減らすことができるのか、どのような組織・システムをつくることによって、男女共同参画を進めることができるのか、議論の出発点の一つとしてこのリーフレットを活用してもらえような内容を盛り込みました。

リーフレットの印刷版は、学会年会参加予定者だった会員約1300名に配布しました。また、より多くの会員に周知するために、PDF版を本学会HPの「会員専用」コーナーにも掲載しました。印刷版はまだ約500部残っており、その活用方法について現在検討中です。女性研究者を増加させるという観点から、当事者の中学生・高校生・大学生のみならず、それら学生の親世代の男女共同参画推進への理解が重要な点の一つだとも考えており、より幅広い世代への配布方法を模索しています。



（草太くん）

植木先生、こんにちは！こちらは、私の友達の花子さんです。ちょうどよかった。花子さんは、進路のことで悩んでいるようです。植木先生は、学会の男女共同参画委員を務めておられるんですよね。お時間があれば、相談にのっていただけませんか？



（花子さん）

植木先生、初めまして。

（植木先生）

こんにちは。よく来たね。どうしたのかな？



日本数学会の男女共同参画社会推進への取り組み

日本数学会男女共同参画社会推進委員会（大山口菜都美・秀明大学・p-oyamaguchi@mailg.shumei-u.ac.jp）

Activities for the Promotion of Gender Equality in Mathematics

The Mathematical Society of Japan (Natsumi Oyamaguchi · Shumei University)

Abstract: This report gives a summary of activities conducted by the Committee on Gender Equality of the Mathematical Society of Japan. In order to allow researchers with young children to attend, the committee was involved in setting up the nursery room at the annual meeting of the MSJ. As a regular outreach activity of the MSJ to convey that mathematics is exciting, we helped with the annual summer school for middle and high-school girls, especially with experiments, practice sessions and poster presentations. In addition, we also organized a networking and information sharing session at the annual meeting of the MSJ in which any female researchers and students in mathematics could join and share their opinions and experiences.

■男女共同参画社会推進委員会の歴史

1877年設立の東京数学会に始まり、日本数学会は140年余の長い歴史を有しています。2020年4月現在、日本数学会会員総数は約5000名を数え、その内の女性会員比率は7%となっています。12名の理事のうち、女性理事は現在1名です。2015年5月には日本数学会初の女性理事長として小谷元子教授（東北大学）が就任しました。振り返れば、2002年の日本数学会による男女共同参画学協会連絡会準備会への連携・参加が、同学会内の男女共同参画への意識を高める大きな契機となりました。2002年7月には、男女共同参画社会推進委員会前身であるワーキンググループが発足し、2004年9月には、男女共同参画社会推進委員会の名称で日本数学会の正規委員会として昇格設置されています。現在の日本数学会は、ワーキンググループからの活動を発展させ、男女共同参画推進に積極的に取り組んでいます。

■学会開催時における活動

毎年、学術的会合開催時（3月開催の年会と、9月開催の秋季総合分科会）に、会場大学の一室を借用した保育室の設置を行っています。また、同委員会の企画として、女性研究者の意見交換・情報交換を目的とした「女性だれでも懇談会」を定期的に開催しています。

■女子中高生夏の学校における活動

日本数学会は、女子中高生夏の学校を主催するNPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトの賛助会員になっています。毎年、委員会における夏学担当者が夏学実行委員として参加し、さらに日本数学会として実験・実習やポスター展示に出展し、女子中高生へ数学の

魅力を伝える活動を続けています。本年度は新型コロナウイルスの影響により、女子中高生夏の学校2020は翌年に延期となりましたが、NPO主催による「女子中高生夏の学校2020オンライン」が8月16日、23日、30日にオンラインで開催され、夏学担当委員が事前の企画と当日の運営に携わりました。

■男女共同参画学協会連絡会における活動

日本数学会は、男女共同参画学協会連絡会設立時から正式加盟学会として参加しています。2013年には12期幹事学会を務め、2015年の政府各所への要望書提出では、13期幹事学会と協力して活動して参りました。今後は、要望書や基本計画の理念が結実するよう学協会の一員として積極的な活動を継続していきたいと考えています。

■女性数学者写真展の後援

2019年10月から11月にかけての約1ヶ月間、駐日欧州連合代表部にて開催された女性数学者の写真展“Women of Mathematics: A Gallery of Portraits”を後援しました。13人の女性数学者の写真と数学に対する想いを示し、数学を生み出すことの人的側面を提示して、初学者や他分野の人に数学をより身近に感じてもらうことを目的としています。

■数理女子による受験生への応援メッセージ掲載協力

高校生へ数学系進学の魅力伝えるため、女性数学者に広く呼びかけ、受験生へ向けた応援メッセージを掲載する数理女子の活動に協力しました。

今後も、真の男女共同参画が実現するよう有意義な企画を継続・発展させていきます。

日本生化学会 男女共同参画活動報告

日本生化学会（栗原達夫・男女共同参画推進委員長・京都大学）

Annual Report on the Activities for the Gender Equality Committee in the Japanese Biochemical Society (2019)

The Japanese Biochemical Society (Tatsuo Kurihara · Kyoto University)

The Japanese Biochemical Society (JBS) was established in 1925, and joined to the Japan Medical Society in 1926. The aim of JBS is to promote the exchange of information and stimulate discussion and collaboration among biochemists, and to provide a forum and meetings for scientists covering all aspects of biochemistry. The society has made every effort for maintaining a policy of gender equality and conducted its actual practice in various activities. In the following, we report the activities conducted by the Committee for Promotion for Gender Equality of the society during last year.

1. 日本生化学会について

日本生化学会は大正14年（1925年）に創立され、大正15年（1926年）に日本医学会に加盟しております。学会員は約7,600名で、日本語雑誌「生化学」を年6回、英文誌「The Journal of Biochemistry」を年12回発行しています。

総会員数のうち、女性会員が22%の割合を示しており、女性会員比率はここ数年変化がありません。男女共同参画推進への取り組みとしては、2003年に正式加盟学会となりました。学会内では、2005年に男女共同参画委員会を正式に発足し、2007年に第1回目の男女共同参画ランチョンセミナーを開催しました。それ以降、毎年学会大会においてランチョンワークショップを開催し、継続的な男女共同参画活動を進めています。

2. 活動報告

（1）大会でのランチョンワークショップの開催

2019年度の第92回日本生化学会大会の学会企画として、本会男女共同参画推進委員企画ランチョンワークショップを開催し、「日本の科学を考えるー新たな男女共同参画を求めてー」をテーマに議論をしました。

講演者にはJST 副理事 ダイバーシティ推進室長の渡辺美代子氏をお招きし、以下の内容について、多大な統計データ等を用い講義を行っていただきました。

「日本の科学における男女共同参画は、男女共同参画基本計画が決定された2000年頃から学会を中心にその活動が活発に行われてきた。当初はあくまでも男女平等を目指すことが中心であったが、近年は男女が共に研究に参画することの価値が世界中で注目されるようになってきた。また生物医学分野では、例えば薬の効果が男女によって異なるなど、性差を考慮した研究開発の必要性を示す結果が多々発表されてきた。このような中、日本は性差研究も含めて男女共同参画が遅れていると言われていたが、日本独自の視点による取り組みを進めることはできないだろうか。このような観点から新しい科学の方向を探り、議論したい。」

（2）男女共同参画学協会連絡会

正式加盟学協会として運営委員会およびシンポジウムへ参加しています。

（3）理事者の男女比率

本会では2年に1度、代議員選挙が執り行われ、その中から執行部役員を選出しています。昨年度は細則の変更を行い理事数の女性比率を挙げました。しかしながら会員の学生での女性比率は40%ですが、代議員では10%、評議員に至っては7%となっており、理事会の施策として女性の代議員や評議員の人数を増やす取り組みを行っています。

日本生態学会 男女共同参画活動報告

日本生態学会キャリア支援専門委員会

Recent activities for the gender equality and encouraging young scientist career in Ecological Society of Japan (ESJ).

Committee of supporting career, Ecological Society of Japan

Abstract: Ecological Society of Japan (ESJ), founded in 1953 to promote researches in ecological areas, has been concerned with gender equality and support for young scientists. At the annual meeting of the society, nursery has been set up since 1999, and forums that focus on supporting gender equality and young scientist careers have been held since 2008. The society has also provided the science educational programs in ecology for female high school students in summer since 2008. The Committee of Supporting Career was established in October 2010 and acts for supporting both gender equality and young scientist careers.

日本生態学会は、1953年に設立され、生態学の進歩と普及をはかることを目的とし、学術雑誌の発行や年次大会の開催の他、自然保護に関する内閣への要望書の提出など、さまざまな活動を展開している。2019年における会員総数は 4023人（うち女性 995人、比率 24.7%）である。男女共同参画に関する活動としては、2007年の第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムから学会として参加し、男女共同参画学協会連絡会の主催する大規模アンケート（第2、3、4回）に協力、2008年からは、女子中高生夏の学校に参加している。2010年3月には、男女共同参画や若手研究者のキャリアパスの問題に特化した専門委員会を新設し、その活動を強化することが総会で決議され、2010年10月にキャリア支援専門委員会が発足した。男女共同参画および若手研究者のキャリア支援に関する活動を一体的に行っている。以下にこれまでの生態学会における主な活動について報告する。

◆全国大会開催時における託児所の設置。日本生態学会では、全国大会を年1回開催しており、毎年約2000人の参加がある。大会開催時における託児所の設置は、第46回大会(1999年)から始まった。当初は有志により設置であったが、続く第47回大会(2000年)では大会本部により設置され、第48回大会(2001年)では学会として継続して託児室を設置するという方針が全国委員会と総会で確認された。以後、毎年開設されており、利用者数も増加傾向にある。現在は託児費用の一部を学会が補助している。

◆全国大会開催時におけるファミリー休憩室の設置。2013年より全国大会時に子連れの大会参加者が予約なし・無料で利用できる「ファミリー休憩室」を設置している。オムツ替えや授乳の他、親子での昼ご

はんや、おもちゃや絵本で遊ぶ等ででき、利用者には毎年大変好評である。

◆「女子中高生夏の学校～科学者・技術者のたまごたちへ～」の共催。2008年より、野外観察を中心とした実習を提供。河川敷や開催地である国立女性教育会館敷地内などで、身近な自然の生物・生態の観察をテーマとして実施している。

◆男女共同参画と若手キャリア支援のためのフォーラムの開催。2008年より毎年、全国大会時に男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを開催している。2019年は以下の2つのフォーラムを開催した。

1) 男女共同参画ランチョンフォーラム「生態学会参加者の年齢・ジェンダーバランスの変化：参加者の多様性評価を未来につなぐ」：2011年天津大会および2017年東京大会の属性調査の結果から、生態学会における若手の動向と男女共同参画の実情について紹介し、学会としての今後の支援の方向性について会場参加者からのヒアリングを行い議論した。

2) キャリア支援フォーラム「その時どうした？人生の選択の裏側を聞いてみよう」：四名の博士号取得者に、進学や就職、転職、結婚・子育てなどの人生の節目において、どのような判断を基にキャリアを選択してきたのかを振り返ってもらい、成功例だけでなく、工夫や失敗、デメリットも含めて講演していただいた。

◆キャリア支援のための企業ブースの設置。キャリアパス多様化促進の一環として、2012年より、全国大会において企業ブースを設置し、企業説明会や企業パンフレットの展示をおこなっている。

日本生物物理学会における男女共同参画および若手支援の取り組み

日本生物物理学会（岡田真里子・大阪大学・mokada@protein.osaka-u.ac.jp）

Efforts for Promoting Equal Participation of Men and Women and for Encouraging Young Scientists in the Biophysical Society of Japan

The Biophysical Society of Japan (Mariko Okada · Osaka Univ. · mokada@protein.osaka-u.ac.jp)

Eight members of the Biophysical Society of Japan (BSJ) form a committee to plan and organize the activities of the society related to the promotion of equal participation of men and women and for encouraging young scientists. This year, the committee will 1) organize the symposium to discuss equal participation of men and women and support young researchers, 2) organize the briefing session to support job hunting for young researchers, 3) select winners of the early career award in biophysics, and 4) participated in the summer school for girls at high school presenting a poster.

日本生物物理学会では、男女共同参画と若手研究者の次世代人材育成を重要課題とし、9名の委員で構成される男女共同参画・若手支援委員会により、学会としての活動を実施している。男女共同参画において指摘される問題の多くは、男女を問わない若手研究者全体の研究環境に関する問題であるという認識から、委員会名に「若手支援」を入れ、若手全体を支援することに力を注いでいる。令和2年度には、以下の4点の活動を計画している。

- 1) 男女共同参画・若手支援シンポジウム開催
- 2) キャリア支援説明会の開催
- 3) 学会年会における若手奨励賞の実施
- 4) 女子中高生夏の学校における展示

1) 男女共同参画・若手支援シンポジウムの開催

当学会では、毎年年会でシンポジウムを開催している。シンポジウムは、通常、学会の費用負担によるランチョンセミナー形式を取り、毎回多数の参加者を集めている。昨年度の年会（2019年9月24-26日）では、「20代、30代を駆け抜けて：伝えたいこと、聞きたいこと」というタイトルでシンポジウムを開催し、多様なキャリアハブを持つ3名の発表者にキャリアのターニングポイント、重要な選択などを紹介してもらい、生活とキャリアの両立などについて、学生や若手研究者と討論を行った。

2) キャリア支援説明会の開催

昨年度の年会では、若手研究者や学生の今後のキャリア形成の一助となるように、キャリアコンサルタントとして(株)アカリクの方を迎えて、博

士課程の大学院生、ポスドクの就活ガイダンス、及び就職相談を行った。多くの参加者から概ね好評を得ており、今年度はコロナの影響で、オンラインでの同様の説明会を開催する予定である。

3) 年会における若手奨励賞の実施

当学会では、平成17年度より優れた研究発表を行った35歳以下の研究者に対して若手奨励賞を授与する取り組みを行っている。平成28年度からは、若手招待講演で選考された特に優秀な研究者に授与する若手奨励賞5名に加え、それ以外の優秀な若手招待講演者に授与する「若手招待講演賞」を新設し、5名に授与している。また、応募資格を改訂し、出産等のライフイベントを経験した方の応募条件を緩和している。今年、令和2年度の年会では総計27人の応募者があった。さらに、平成28年度から年会において「学生発表賞」の表彰も行っている。昨年度は131名の応募があり、40名の学生に賞を授与した。

4) 女子中高生夏の学校における展示

本年度はコロナの影響で開催が延期されたが、本学会は、例年“女子中高生夏の学校（夏学）”にポスターを出展し、女子高校生、高校の先生などに対して、学会の活動を紹介している。ポスター作成には、「生物物理若手の会」メンバーの全面的な協力を得、大学院学生会員による説明も行っている。本ポスター説明により、生物物理の研究分野の紹介やタンパク質や細胞の働き等の具体的な研究テーマに触れ、理解を深めてもらっている。また、職業としての研究者や、理系への進路相談など、特に高校生に関しては、今後の進路を考えるきっかけになっている。

活動報告：日本生理学会男女共同参画推進員会

日本生理学会男女共同参画推進委員会（齋藤 康彦・奈良県立医科大学・0744-29-8827）

The activity reports of “Promotion of Gender Equality” and “Women in Physiology of Japan (WPJ)” in the Physiological Society of Japan

The Physiological Society of Japan (Yasuhiko Saito・Nara Med. Univ.・0744-29-8827)

Abstract: In 97th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan (planned to be held in March 18th, 2020), we organized a luncheon symposium entitled “Now is the time to make use of your power! Importance of diversity in research life”. Although this concept has been emphasized in Japan, there are still gender gaps due to various life events and Unconscious Bias. Two speakers, Drs. Date (Miyazaki University) and Oishi (Nippon Medical School) were going to give lectures on this issue. Their titles were “Let's understand unconscious bias” and “Steps for your own successful career”, respectively. After general discussion, we planned to take an electronic questionnaire.

The symposium organized by Women in Physiology of Japan (WPJ) aims to encourage potent and young woman physiologists. In this symposium, WPJ spotlighted four talented women researchers and supported to present their recent research results obtained using optically manipulating molecules. We believe that this symposium was beneficial for all physiologists.

We and “Young Physiologists” committee proposed to establish a grant for researchers to promote their participation in the conferences by defraying a part of cost for hiring a sitter to keep their children in their home or neighborhood. The proposal has been accepted by the Physiological Society of Japan.

第 97 回日本生理学会大会、3/17-19、別府) 男女共同参画推進委員会企画ランチタイムセッション(3/18) 誌上開催

本セッションタイトルは「今こそ自分を活かす時代！研究生活におけるダイバーシティ（多様性）の重要性」で、齋藤康彦委員長、西谷(中村)友重委員が計画し、演題は1)「無意識のバイアスを意識しよう」伊達紫先生(宮崎大)、ならびに2)「2600 とおりのしあわせキャリア」大石由美子先生(日本医大)という興味深いものだった。座長は西丸直子先生(大分大・医)と齋藤委員長であった。

昨今、ダイバーシティ（多様性）の重要性が叫ばれているが、女性研究者ではライフイベントや無意識の偏見(Unconscious Bias)などにより昇進が遅れるなど、いまだに男女間で格差があることが実状である。本セッションでは、卓越した研究者・教育者でありながら、ダイバーシティ推進にも深く貢献されてきた先生方を演者に迎え、ご自身のキャリア形成のほか、ダイバーシティ・男女共同参画推進への取り組みと日本の現状について、また臨床医学と基礎医学の間のダイバーシティなどについてもお話しいただき、総合討論、聴衆から電子アンケートの予定であった。この構成は今後遠隔配信においても実施可能である。

第 97 回日本生理学会大会企画:WPJ シンポジウム

日本生理学女性研究者の会(WPJ)は、女性生理学者の活躍を支援することを目標としている。WPJでは、若手人材の発掘や斬新な考えで分野を牽引する女性研究者に発表の機会を与え、その研究活動を支援するために、女性研究者によるシンポジウムを提案している。

第 97 回日本生理学会大会(大分)では、最近発展が目覚ましい「光操作技術」にスポットを当てて、この技術により、嗅覚回路、攻撃行動、睡眠覚醒などの分野で独創的で優れた業績を挙げた女性研究者を講演者とするシンポジウムを企画した。光操作の有用性とそれにより発見された新事実を理解し、今後の発展が期待できる内容であったと思う。残念ながら誌上開催となり、シンポジウムに集い、話し合う事が出来なかったが、このシンポジウムにより、これからを担う女性研究者と、彼女らによる新発見を若い学生や臨床医を含む学会員に広く理解してもらう機会となったと考えられる。

日本生理学会若手の会との共同提案

若手の会と共同で、子育て中の研究者に積極的な学会参加を促す施策として、在住地域のベビーシッター費用をサポートするグラントの創設を提案し、学会内で了承された。今後実施に向けて詳細を詰めていく予定である。

日本蛋白質科学会・男女共同参画活動報告

白木 賢太郎（筑波大）、光武 亜代理（明治大）、茶谷 絵理（神戸大）、日本蛋白質科学会ワーキンググループ

Activity Report of Working Group on Gender Equality

Kentaro Shiraki, Ayori Mitsutake, Eri Chatani, and Working Group on Gender Equality of Protein Science Society of Japan

Protein Science Society of Japan, PSSJ, was established on April 1st, 2001 based on the three organizations of Protein Engineering Society of Japan, Forums on Protein Structures and Principles of Protein Architecture. The society are with about 1300 members. We have invited lecturers who are active in various places to give lectures and panel discussions in line with the annual conference every year since 2003. PSSJ has established a nursery school with the annual conference since 2005. We have joined poster presentations at high school girls' high school, and create opportunities for faculty members and graduate students to share the fun of protein research.

日本蛋白質科学会は、2001年4月に設立した会員約1300名の学会です。現在、学生会員と一般会員の女性の割合は、2019年度にはそれぞれ22%と18%であり、微増傾向です。男女共同参画学協会連絡会には、2003年11月から参画しています。

2003年以降、男女共同参画ワーキング・グループ（後藤祐児（阪大）、白木賢太郎（筑波大）、田口英樹（東工大）、長野希美（産総研）、山縣ゆり子（熊本大））で、年会を中心とした活動に取り組んできました。現在はメンバーが増え、下記のメンバーで活動しています。

赤澤 陽子（産総研）、加藤 晃一（自然科学研究機構）、北尾 彰朗（東大）、栗栖 源嗣（大阪大学）、清水 敏之（東大）、白木 賢太郎（筑波大・担当理事）、鈴木 智香子（第一三共）、田口 英樹（東工大）、茶谷 絵理（神戸大）、禾晃和（横浜市大）、本野 千恵（産総研）、姚 閔（北大）、養王田 正文（東京農工大）、光武 亜代理（明治大・担当理事）
用紙サイズ A4判 縦 (1枚)

ワーキンググループでは、学会の年会にあわせて、2003年から毎年、学会内外で活躍する講師を招き、男女共同参画や若手の活躍などに関する講演やパネルディスカッションを主催しています。昼のランチョンセミナーとして開催しており、2016年からは若手育成との共催で行っています。

例年100名以上の参加者があります。2019年は130名でした。

日本蛋白質科学会では、2005年の年会から保育所を設置しています。子育てをしている研究者に、研究との両立をサポートしています。

毎年、女子中高生夏の学校でポスター発表をし、教員と大学院生を中心にタンパク質の研究の面白さを伝える機会をつくっています。

◆2019 年度の主な活動

1、第 19 回蛋白質科学会年会/第 71 回細胞生物学会大会合同年次大会 男女共同参画推進・若手研究者育成委員会企画ランチョンワークショップ。令和 1 年 6 月 26 日(水)「あるがままで道を拓こう」 講師 白壁 恭子(立命館大学)、南後 恵理子(京都大学)

2、年会での託児所の設置。3 日間、各 2 名、のべ 6 名の利用

3、女子中高生夏の学校 2019~科学・技術・人との出会い~(夏学)の参加。令和 1 年 8 月 10 日(土)、国立女性教育会館「生命を支える蛋白質のかたちと働き」

公益社団法人日本動物学会 男女共同参画活動報告

日本動物学会男女共同参画委員会 担当理事&委員長: 小柴和子(東洋大)

委員(第10期): 矢澤隆志(旭川医大), 佐藤陽子(東海大), 中内祐二(山形大), 伊藤篤子(東京高専), 向後晶子(群馬大), 佐藤恵(日本大), 柴小菊(筑波大), 広瀬慎美子(東海大), 吉田薫(桐蔭横浜大), 佐倉緑(神戸大), 杉浦真由美(奈良女子大), 吉川朋子(近畿大), 関口俊男(金沢大), 長田洋輔(岡山理科大), 彦坂暁(広島大), 光永中坪敬子(広島大), 山口陽子(島根大), 金子たかね(九州大), 荻野由紀子(九州大)
事務局: zsj-society@zoology.or.jp

Annual report on the activity of the Zoological Society of Japan for equal participation of men and women in science

The Zoological Society of Japan

The Zoological Society of Japan (ZSJ) is an academic society whose purpose is to contribute to the development and dissemination of a wide range of zoological studies. It has been 20 years since ZSJ held the 1st annual meeting to discuss diverse issues facing women scientists. The annual meeting is now called “ZSJ Meeting on Equal Participation of Men and Women in Science”, providing a forum to discuss wider issues concerning work life balance and research activity of scientists irrespective of gender.

<公益社団法人日本動物学会(ZSJ)について>

本学会は2012年に公益社団法人となり、2018年に140周年を迎えた。動物科学研究の発展と普及を目的とし、すべての動物を対象に、すべてのアプローチを包含しつつ「生物の共通原理と多様性を理解する」ことを目指す学術団体である。

<男女共同参画の活動>

女性研究者奨励OM賞の公募

2002年に女性会員の動物科学研究を奨励する賞を設立して表彰をしてきたが、2013年から対象を「動物科学を研究するすべての女性研究者」に拡大した。
<2020年度の受賞者>

内田 有希 奈良女子大学大学院生活環境科学系 助教
「メンツールによる褐色脂肪細胞活性化に対するエストラジオール作用メカニズムの探索」
竹田 典代 広島大学大学院統合生命科学研究科
日本学術振興会特別研究員RPD
「光刺激を介したクラゲ卵成熟誘起ホルモンの同定と配偶子放出機構」

学会組織

2001年に将来計画委員会で男女共同参画事業を開始し、第1回女性研究者懇談会を開催した。2003年から男女共同参画委員会が独立し、2008年に男女共同参画担当理事を配置し、2013年より大会時の企画は男女共同参画懇談会となった。

動物学会男女共同参画委員会の活動

①大規模アンケート動物学会会員データ解析

第2回から第4回の大規模アンケートの動物学会会員データ比較を一部について試み、年次大会における男女共同参画懇談会で紹介した。3回分のアンケート結果を比較することによって、2011年に設定した目標の達成について検証すると共に、目標の再設定に取り組む。

②年次大会における男女共同参画懇談会の開催

2001年より年次大会において男女共同参画懇談会を実施してきたが、本年度で20回を数えた。COVID-19の感染拡大により年次大会がオンライン開催となったことに伴い、初のオンライン(zoom)懇談会となり、65名の参加があった。話題提供として大規模アンケート動物学会会員データ解析結果、キャリアパス意識調査と支援を紹介した。ブレイクアウトルームを使ったグループディスカッションは、参加者の希望に応じてキャリアパスA・B、共働き・単身赴任、介護、育児・テレワークの合計4テーマ、5グループで行った。オンラインではプログラム構成上時間が足りないことが毎年悩みであったが、今回はプログラムの最後であったこともあり、いったん終了後にルームに戻ってディスカッションを再開するなど遠隔開催のメリットをいかして活発に議論できた。アンケート回答は38名からあり、87%が有益・非常に有益と答え、ほとんどの参加者が意義を見出していた。若手間や若手とPI間の交流機会の提供、公的な働きかけへの必要性など、新たにに取り組むべき課題が多く示され、実りの多いものとなった。

ランチョンセミナー ～2019～

日本比較内分泌学会 男女共同参画委員会

Luncheon seminar ～2019～

The Japan Society for Comparative Endocrinology

(e-mail; namiya@kitasato-u.ac.jp)

A social movement of ‘gender equality’ aims to establish a society in which individuals can choose their own lifestyle regardless of gender and live by respecting perceptions and worldviews of one another. During the 44th Annual Meeting of the Japan Society for Comparative Endocrinology, a luncheon seminar was conducted to propose a possible future where everybody can enjoy their private and work lives regardless of their gender. In this seminar, we invited two speakers to hear their current lifestyles with enjoyable and fulfilling works and private lives from their own experience. We hope that this symposium would provide an opportunity to reconsider the meaning of “gender equality”.

2019年日本比較内分泌学会大会において、3回目となる男女共同参画委員会企画ランチョンセミナー「ゼロから始める男女共同参画 Gender equality」を開催した。本学会におけるランチョンセミナーには学生会員が多く集まる点を利用し、今回は私生活も仕事も楽しめる未来が男女問わず若い人たちに待っているというメッセージを伝え、性別関係なく研究者を目指す学生の後押しになればと考えた。今回は、馬谷千恵先生（東京大・院理）と、飯田敦夫先生（名古屋大）に“人生の楽しさ＝仕事の楽しさ＋私生活の楽しさ”についてご講演いただいた。さらに、日本比較内分泌学会における男女共同参画であるからこそやるべきことは何か、を考えることを目的としたアンケートも行ったので、その一部もご紹介する。

＜セミナーを聞いて研究者を目指してみようというポジティブな印象を受けましたか？＞

両演者のさまざまな問題（子育てとの両立、研究での困難さ）と向き合いながらもポジティブで、研究がとにかく楽しいという熱い思いが強く感じられた。アンケートに回答してくださった学生のうち82%が研究者の道も良いかも、私生活との両立の一例を知れて良かった、研究を続けてみようかなと思えた、とポジティブに受け止めていた。一方でポジティブな印象を受けなかったと回答した方の中には「やはり定職に就くのは簡単なことではないと思う」という意見があった。

＜日本比較内分泌学会に男女共同参画は必要だと思いますか？＞

前年のランチョンセミナーで話題に挙がった、本学会だからこそできる男女共同参画とは何か？という問いに対する答えにも繋がると考えて作成した質問である。その結果、79%の方が必

要（男女共同参画に関する問題が残っている）という回答であり、ポストク問題・委員会メンバーの女性比率を高める・女性が本分野に残りにくい理由を考える必要性、学会内でもアンケート調査や追跡調査を行う必要性・性別関係なく全員が過ごしやすく働きやすい方向へ動くように働きかけてほしい・男女共同参画は女性だけの問題ではない、男性視点で考えることも本学会では可能かもしれない、などさまざまなコメントがあった。

一方で、男女共同参画に関する問題は大まかに解決した・特に問題を感じていないので不要、と回答した18%の会員のうち64%が20代の学生であった。先輩方の努力により若い世代から意識改革がなされ、性別関係なく過ごすことができていることを期待した。しかし、学生による回答のうち、男女共同参画は不要と回答したのは26%であった。26%をどう捉えるかは難しいが“gender equality”の浸透にはまだ時間が必要であると考えられた。

＜これからの男女共同参画の在り方＞

時代の流れと共に対策も変えていく必要があり、そのためには、性別、年齢関係なく身近な人をサポートするという気持ちを通して、男女共同参画に関する意見交換を行うことが重要である。年齢や性別の違いにより、理解しづらいこともあると考えられるが“ゼロからはじめる”という気持ちで、まずは相手の立場などを知ることから始めれば、本当に必要とされている男女共同参画が見えてくると考えられた。約8割の方が「男女共同参画に関する問題が残っているので必要」というご意見であったことを意識し、今後はさらに学会員の意見を反映させながら本学会ならではの問題に取り組んでいく必要があると感じている。

日本物理学会・男女共同参画推進委員会活動報告

日本物理学会（野中千穂・名古屋大学・nonaka@hken.phys.nagoya-u.ac.jp,
曹基哲・お茶の水女子大学・cho.gichol@ocha.ac.jp)

Recent Activities of Gender Equality Promotion Committee in the Physical Society of Japan

*The Physical Society of Japan (Chiho NONAKA, Nagoya University, nonaka@hken.phys.nagoya-u.ac.jp
Gi-Chol CHO, Ochanomizu University, cho.gichol@ocha.ac.jp)*

The recent activities of the Gender Equality Promotion Committee in the Physical Society of Japan (JPS) are reported. Yonezawa Fumiko memorial award for women in science award has been established, and the 1st winners were selected. As the educational activity, the committee members have joined the summer camp for junior-high and high-school girls. In the annual meeting of JPS, the luncheon meeting has been planned (but was cancelled to prevent the spread of covid-19 infection). Also, childcare room has set up in the meetings.

日本物理学会は 1877 年に創立された会員数が約 17000 人の学会である。本学会の女性比率は創立当初からは増加したものの、2000 年ごろから現在まで約 10%程度で頭打ちとなっている。2002 年に発足した男女共同参画推進委員会では、今後さらに多くの女性研究者が男性研究者と共に活躍し、物理学がますます発展するよう様々な活動を行っている。以下に、この 1 年間の主な活動内容を報告する。

【1】米沢富美子記念賞の設立・第 1 回受賞者決定

物理学会では女性会員の活躍を讃え、奨励するために 2019 年度に米沢富美子記念賞の設立を決定した。2020 年度にはその第 1 回募集を行い、5 名の女性会員に賞を授与した。

【2】次世代教育支援

2005 年度より本学会員を「女子中高生夏の学校」に実行委員会およびプログラム担当委員として派遣している。2020 年度は新型コロナウイルス感染予防のためオンライン形式に変更され、8 月 16、23、30 日の 3 日間で開催された。本年は運営やプログラムが変則的であったが、本委員会の担当委員 2 名が協力し、物理学会の活動内容や物理学専攻後のキャリアパスの広がりなどを女子中高生に紹介した。また、2006 年度より継続的に「女子中高生のための関西科学塾」の支援をしている。2010 年度からは協賛金の形で支援をしている。

【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析 WG、シンポジウムに参加している。また、

物理学会は、第 17 期学協会連絡会の幹事学会として第 17 回シンポジウムを企画した(10 月 17 日、お茶の水女子大学、台風接近のため中止)。

【4】国際交流

2019 年 11 月 17-21 日に開催された APPC2019 (14th Asia-Pacific physics conference)に参加し、Women in Physics のセッションで男女共同参画推進委員会における活動を報告し、各国の現状や取り組みなどについて意見交換を行った。

【5】秋季・年次大会での託児室の開設

物理学会では、毎年春と秋に全国規模の学術講演会を開催している。どちらの大会も合計約 5,000 名の研究者が参加し、3,600 件におよぶ講演と活発な討論が行なわれる。大会には、託児室が設置され、事前に申し込んで希望すれば、誰でも利用できる。託児室の運営は昨年度より本委員会が主体となっている。託児室の終了後は、利用者に運営向上のためのアンケートを実施し、その内容を委員内で共有することで、より一層の利便性の向上を目指している。

【6】年次大会でのシンポジウム開催

2020 年 3 月の日本物理学会 第 75 回年次大会にて、男女共同参画推進委員会主催の昼食提供型のミーティング形式でインフォーマルミーティングを企画した（新型コロナウイルスの影響で現地開催中止）。

【7】広報活動

物理学会誌と HP(<http://danjo.jps.or.jp/>)に委員会報告やイベントごとに活動報告を掲載している。

日本森林学会 ダイバーシティ推進活動報告

日本森林学会（竹内啓恵¹ 玉井幸治² 及川洋征³ 岩永青史⁴ 片桐奈々⁵ 木村 恵² 鈴木智之⁶ 武 正憲⁷ 南光一樹² 山川博美² 高山範理^{2・1} 全国森林レクリエーション協会² 森林総合研究所³ 東京農工大学⁴ 名古屋大学⁵ 岐阜県森林研究所⁶ 東京大学⁷ 筑波大学¹ ht204351@nodai.ac.jp² hanri@ffpri.affrc.go.jp³）

Annual report of diversity promotion at the Japanese Forest Society

*The Japanese Forest Society (Hiroe TAKEUCHI¹ Masanori TAKAYAMA² · ¹Japan Forest Recreation Association
²Forestry and Forest Products Research Institute ¹ht204351@nodai.ac.jp ²hanri@ffpri.affrc.go.jp)*

Abstract: The action of the Japanese Forest Society (JFS) holds for gender equality began with the setting up of nursery rooms during our annual congress in 2002. We placed a director of gender equality in 2003 and joined the membership of EPMEWSE in 2004. In the same year, we prepared a secretariat of gender equality. In 2018 our division name “gender equality” was changed to “diversity promotion.” The standing committee set up in May 2020. Our actions are following: (1) organizing a diversity promotion event and setting up nursery during the annual congress, (2) a PR promotion for members of JFS on our website and an e-mail magazine, and by posting our action reports in our academic journal. (3) activities of the diversity promotion committee; we exchange information and talk about the next annual congress diversity promotion plans.

1. 一般社団法人日本森林学会について

日本森林学会は、1914（大正3）年に創立された、森林・林業を総合的に扱う日本で唯一の学会です。森林学の進歩と普及を図り、学術の進行と社会の発展に寄与・貢献する目的で、学術大会での研究発表や会員同士の交流、国内外の関連学会との連携を行っています。正会員および学生会員は約2,280名で、そのうち女性の割合は約19%です。前年度に比べ女子学生会員数は微減したものの、一般の女性会員数は増加している状況です。

2. 男女共同参画・ダイバーシティ推進活動の経過

2002年度の大会時に保育室を設置する試みから始まり、2003年に男女共同参画理事が設置されました。2004年冬に男女共同参画学協会に正式に加盟し、同年秋に男女共同参画主事が設置されました。その後、2014年の100周年記念事業（第125回大会）で「森林分野におけるダイバーシティ宣言」を採択し、2018年5月には「男女共同参画」部門が「ダイバーシティ推進」に変更されました。同年12月に、女性、外国人、障がい者、LGBT等の属性を有する様々な会員が円滑に学会活動を参画できる環境を整えていくことを目指し、学会内に臨時委員会を設置しました。さらに2020年5月に常置委員会に組織変更し、継続的な取り組み体制を整備したところです。

3. 学会大会におけるダイバーシティ推進活動

◆学会大会の託児室設置および学会企画・ダイ

バーシティ推進セッション「森林学会におけるダイバーシティの実現～だれもが楽しく参加できる学会・大会を目指して～」の開催

日本森林学会大会は、毎年度3月末に開催されます。2020年の大会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により学会自体が中止となったため、託児室の設置および他学会と連携して企画していた当該セッションも中止となりました。

4. 日常におけるダイバーシティ推進活動

◆広報活動

男女共同参画学協会連絡会から届く関連情報や委員会主催のイベントの告知、報告等を学会ウェブサイトに掲載するとともに、毎月会員へ配信されるメールマガジンで周知しています。また、普及啓発のため、学会大会で開催されたダイバーシティ推進の活動報告や大会後に実施した託児室利用者へのアンケート報告を取りまとめ学会誌にて報告しました。

◆ダイバーシティ推進委員会活動

本年度より森林学会ダイバーシティ推進委員会は常置委員会になりました。これは、担当役員・委員の交代に関わらず、本学会にて継続的・安定的にダイバーシティ推進の取り組みが可能になったことを意味します。これを機に、委員会内でもメーリングリストの作成やWeb会議体制を整えるなど、委員間の情報共有・議論を活性化させており、現在、本年度の学会大会に向けて他学会と連携したコロナ禍におけるダイバーシティ推進企画を検討しています。

地球電磁気・地球惑星圏学会活動報告

地球電磁気・地球惑星圏学会 男女共同参画担当運営委員

Annual report for promoting equal participation of men and women in SGEPS

Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS)

Abstract:

Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS) covers Atmospheric Sciences, Space electricity, Earth and Planetary surface physics, and Solid earth geodynamics fields. 749 members are involved with 12 % female members in SGEPS (September 2020). Since July in 2003, SGEPS had been belonging to EPMEWSE as an observer committee, to establish working group for promoting equal participation of men and women in SGEPS. In April 2005, SGEPS was formally affiliated with EPMEWSE. This is an annual report of SGEPS activities related to promotion of equal participation during the year from October 2019 to September 2020.

<2019年10月～2020年9月の活動について>

地球電磁気・地球惑星圏学会（以下、SGEPSSと略す）は、超高層物理学、プラズマ物理学、大気力学・化学、固体地球科学、惑星科学、宇宙科学など多様な専門領域の会員（2020年9月時点での会員数：749名、女性比率：約12%）で構成されている。2003年7月に男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟した直後、これに対応する形で男女共同参画検討・提言WGを設置し、2005年4月に正式加盟した。本学会の2019年10月から2020年09月までの活動について、下記に報告する。

<ダイバーシティ推進ワーキンググループ(WG)の発足に向けて>

2019年10月23日に「男女共同参画新ワーキンググループ設立準備タスクフォース(TF)」が発足し、2020年5月25日に「ダイバーシティ推進WG」が設立された。ダイバーシティ推進WGでは、主に以下の3点を目指し、今後、アンケート等による会員の現状把握や会員間の問題共有や意識改革への取り組み等の活動を行う予定である。

- ・ 会員のダイバーシティ（ジェンダー・年齢・出身、障がいの有無、価値観・信条、雇用形態、家族形態等の多様性）を踏まえ、それぞれのニーズに応じて必要とされる

学術活動上の環境の整備をはたらきかける。

- ・ 会員相互にダイバーシティを尊重し、各々の能力を存分に発揮できる風土づくりを進める。
- ・ 情報共有・発信や連携により、基盤となる個々の会員の研究や雇用・労働環境の向上に役立てる。

ダイバーシティ推進WG設立を持って、2004年に設置された「男女共同参画提言ワーキンググループ」は発展的解消された。

<保育室の斡旋および利用料の補助>

2005年の秋学会で初めて保育室を設置して以来、毎年地方で開催される秋学会において、保育室の設置・斡旋、利用料金補助を実施している（利用料金補助：学会正会員の場合全額補助、非会員の場合500円/1時間となるように補助、ただし共に食事、保険料などは除く）。2019年度の秋学会（2019年10月23日～27日開催、場所：熊本市国際交流会館）では、有限会社「ベビーシッターハーモニ」を利用したサービスを会員に提供し、2家族3名の乳幼児の利用があった。引き続き、乳幼児同伴の会員のための託児ルームの斡旋、補助を継続する予定である。

日本神経科学学会 2020 年度の活動報告

日本神経科学学会 (渡部文子・東京慈恵会医科大学・awatabe@jikei.ac.jp)

Activity Report in 2020, The Japan Neuroscience Society

The Japan Neuroscience Society

(Ayako M. Watabe, Jikei University School of Medicine, awatabe@jikei.ac.jp)

日本神経科学学会は、脳神経系に関する研究の推進を目的に1991年に設立された団体であり、現在約6000名の会員で構成されています。2017年より旧男女共同参画委員会を発展的に解消し、ダイバーシティ対応委員会が発足しました。今年度の大会は2020年度7月に神戸に開催予定でしたがCOVID-19感染拡大によりweb開催となり大きな変化となりました。このような状況への対応を含め同委員会の活動について報告致します。

1. 子育て中の研究者の活動支援

本学会における過去7年間の年次大会参加者の男女比を調べたところ、女性の割合が23.93→24.82→26.58%→25.38%→26.67%→26.63%→28.16%とわずかながら増加し、その後ほぼ横ばいの状態でしたが、今年度のweb開催ではわずかながらさらに増加しました。また、年代別に見てみると、特に20代の女性参加者がこの7年間で1.9倍に増えています。参加が増えている20代～30代女性が年次大会に参加しやすい環境を整備することは、女性が今後も研究活動を継続するために重要であると考えられます。本学会では2004年以来、継続して大会中の託児室を設営しており、子供と一緒に使える休憩室も設置しています。今後、ポスター会場の一角における親子スペースの設置等を含め、このような取り組みを次年度以降も継続する予定です。

2. Web開催大会における特色と今後の課題

今年度のweb開催で特筆すべき点として、全体の参加人数が大幅に減った点(昨年度5155人→2532人)、一方で20代の参加者が男女共に急増し

た点(昨年比男性1.4倍、女性1.3倍)、さらに40代の女性比率が急増した点(昨年23.74%→27.09%)が挙げられます(ただし年代別解析については事前登録者のみ)。原因等の詳細な分析については専門学会による報告を待ちますが、学生・若手研究者は、交通費等の不要なweb会議に積極的に参加したことを反映していると考えられます。また40代女性比率についても今後の分析が必要ですが、40代女性は職場でも中間管理職的立場にあり、家庭でも受験生や介護などを抱えたワークライフバランスの厳しい中、出張を伴う活動が困難な状況を反映するのかもしれませんが。女性研究者支援では未就学児を抱える比較的若手への支援が中心である一方、今後はこうした世代への対策も必要かと考えます。

3. 大会中のダイバーシティ対応委員会企画

日本神経科学学会ではダイバーシティ対応委員会主催ランチョン企画として「研究環境のダイバーシティが生み出すイノベーション～ジェンダーのイノベーションの現状と将来」(講演者: 隠岐さや香先生、名古屋大学教授)を企画していました。大会web開催の決定後、演者・委員会でのように対応するか協議した結果、やはりセミナー前後でのフロア交流等も重要である点を鑑み、来年度大会に延期することと決定しました。来年はぜひ現地で、さらにコロナ禍による女性研究者のあり方も含めて広くディスカッションしたいと考えています。

ダイバーシティ対応委員会としての活動も4年目に入り、委員のメンバーについても多様性を高めて行きたいと考えております。

日本バイオイメーシング学会 活動報告（2019年10月～2020年9月）

日本バイオイメーシング学会男女共同参画委員会

（洲崎悦子・就実大学、朽津和幸・東京理科大学、田中直子・大妻女子大学、
橋本香保子・千葉工業大学、樋口ゆり子・京都大学、加藤有介・徳島大学）

Activity Report of the Bioimaging Society (October, 2018 - September, 2019)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society (Etsuko Suzaki, Shujitsu Univ.; Kazuyuki Kuchitsu, Tokyo Univ. of Sci.; Naoko Tanaka, Otsuma Women's Univ.; Kahoko Hashimoto, Chiba Inst. of Tech.; Yuriko Higuchi, Kyoto Univ.; Yusuke Kato, Tokushima Univ.)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society runs the activities to become conscious of “Gender Equality” to the members of the society. In the 6th International Symposium on Bioimaging, the members organized the tow-hour opening session “Women in Science”. The Committee tries to keep promoting “Gender Equality” to the society under the environment of With Corona.

<学会の紹介>

日本バイオイメーシング学会(1991年10月設立)は、「生命現象に関わるイメージング」をテーマとして掲げ、イメージング法の開発からイメージングによる新知見の紹介等、極めて幅広い研究領域に関わる研究者の学際的交流の場である。学会誌として、国際英文誌「*bioimages*」と、邦文誌「*バイオイメーシング*」を刊行している。邦文誌の表紙には、学術集会でのベストイメージ賞受賞者の提供による画像を用いており、バイオイメーシングを象徴する雑誌体裁となっている。

会員数は総数203名で、昨年、一昨年と減少している。その内訳は一般会員数159名(うち女性22名 比率14%)、学生会員数44名(うち女性16名 比率36%)である。女性の会員比率は、昨年と比べて一般会員が微減、学生会員が微増であり、全体の会員比率に変化はない。また、理事および評議員の女性比率も昨年と変わらず、各々13%(15名中2名)、18%(39名中7名)であった。会員の女性比率が13%であることを考えると、評議員に占める女性比率は高いと言える。また、女性評議員7名中の4名は男女共同参画委員であり、男女共同参画活動を通じて女性会員が学会に認知され、評議員や理事に加わっており、他の委員会でも活躍をしている。

<男女共同参画への取り組み>

2005年2月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2006年度からは学会内の一委員会として位置づけられ、現在は6名(男性2名、女性4名)の委員で活動をしている。最も重要な活動

として「女子中高校生夏の学校」へのポスター参加を継続してきているが、今年は新型コロナウイルス対策により実施プログラムが大幅変更となったため参加を見合わせた。

2019年9月21～23日に開催されたThe 6th International Symposium on Bioimaging (大会長：鈴木亮先生、於：帝京大学板橋キャンパス)においては「Women in Science」を2時間のオープニングセッションとして行った。海外からはDr. LOK Shee Mei (Singapore)、Dr. Isabelle Aubert (Canada)、国内からは神谷真子先生(東京大学)、という各領域のトップ研究者を招いて、最新の研究成果を発表して頂いた。加えて、Aubert先生は、研究者の妻であり2人の娘の母という家庭のことも紹介して下さり、家庭を大切にしつつ研究活動を無理なく両立しておられる女性研究者としての姿に勇気もらった研究者や学生は多かったと思う。また、帝京大板橋キャンパスに設置されている女性医師・研究者支援センター室長の金子希代子先生からは、センターのサポートにより女性研究者の科研費獲得率や上級職の女性割合が増加していることの紹介があった。いずれもすばらしい4名の女性研究者というロールモデルを身近に知る機会を提供することができた。

今後はWithコロナ環境下における男女共同参画推進やダイバーシティ実現への喚起を考えていく予定である。

日本育種学会 男女共同参画推進委員会活動報告

日本育種学会（溝淵律子・農研機構次世代作物開発研究センター，高梨秀樹・東京大学）

Activity report of gender equality in the Japanese Society of Breeding

Japanese Society of Breeding

(Ritsuko MIZOBUCHI・National Agriculture and Food Research Organization,

Hideki TAKANASHI・The University of Tokyo)

Abstract: Japanese Society of Breeding has been established in 1951 for aiming at the progress of the research and the technology, interchanges and cooperation of the researchers, and the spread of knowledge on breeding science. We publish two journals quarterly, "Breeding Science" in English and "Breeding Research" in Japanese and hold a meeting twice in a year. Percentages of women are 15% of the general member, and 32% of the student member in 2018. The activities for gender equality in the society are reported here.

日本育種学会は、品種改良の科学である育種に関する研究および技術の進歩，研究者の交流および知識の普及をはかることを目的として1951年に設立された。当学会は年2回の講演会の開催，シンポジウム等の開催および講演協賛，英文/和文学会誌（Breeding Science/育種学研究）の刊行，学会賞，奨励賞および論文賞の授与，国際交流の推進を行っている。会員数は2020年現在1,429名であり，一般会員1,112名（男性933名，女性165名，未回答14名），学生会員274名（男性150名，女性87名，未回答37名），その他の会員43名となっている。女性会員の占める割合は，一般会員で15%，学生会員で32%であり，昨年に引き続き今年度も1%程度の増加傾向にある。

<男女共同参画のあゆみ>

日本育種学会は2006年4月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し，2007年4月に「男女共同参画推進委員会」を発足した。昨年度から学会運営委員会の幹事長が委員長を担当することになり，現在，委員会は男性3名，女性3名で構成されている。

<活動状況>

1. 男女共同参画セミナー等の開催

講演会会期中に育種学会における男女共同参画を目指したテーマのランチョンセミナー・ワークショップを企画している（これまでに計12回開催）。2019年秋季大会講演会のセミ

ナーでは，博士課程在学中の女性研究者から，現在の若手が直面している悩み，不安に感じていること等をご講演頂き，実りあるセミナーとなった。当日は100名超の学会員の出席があり，全体の半数以上が20-30代の若手会員であったことから，育種・研究現場での男女共同参画に対する若手会員の関心の高さを実感するセミナーとなった。

2. 講演会会期中の保育室の設置

状況により設置形態は異なるが，講演会会期中の保育室の設置を継続している。2011年からは，大会運営マニュアルに組み込むよう保育室の利用規定や申請書等を整備した。

3. 女性の登用

会員全体の女性比率を踏まえ，学会役員等の女性比率10%以上を目標に女性登用に努力するよう要望している。2010-2011年には学会役員における女性比率は目標の10%を達成したが，その後は減少し2018-2019年は5%（73名中4名）となったが，2019-2020年は13%（70名中9名）と回復傾向にある。

4. ホームページの開設

学会ホームページ内に男女共同参画推進委員会のページを開設し，活動報告やアンケート調査結果，ランチョンセミナーの資料等，内閣府男女共同参画局等へのリンクを掲載している

(<https://www.nacos.com/jsb/03/03danjyoiin.html>)。

日本結晶学会・男女共同参画推進委員会活動報告

一般社団法人 日本結晶学会 男女共同参画推進委員会

(委員長：森吉千佳子・広島大学、委員：玉田太郎・量子科学技術研究開発機構、漆原大典・名古屋工業大学、中村顕・学習院大学、濱田麻希・金沢大学、原田潤・北海道大学、引田理英・高エネルギー加速器研究機構)

Annual Report on Activities of the Gender-Equality Promotion in the Crystallographic Society of Japan

The Crystallographic Society of Japan

Abstract:

This report gives a summary of recent activities of the Gender-Equality Promotion in the Crystallographic Society of Japan.

1. 日本結晶学会の概要

日本結晶学会は、1936年に発足した「X線懇談会」を母体として1950年に設立された伝統ある学会です。2020年には70周年を迎えます。生命科学や材料科学などの先端的学問を支える基礎科学分野の研究及び啓蒙活動に取り組んでいます。

世の中にあふれる物質の性質を理解するには結晶学の知識が欠かせません。本学会では、会員による先端研究を推進するだけでなく、非会員の研究者や技術者に向けても結晶学に関わる理論及び実験・解析手法についての講習会を開催しています(<https://crsj.jp/activity/course.html>)。また、定期刊行の学会誌へ掲載されている基礎的及び先端手法の記事や、オンライン用語集「クリスタリット」(<https://crsj.jp/database/crystallite.html>)は好評で、多くの方に活用されています。このような活動により、大学や研究機関だけでなく、産業界の研究の発展にも貢献してきました。

本学会では、日本学術会議結晶学分科会へ委員を推薦し、結晶学に関係する重要課題や将来計画等についても検討しています。さらに国際的には、日本学術会議IUCr分科会を国内委員会として国際結晶学連合(International Union of Crystallography, IUCr)に加盟しており、結晶学に関わる世界的な活動を行っています。IUCrはジェンダーバランスやダイバーシティに対する意識が極めて高く、役員全体に占める女性比率の向上に努めています。本学会でも、2018年度には菅原洋子教授、2020年度には山縣ゆり子教授が会長を務めているだけでなく、役員全体に対する女性割合の向上にも努力しています。

2020年8月現在の学会員構成は、総会員数1032名(うち女性会員数は116名)、そのうち学生会員数134名(うち女性会員数は29名)です。

2. 男女共同参画に対する取り組み

年一回開催される学会年会において、男女共同参画推進と若手育成に関わるシンポジウムや

ティータイムミーティングを開催しています。

(1) 学会年次大会での企画

男女共同参画、ダイバーシティやSTEAM教育についてじっくりと意見交換するためのティータイムセッションやランチョン形式のセミナーを開催しています。2019年度の年次大会では、将来、理工系科学や結晶学の分野で活躍する「卵」をいかにして見つけ育てるかを議論するパネルディスカッションを開催しました。

・日時：2019年11月20日

・テーマ：「結晶学者の卵の見つけ方、育て方」

パネルディスカッションに先立って実施したアンケートには計 82 件の回答がありました。女性会員からの回答は会員構成比の11%より若干多い17%でした。アンケート結果に基づき、当日は活発な意見交換が行われました。「見つけ方」については、中高生向けのアウトリーチ活動において実社会と結晶学の関係性をよりわかりやすく見せる工夫をするほか、体験実験や年会時の高校生発表セッションといった具体的なアイデアも出ました。また、学部生に向けては、結晶学が幅広い分野の基盤となっていることを講義でうまく伝えることや、企業研究者の講演の機会を増やす等の意見がありました。一方で、「育て方」については、アカデミア・企業問わずキャリアパスの形成の難しさが指摘されました。

(2) 「女子中高生夏の学校 2019～科学・技術・人との出会い」への参加

ポスター展示及びキャリア相談会に参加し、交流しました。



学会 HP : <https://crsj.jp/>

2019-2020年度 日本地球惑星科学連合 男女共同参画活動報告

日本地球惑星科学連合ダイバーシティ推進委員会 e-mail: office@jpgu.org

2019-2020 Activity Report of Committee for Diversity Management and Talent Pool, JpGU

Committee for Diversity Management and Talent Pool, Japan Geoscience Union (JpGU)

Activities on gender equality have been promoted by information exchange among affiliated associations to JpGU and by cooperation with other scientific fields of EPMEWSE. JpGU is surveying the career paths of geoscientists of Japan for the future.
Times New Roman 10P

<委員会の概要>

日本地球惑星科学連合は、地球惑星科学を構成するすべての分野及び関連分野をカバーする学術団体である（個人会員9000名以上、団体会員49学協会 2017年3月末時点）。その下に設置されたダイバーシティ推進委員会では、男女共同参画を含む多様な人材が能力を発揮できる環境作りや学生・若手研究者のキャリア支援などに関する各取り組みを行っている。近年では主に毎年開催される学術大会（日本地球惑星科学連合大会）においてセッションの開催や保育ルームの開室支援、キャリア相談ブースの開設をはじめ、キャリアパスアンケートの実施、女子中高生夏の学校への参画、男女共同参画学協会連絡会への参加・協力などの活動を行ってきた。

<活動報告（2019年4月～2020年9月）>

2019年5月26日～30日(日～木) 千葉幕張メッセにて開催された2019年連合大会にて、保育ルームの紹介と利用料金の補助を実施。今年は会場施設内に託児所を開設し、出張託児業者に委託。利用者数延べ53名。また、キャリアパス支援ブースを運営。**5月26日(日)** にパブリックセッション（一般参加者も含めたセッション）を主催し、「日本人がやりがちなおかしい英語」に関する話題を取り上げた。高校生や一般の方を含む多数の参加者があり盛況を博した。また、同日ユニオンセッション分野横断的なセッションにて、「地球惑星科学分野のダイバーシティ推進状況：国際的な視点から」と題する英語セッションを開催した。同セッション

ンは、米国および欧州の地球科学連合学会（AGU、EGU）と国際共同の形で行い、各コミュニティにおけるダイバーシティ推進の現状や取り組みについて情報の共有や、国際的な視点での比較など様々な議論がなされた。

2019年8月9～11日（金～日） 「女子中高生夏の学校2019～科学・技術・人との出会い」の実験実習（テーマ：私たちが暮らす平地はこうして出来る！（地形形成の模型実験））とポスター展示に参加。

2020年7月12日～16日(日～木) 2020年連合大会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンラインにて開催された。この中で当会は米国および欧州の地球科学連合学会（AGU、EGU）との共同ユニオンセッションを主催するとともに、若手研究者に対するオンラインキャリア相談を行った。ユニオンセッションでは「新型コロナ状況下におけるダイバーシティ、公平性、包括性への新たなチャレンジ」に関して、学協会連絡会提言・要望WGの平田氏やAGU会長、EGU会長に招待講演を行って頂いたほか、パネルディスカッションを実施した。平田氏には在宅勤務中の科学者・技術者の実態に関するアンケート結果速報や政府機関への要望活動についてご講演して頂いた。また、当委員会が事前に独自に地球惑星科学の研究者に対して行ったアンケート調査（COVID-19感染拡大の研究活動およびワークライフバランスへの影響について）の結果も報告した。

一般社団法人日本繁殖生物学会 男女共同参画推進活動報告

日本繁殖生物学会・男女共同参画推進委員会（岡田幸之助・日本獣医生命科学大学動物科学科）

Report on Promotion Activity for Gender Equality
in Society for Reproduction and Development (SRD)*Society for Reproduction and Development (Konosuke OKADA, PhD.,
School of Animal Science, Nippon Veterinary and Life Science University)*

Abstract: In order to increase female board members, chairpersons, and invited speakers in the annual meeting, we are addressing to the SRD members through a luncheon seminar at the annual meeting. Also, the list of male regular members was prepared according to their special study.

<日本繁殖生物学会(SRD)について>

日本繁殖生物学会は、飼育動物や野生動物などを主とした脊椎動物の繁殖に関する学術研究を振興し、その成果の普及を図ることを目的に、1948年に設立された70年以上の歴史をもつ学術団体です（会員数2020年7月、766名）。現在は、性と生殖に関わる様々な現象とメカニズムに関する研究、基礎的知見を応用した人工繁殖に関する技術開発、農学・理学・医学分野等との融合による複合領域研究などを包括する学会に発展しています。年に1回開催される学術集会では、一般講演とともに学会内外からの講演者を招いたシンポジウムを行い、活発な議論が交わされています。また、年に6冊発刊される学会誌 *Journal of Reproduction and Development* は、*Institute for Scientific Information (ISI)* に2003年に登録され、国際誌に発展し、2020年には第66巻が刊行され、最先端のバイオサイエンス研究の一部を担う学術雑誌として先導的役割を果たしています。

<SRD男女共同参画推進委員会について>

2007年の男女共同参画学協会連絡会への加盟を起点として、本会に男女共同参画推進委員会が設置され、「会員の多様性を尊重し、老若男女問わず活躍できる学会」を目指して活動を行っています。学術集会では託児室が設けられ、男女共同参画推進の意義や女性研究者ロールモデルを紹介するランチョンセミナーの開催(2010～2019年大会、2017および2020年は休止)、理事会へ「学会役員会（理事会、評議員会、各委員会）における女性会員比率の一定以上確保に関する提案」(2011年)などを行ってきました。現在までに本学会では、学会員全体に占める女性比率（2007年度 15.3% →2019年度 31.2%）、正会員に占め

る女性比率（2007年度 11.5% →2019年度 18.7%）は、いずれも増加傾向にあります。これに比例して女性の役員比率も延び、2019年には初めての女性理事長が誕生し、男女共同参画は着実に推進しています。一方で、学生会員に対して正会員における女性比率は低く、役員の重複率も男性会員より女性会員の方が高いという課題もあります。多様な人材を育成すべく、今後もさらなる活動が必要と考えます。

<2019年度の活動について>

第112回北海道大会では、「俺たちの研究スタイルとライフスタイル」というテーマでセミナーを開催しました。過去のセミナーには、主に女性視点での講演を企画してきました。一方、社会や家庭内で男女共同参画が推進されていく中、男性側はどのように考えているかを知るべく、本セミナーを実施しました。



<2020年度の活動について>

コロナ禍の影響により、2020年度113回大会がWeb開催となり、例年開催していたセミナーを見送ることとしました。次回大会では、再び有意義なセミナーを開催できるよう、準備を進めていく次第です。

生態工学会の活動と報告 (2020)

生態工学会 (横谷香織・筑波大学・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp, 清水美穂・mshzm@cc.tuat.ac.jp, オン碧・s2030255@s.tsukuba.ac.jp加藤浩・三重大学・katohiro@gene-u.ac.jp)

The Society of Eco-Engineering, 2020

The Society of Eco-Engineering (<http://www.see.gr.jp/>)

Abstract: Our society is “The Society of Eco-Engineering”. We are interesting in environmental research and engineering. In our society, we try to promote the gender equality in the committee of the activation of scientific social communication for the next generation. We established “Young researcher’s committee for Eco-Engineering, YRC-Eco” five years ago. We are continuing to have a chance to exchange the several opinions in individual way of life and discussed in a wide generation at the annual conference. We regard the human harmony with the natural environment. We will promote the percentage of women member in our society.

<生態工学会の紹介>

生態工学会は、工学的手法を駆使して、物質循環の仕組みを解明し、人類が共存できる生態系を維持していくためにはどのような行動指針を持たなければならないかの追求を目指す学協会である。将来の有人宇宙活動や月面・火星基地などにおける生命維持に使われるであろう小規模な閉鎖生態系も研究の対象としている。

<生態工学会の理念>

地球はその重力によって物質的に閉鎖された空間を形作っている。その環境は、数十億年という長い年月を経て、発生、進化、消滅を繰り返してきた生物たちによって作られ、数多くの生物種からなる生態系の働きで維持されてきている。昨今、人間のあまりにも急激な経済活動の発展に起因する資源の乱用と大量の廃棄物の放出によって、調和の取れた生態系の存続が危うくなってきたことから、生態工学会は、このかけがえのない地球で人類が継続して生存するために、人類の活動が自然生態系に調和することが不可欠であると考え、自然生態系に調和した持続可能な循環型社会はどうあるべきか日々追究している。

<生態工学会が目指す循環社会>

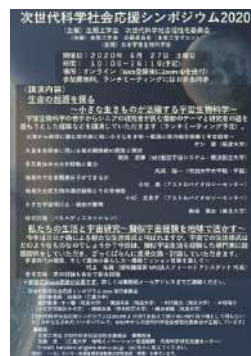
生態工学会が目指す循環型社会は、食糧や資源などの安全で有効な生産と活用そして再利用による自然環境に負荷を与えない物質循環がなされている社会で、温室効果ガスや環境ホルモンなどの有害ガスを排出・蓄積しない再生可能なエネルギーの生産と活用がなされている社会である。そしてこれを可能とする社会システムの機能による自然と調和した安全・安心な人間社会である。

<男女共同参画社会推進の取り組み,2020>

”次世代科学社会活性化委員会”の中の“若手の会”は、2015年に発足しまる5年目を迎

た。若手組織を安定して継続するシステムも構築した。次世代科学社会活性化委員会は、企業財団からの援助を受け、次世代科学社会応援シンポジウムを今年はオンラインで開催した。シンポジウム内に若手の会セッションも設けられ、若い研究者らの研究に向けた意欲が紹介された。本委員会は、「研究者の生活・世代を超え伝えたいこと・知りたいこと」をオーガナイズしてきた。生態工学会の男女共同参画社会に対する貢献と意識は高まってきたと受け止めている。

次世代科学社会応援シンポジウム2020プログラム



<生態工学会のロゴマーク>

生態工学会のロゴマークは、人間を中心に置き、エネルギー源である太陽と技術を象徴する歯車が描かれ、その周囲に生態系を構成する動物と植物が配置されている。人間社会の豊かさを常に考え追究している。調和を重んじて、次世代の男女共同参画社会確立にも強く促進したいと考え、実行しようと試みる学術団体である。



生態工学会のロゴマーク

錯体化学会男女共同参画委員会の取り組み

錯体化学会 唯 美津木（名古屋大学物質科学国際研究センター）・牧浦 理恵（大阪府立大学大学院工学研究科）・山田 鉄兵（東京大学大学院理学系研究科）・越山 友美（立命館大学生命科学部）・小林 厚志（北海道大学大学院理学研究院）・山本 浩二（東京工業大学物質理工学院）・島崎 優一（茨城大学大学院理工学研究科）

Activity Report of a Committee of Gender-Equal on Japan Society of Coordination Chemistry

Japan Society of Coordination Chemistry (M. Tada · Nagoya Univ. · mtada@chem.nagoya-u.ac.jp, R. Makiura · Osaka Pref. Univ., T. Yamada · Univ. of Tokyo, T. Koshiyama · Ritsumeikan Univ., A. Kobayashi · Hokkaido Univ., K. Yamamoto · Tokyo Int. Tech., Y. Shimazaki · Ibaraki Univ.)

Abstract: Japan Society of Coordination Chemistry established the Committee of Gender-Equal in 2006. We hold a lunch-on seminar with the society members to learn recent gender-equal activities with several panelists and prepare child-care system at the Annual Meeting of Coordination Chemistry, Japan, every year.

<錯体化学会における男女共同参画委員会>

2006年に錯体化学会では、男女共同参画委員会が発足し、現在は男女比が同程度の7名の委員と学会執行部が委員会メンバーとなり、学会の男女共同参画に関する活動を行っている。これまでに、本学会における男女共同参画に対する現状や意識状況の調査や、今後どのような方向に向かうべきかという共通認識のあり方を検討することから始め、毎年行われる錯体化学会討論会において、ランチョンセミナーを企画し、会員および学生会員への問題提起と啓蒙活動を行っている。近年は、男女の問題のみならず、外国人等のマイノリティにも幅を広げ、多様な人材が参加しやすい学会活動とはどのようなものかを積極的に議論している。また、錯体化学討論会における託児所の設置も、現地実行委員会と連携して毎年進めている。

<ランチョンセミナーの開催>

2019年の第69回錯体化学討論会(名古屋大学)では、昼休みの時間帯を利用してランチョンセミナー「多様な価値観を受け入れるために ～マイノリティの体験から考える～」を開催した。学会におけるダイバーシティの広がり、性別、国籍、年齢、価値観などの違いを互いに尊重して、多様性を受け入れる土壌ができ、従来の価値観に縛られない斬新なアイデアや価値観の

喚起につながることから、ダイバーシティが広がることの重要性を学会員が認識する一つの場として、ランチョンセミナーを企画した。所属先で少数派として働く男性、女性、外国人など、多様なマイノリティをパネリストに迎え、苦勞している点、活用している制度、困難を乗り越えるための工夫等について、幅広いディスカッションを行った。

<討論会における託児所設置>

錯体化学会では、第65回討論会時(2015年)に初めて託児所を設置したが、以降継続して、錯体化学討論会において、託児所の開設を行っている。2018年度より、英語での案内も実施し、外国人にも利用して頂けるようにしている。2020年度については、コロナのため、討論会がオンライン開催となり、託児所開設は実施しなかったが、来年度以降も継続して、託児所の設置を実施していくことを予定している。

<現状と今後>

本委員会の指針は、能力のある会員は男女問わず適切なポジションに就職等が促されるように、社会を形成するための視点を養うこと、種々の活動を通して会員に真の男女共同参画とは何かを考え、互いに理解し合うことを目的としており、今後も積極的に活動に取り組んでいく。

活動報告

日本進化学会（榊原恵子・立教大学・理学部）

Activity Report

Society of Evolutionary Studies, Japan (Keiko Sakakibara・Rikkyo University)

Abstract: Our society is highly motivated in promoting gender equality in science. In 2017, we conducted a questionnaire survey for members about childcare support during the annual meeting. As a result that 90 % of respondents answered that childcare support was necessary, we started the childcare support during the annual meeting since 2018 with financial support. Our society organized the lunchtime meetings to promote gender equality in 2018 and 2019. We are willing to provide information and support members of society to promote gender equality.

日本進化学会では、多くの会員が男女共同参画に対する意識を持っている。2017年に会員に年大会中の保育支援設備設置に関するアンケート調査を行った。90%の回答者が設置した方がよいと回答した結果を受けて、2018年より年大会での男女共同参画予算を設置し、年大会開催中の保育支援を開始した。2018年、2019年に男女共同参画企画として子育てに必要な支援を、海外での子育て事情についてのランチオン企画を実施した。今後も会員に必要な情報提供、支援を行っていく予定である。

日本遺伝学会 男女共同参画活動報告

日本遺伝学会（男女共同参画推進担当幹事 近畿大学・篠原美紀、熊本大学・荒木喜美）

Annual report on the activities for gender equality in the Genetics Society of Japan

The Genetics Society of Japan

(Miki Shinohara (Kindai Univ) and Kimi Araki (Kumamoto Univ), Councilors of the GSJ)

<http://gsj3.jp/index.html>

The Genetics Society of Japan was established in 1920, and has members from various fields of genetics. Although about 20% of the members are women, female students comprise about 39% of the total student members. The main aim of our society in gender equality activity is to support students and young researchers for the continuation of their research under the slogan of "Supporting the developing buds of talented scientists". The society has made every effort for maintaining a policy of gender equality and conducted its actual practice in various activities. In the following, we report the activities conducted by the Committee for Promotion for Gender Equality of the society during last year.

(1) 公開ランチョンワークショップの開催

日本遺伝学会第92回大会(熊本大学)では、日程初日2019年9月16日(水)12:30~14:00に、『ボトムアップの男女共同参画～困った時には声をあげよう！ピーチク、パーチク、雲雀の子！～』と題したランチョンワークショップを、熊本大学発生源山淳氏、東大定量研の岡田由紀氏、がん研究会の齊藤典子氏に講演をお願いしおこなう予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のために現地開催は中止となった。大会参加時アンケートの解析結果について、9月18日(金)開催の遠隔会議による評議会および学会総会で男女共同参画担当幹事が報告を行った。2020年の全会員に占める女性割合は21.4%(一般会員15.4%、学生会員35.1%)で昨年より微減であった。職位が上がるほど女性比率が下がる傾向は依然として続いている。また、会員の高齢化と男女問わず博士課程の学生の参加者が非常に少なく将来的な心配要因である。

(2) 学会大会参加者の属性調査

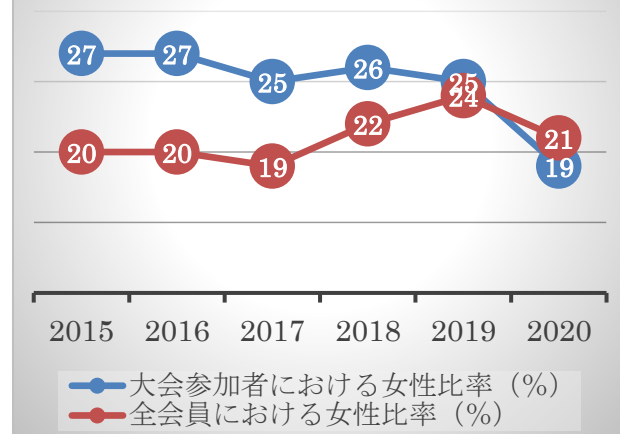
大会参加者の女性比率は18.5%で全会員の女性比率21.4%よりも少なかった。これまで、女性会員比率と参加者の女性比率の関係は、参加者比率のほうがやや多めで推移していた(右図参照)ことから、コロナ禍の現状が何か影響を及ぼしている可能性がある。来年度に向けて参加困難の理由などについてフォローアップする必要がある。一般口頭発表での女性比率は20.7%で参加者の女性比率よりもやや高めであるのに対して、ワークショッ

プでは14.3%で低くなっていた。一方で、シンポジウムでは発表者の50%が女性であった。

(3) 学会大会参加への支援

男女共同参画推進の観点および支援の多様化に対応するために、学会大会に参加の際に、育児や介護等で支援が必要な場合に対して、1件5万円を上限とした総額15万円程度の支援を実施している。事後であっても、大会期間中に急な必要が生じたときには申請を受け付けることとした。まだ、必要としている会員への周知が徹底していないことから総会などで呼びかけを行いたい。

2020大会参加者の女性比率の減少



日本建築学会における男女共同参画活動報告

一般社団法人日本建築学会 男女共同参画推進委員会（委員長 眞方山美穂・国研)建築研究所)

Annual report on the activities for gender equality in the Architectural Institute of Japan:AIJ

Architectural Institute of Japan (Miho MAKATAMAYAMA , Building Research Institute)

Abstract:

The number of women members in the Architectural Institute of Japan: AIJ accounts for 15.2% of 34,284 all members. We set up a Committee of Promotion for Gender Equality in AIJ in 2007. Then announced the Principle and the Action Plan for Gender Equality in AIJ and the field of architecture in 2008.

In 2018, over 10 years after set up committee, we have formulated a new action plan for next 10 years. In addition, after we have held the "Women's Members Meeting" at each branch of AIJ, we declared to set up a "Nationwide Architectural Gender Equality Network Meeting" as a platform to consolidate and share the activity.

日本建築学会は、正会員34,284人(2020年3月時点)、産学官一体の大規模学会です。うち女性会員比率は15.2%で、10年前の2009年の12.2%に比べて3.0ポイント上昇しています。若い年代ほど女性比率が高い傾向があり、加えて、準会員(学部学生)では、1,162人のうち女性準会員比率は31.8%と1/3に近づく勢いです。建築分野では今後ますます女性が増え、活躍する場がひろがっていくと予想されます。

そうしたなか、男女共同参画推進委員会を設置し、本学会理事あるいは委員会において女性が専任される体制づくりに努めるとともに、業界における男女共同参画にかかわる実態調査、情報発信、交流活動を行っています。

<沿革>

2005年：「男女共同参画社会における建築学に関する得別研究委員会」を発足。

2007年：男女共同参画推進委員会を常置委員会として設置し、平行して男女共同参画学協会連絡会に正式加入

2008年：「男女共同参画推進行動計画」策定

2018年：「男女共同参画推進行動計画」策定

2019年：「全国建築男女共同参画ネットワーク宣言2019」

<基本理念>

日本建築学会における男女共同参画の推進により、建築の多様で広範な分野における両性の自由で平等な参画と、ワーク・ライフ・バランスを実現し、持続可能な多様で豊かな生活空間の創造と改善を目指す。

これまで、3回にわたるアンケート調査を実施し、建築分野における民間企業、大学、それぞれの男女共同参画の現状や課題を探ってきました。

さらに、2016年度より、全国の支部での「建築学

会女性会員の会」の開催をすすめ、すべての支部で女性会員が交流し、学生へのメッセージを伝える等の活動が展開されるに至りました。毎年、全国大会に合わせて男女共同参画推進部門のパネルディスカッションを開催していますが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により全国大会での各種行事が中止となり、同パネルディスカッションも中止を余儀なくされました。

今年度は、これまで開催されてきた建築学会女性会員の会やアンケート調査等において、何度も提言されていた「男性の意識改革」をテーマに、建築業界で働く男性の側の視点から男女共同参画への実態、課題等を議論する企画を準備していました。この企画は来年度の全国大会に延期し、これからの建築界を担う学生や若手社会人にとって有意義なものとなるよう、引き続き検討する予定にしています。

2008年の「男女共同参画推進行動計画」策定より10年余が経過し、2018年、新たな10年の新行動計画を策定しました。新行動計画では、1)全国に広がる男女共同参画にかかわる活動の中核として持続的に活動する、2)男女共同参画推進のための具体的目標を設定し、活動を見える化する、3)実効性を高めるためにその阻害要因を調査し解決する、4)海外の男女共同参画及びジェンダー平等活動と連携し、世界に通用する男女共同参画社会を築く、を柱としました。

建築・空間を使う人が多様なように、空間創造の仕事にも多様な視点が必要であり、つくる人自身の家庭や地域での豊かな生活体験が仕事に活かされるのが、この分野の特徴です。多機能な建物に関わる分野に学んだ男女の学生が、共通の将来の「ゆめ」を築き、やりがいを持って創造活動に取り組める環境づくりに、今後も取り組んでいきたいと考えています。

種生物学会 男女共同参画活動報告

種生物学会男女共同参画担当 堂園いくみ (dohzono@u-gakugei.ac.jp)

Recent activities for gender equality in the Society for the Study of Species Biology (SSSB)

Society for the Study of Species Biology (SSSB) (DOHZONO, Ikumi · Tokyo Gakugei University · dohzono@u-gakugei.ac.jp)

Abstract: The Society for the Study of Species Biology (SSSB), founded in 1980 to promote studies related to species biology of plants. Number of society member in 2020 is 335 of which 28.1% are females. The society contributed the Large-Scale Survey of Actual Conditions of Gender Equality in Scientific and Technological Professions conducted by the Japan Inter-Society Liaison Association Committee in 2007 and joined the Liaison Association in January 2008. At the annual symposium of the society in 2019, a nursery was provided in the symposium venue for three days. The total ?? children joined the nursery during the three-day symposium.

<種生物学会について>

種生物学会は、植物実験分類学シンポジウム準備会として発足した。1968年に「生物科学第1回春の学校」を開催し、1980年に種生物学会に移行し、現在に至る。進化生物学、植物分類学、生態学、育種学、雑草学、林学、農学、保全生物学などさまざまな分野の研究者が、分野の枠を超えて交流・議論する場となっている。1986年に学術雑誌Plant Species Biologyを創刊し、1999年～2018年まではBlackwell 社/Wiley-Blackwell社により、2019年からは日本生態学会が発行する英文学術誌のひとつとしてWiley社により発行されている。今日的なトピックスを選び、毎年開催してきた「種生物学シンポジウム」は、2019年12月で51回を数える。第29回からシンポジウムの内容は、和文学会誌として出版されてきたが、「花生態学の最前線」(2000年)以後「エピジェネティクスの生態学」(2017年)までは、単行本(種生物学研究シリーズ)として文一総合出版から発行され、その後は電子版の公開も加え、大学院生を中心に若手研究者の手引き書としても活用されている。

2020年8月における個人会員総数は335人(うち女性人、比率28.1%)である。内訳は一般会員247人(うち女性62人、比率25.1%)、学生会員88人(うち女性32人、比率36.4%)である。2008年1月から同連絡会に正式加盟した。

<入会方法>

以下の学会ホームページの「入会案内」のページから入会手続きができる。

<http://www.speciesbiology.org/>

<男女共同参画の状況>

特にポジティブアクションは実施していないが、2007年から2019年までの学会賞(若手奨励賞)の受賞者23名のうち9名が、論文賞受賞者20名のうち12名が女性である。また、2019年の学会主催のシンポジウム企画者3名は男性であり、招待講演者10名のうち女性は5名であった。学会運営にも、複数の女性会員が役員として参画しており、学会員の選挙により選出される幹事14名のうち5名が女性である。

<シンポジウムにおける託児サービスの提供>

毎年12月に開催している種生物学シンポジウムでは、会場近くの託児施設を紹介していたが、2009年までは利用実績はなかった。2010年のシンポジウム(京都大学)で初めて託児室を設置し、1家族(3名)の利用があった。2013年以降は、合宿形式のシンポジウムを開催しており、会場近くの保育所か会場内に託児室を設置した。2013年は2日間で延べ6名、2014年と2015年は3日間で延べ9名、2016年は3日間で延べ4名、2017年は3日間で延べ10名、2018年は3日間で延べ11名、2019年は3日間で延べ6名の利用があった。

日本獣医学会の男女共同参画のための活動と獣医学分野の現状

公益社団法人 日本獣医学会・男女共同参画担当

Activities for gender equality of The Japanese Society of Veterinary Science and the current state of the veterinary field

The Japanese Society of Veterinary Science (Committee of gender equality)

The Japanese Society of Veterinary Science is established in 1885. Now, regular and student members of The Japanese Society of Veterinary Science are 3258, and ratio of female veterinarians is around 20% in regular member and 40% in student member. Since 2008, the Japanese Society of Veterinary Science has started their activities for the gender equality. Recently, veterinarians are involved in broad-ranging professional fields. However, the high turnover rate and low return rate of female veterinarians during/after life events remain a challenge in veterinary field. There is a need to create environments in which female veterinarians can fully demonstrate their abilities throughout their lives.

【日本獣医学会】

日本獣医学会の前身となる大日本獣医会は1885年（明治18年）に創立された。当時の会員数は166名であり、その後中央獣医会と改称、1921年（大正10年）に日本獣医学会が発足し、1939年（昭和14年）、中央獣医会と日本獣医学会が合併して、大日本獣医学会と改称、1948年（昭和23年）に今日の日本獣医学会（当時の会員数2287名）となった。

2020年9月の時点で、獣医学会は正会員2894名、学生会員364名、名誉会員は27名、賛助会員は43社である。正会員のうち女性会員は約20%、学生会員のうち女性は40%程度である。また、学会役員は22名、うち女性は2名である。

現在、獣医師の活動分野は多彩である。人、動物、環境を地球規模でとらえる「One Health, One World」のコンセプトに基づき、人獣共通感染症、栄養学、繁殖学、大動物・小動物臨床における先端の治療技術の研究、食品衛生・食の安全、環境衛生・毒性学、動物用・人医薬品の開発、バイオテクノロジーなどバイオメディカル分野における基礎研究、野生動物分野ならびに地球生態系保全に関する研究も活発である。

【男女共同参画の活動】

日本獣医学会は、2000年に獣医学会の有志の会員により保育室利用者の会を発足し、自主的な保育室の運営を開始した。2008年にこの保育室を学会の事業として支援することを正式に決定し、2009年より運営を開始し、現在まで継続している。2008年、日本獣医学会は男女共同参画学協会連絡会に正会員として加盟した。加えて獣医学会内でも担当理事を設けて男女共同参画を積極的に取り入れた活動を奨励している。2013年-2014年には学会主催で男女共同参画に関するシンポジウム

や市民公開講座が開催された。

また、男女共同参画学協会連絡会の主催するシンポジウムでは、継続して資料集への掲載やポスター発表を行っている。

【獣医系職における男女比の変化】

獣医師法第22条に基づく届出による農林水産省の集計では、2019年3月卒業者999名の進路について、男女に大きな差は認められていない。

	男性(%)	女性(%)
公務員（農林水産分野）	40	60
公務員（公衆衛生分野等）	42	58
産業動物診療	52	48
小動物診療	48	52
会社等	46	54
その他（大学院進学等）	62	38
未定・不明	44	56

しかし、年齢別で分析すると、産業動物診療では30代以降女性の割合が31%以下に、農林水産分野や公衆衛生分野の公務員は50代より女性が18%以下、28%以下と年齢に伴い極端に減ることがわかっている。逆に30代からの無職の割合は女性が76%に到達するなど、卒業後の離職やライフイベント後の復職の問題は現在も継続していることがわかる。また、小動物臨床では、50代より女性獣医師の割合が極端に減り、男性と異なりライフワークとなっている女性が少ないことが示されている。

農林水産省では獣医療提供体制整備推進総合対策事業を進めているが、令和2年には、女性獣医師等の産業動物分野への就業支援も拡充されている。今後、女性獣医師の復職や中途採用に関する改善が求められる。

ダイバーシティ & インクルージョン推進委員会活動報告

一般社団法人日本質量分析学会ダイバーシティ & インクルージョン推進委員会 (Diversity2020@mssj.jp)

(2019年度までの名称：一般社団法人日本質量分析学会男女共同参画推進委員会)

Diversity & Inclusion Promotion Committee Progress Report

Diversity & Inclusion, The Mass Spectrometry Society of Japan (MSSJ) (Diversity2020@mssj.jp)

Abstract: In FY2019, we planned and carried out 10 activities such as holding workshop in MSSJ2019 and co-hosting with several colloquiums in MSSJ. As an external communication activity, we conducted and submitted a female ratio survey in MSSJ to EPMEWSE. We also participated in the 17th Annual Symposium and 1st steering committee of EPMEWSE. In order to promote diversity and inclusion in MSSJ, the name of “Gender Equality Promotion Committee” was renamed “Diversity & Inclusion Promotion Committee”.

1. 学会内コミュニケーション活動

質量分析学者・質量分析技術者等、質量分析に関わる人達が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、参加しやすい、その個性と能力を十分に発揮できる日本質量分析学会を実現させるための諸活動として、ワークショップ1件および日本質量分析学会部会との共催9件を行った。

(1) ワークショップ1件

・男女共同参画推進委員会ワークショップ MS(エムエス)カフェ(2019)「W/L= ワーク/ライフバランス:それぞれのかたち、それぞれの選択」、第67回質量分析総合討論会(2019年5月17日)

(2) 共催9件

・口頭発表および意見交換会
第15回質量分析技術者研究会(2019年8月27日)、
第14回質量分析夏の学校(2019年9月19日~20日)、
第13回中部談話会(2019年10月4日)、第1回東北談話会(2019年11月16日)、第153回関東談話会(2020年1月16日)、第15回中部談話会(2020年2月20日)
・ポスター発表
第46回BMSコンファレンス(BMS2019)(2019年7月8~10日)、第27回北海道談話会研究会・第16回質量分析技術者研究会(2019年10月15日)、第164回質量分析関西談話会・第17回MSSJ質量分析技術者研究(2019年11月23日)

2. 対外コミュニケーション活動

学協会間での連携協力を行いながら、科学技術の分野において、構成員がともに個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りに取り組むことを目的として、日本質量分析学会は、男女共同参画学協会連絡会に加盟し、活動を行っている。

2019年度は下記活動を行った。

(1) 2019年男女共同参画学協会連絡会「女性比率調査」として、日本質量分析学会各委員会・部会・ワーキンググループ等の委員、世話人の性比の調査を行い男女共同参画学協会連絡会に報告した(2019年9月)。

(2) 第17回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム(2019)「科学・技術分野の次世代育成と環境づくり」に参加し、ポスター発表を行った(2019年10月12日、台風19号接近により中止、みなし開催、男女共同参画学協会連絡会ホームページの専用ページにてポスター掲載)。

(3) 男女共同参画学協会連絡会第18期第1回運営委員会参加した(2019年12月9日)。

3. 委員会運営に関する活動

(1) 日本質量分析学会における託児利用人数の推移調査を行った(2019年10月)。
2006年のBMSコンファレンスにおける託児サービス開始、翌年2007年の質量分析総合討論会における託児サービス開始以来の託児利用人数の推移をグラフおよび表にまとめた。

(2) 男女共同参画推進委員会の名称変更
電子メールによる審議を行い、男女共同参画推進委員会は、性別や年齢、国籍、文化、価値観など個性の多様性(ダイバーシティ)を尊重し、お互いに認めて受け入れていく(インクルージョン)活動と支援を実践していくために、「男女共同参画推進委員会」を2020年度から「ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会(Diversity&Inclusion)」と改め、さらなる活動の充実を目指す旨理事会に提案することを決定した。本提案を第227回理事会、および第228理事会に諮り、可決された。

日本畜産学会 男女共同参画活動報告

日本畜産学会 若手奨励・男女共同参画推進委員会

(学会事務局 TEL.: 03-3828-8409 E-mail: info@jsas.org.jp)

Japanese Society of Animal Science - Activity Report of gender equality

Japanese Society of Animal Science (URL:www.jsas-org.jp)

Japanese Society of Animal Science (JSAS) was established in 1924 for all the people who are involved in the animal industry in a variety of ways, directly or indirectly. The objective of JSAS is to contribute to advance and growth of animal science and the animal industry of Japan. In addition, JSAS is releasing updates on animal science to the world, building up closer links with organizations concerned in Japan and abroad. As of Aug 2020, the society has 1,726 members and supporting groups in all. The members are attached to a wide range of fields such as industries, governmental agencies and organizations of higher education. JSAS has been promoting gender equality by holding symposiums/seminars, providing childcare services at the annual meeting, etc.

<日本畜産学会について>

日本畜産学会は、畜産及び社会と動物のかかわりに関する学術研究の発表、情報交換の場としてその進歩普及を図り、わが国における畜産学および畜産業の進歩・発展に資することを目的として1924年に設立された。現在は公益社団法人日本畜産学会として、国内だけでなく海外の関連組織との交流・連携を深めて広く世界へ最新の学術情報を発信するよう努めている。研究発表会（年1～2回）および学術講演会を開催し、機関誌（英文誌 *Animal Science Journal*; 和文誌 *日本畜産学会報*）を発行している。

2020年8月現在の総会員数は1,726名（うち正会員1,324名、学生会員184名）で、正会員に占める女性会員の割合は15.7%、学生会員に占める女子学生の割合は48.9%である。全体的に会員数は減少しているが、正会員・学生会員共に女性比率は横ばいである。

<畜産学会における男女共同参画の歩み>

日本畜産学会では、2009年に「若手・女性のための委員会」を設立し、2011年からは委員会の名称を「若手奨励・男女共同参画推進委員会」に変更して、学会大会開催時の保育室常設、シンポジウムの開催、男女共同参画学協会連絡会への正式加盟などを行ってきた。学生会員の女性比率が高いことから、2013年度からは、若手会員有志による活動組織（若手企画委員会）をこの委員会の内部組織として位置づけ、男女共同参画に関わる活動を学生・若手研究者のキャ

リア形成支援活動と連携して行っている。

<2019-2020年度活動状況>

(1) シンポジウム・セミナー開催

第126回日本畜産学会大会（2019年9月17-20日）の開催期間中に、以下を開催した。

☆ランチョンセミナー「ジビエ食品の安全性を確保するために」（参加者数約80名）では、山崎朗子助教を迎え、ご専門のほか、女性獣医師のワークライフバランスについてお話を頂いた。

☆若手企画委員会主催ランチョンセミナー「みんなで筋肉勉強～筋肥大と筋萎縮～」(参加者数110名)、サイエンスナイト「WANKO～私たちの仲間になりませんか?～」(参加者20名)。

(2) 第126回大会において、保育室(利用者2名)および親子休憩室を設置した(大会事務局担当)。

(3) ホームページ等での情報発信

学会HP内男女共同参画および若手企画のページより、大会企画の案内・報告、イベントへの参加報告、読み物等の情報を発信している。また、委員会のクリアファイルを配布した。

(4) その他

学会役員・委員への女性の登用について、現在、理事会および機関誌編集委員会に参画する女性会員は5.3%で横ばいである。近年、女性会員が功労賞(2013年度)および学会賞(2014, 2017年度)を受賞し、また、学会大会会長(2015年度)となった。

一般社団法人 日本木材学会 男女共同参画活動報告

一般社団法人 日本木材学会 ダイバーシティ推進委員会
学会事務局 〒113-0023 東京都文京区向丘1-1-17 タカサキヤビル 4F
TEL : 03-6878-5195; E-mail : office@jwrs.org



Report on gender equality activities, The Japan Wood Research Society

*Diversity Committee, The Japan Wood Research Society
1-1-17 Mukogaoka, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0023, JAPAN
TEL +81-3-6878-5195*

Abstract:

The Japan Wood Research Society is a major academic research society promoting the study of forest product science and wood technology. Currently, 1,190 full members and 435 student members are actively involved in its activities. The current Diversity Committee started operating in July 2013. Some of its activities involve, participating the 18th symposium of EPMEWSE, Summer School for Female Students and organizing the 7th luncheon meeting during the 70th annual meeting of the society. Although we were not able to work well due to the typhoon and COVID-19, the committee will continue working to enhance diversity and promote the participation of members at all levels.

1. 学会の概要

本学会は、林産物に関する学術および科学技術の振興と社会の持続可能な発展に寄与することを目的として1955年に設立されました。2020年6月現在の会員数は正会員：1,190名、学生会員435名、賛助・団体会員を合わせて1,762名です。女性比率は正会員約1割、学生会員約3割で推移しています。木材学は産業と直結しており、産業界からの学会参加も多いことが特徴です。

2. 男女共同参画活動について

本学会は2010年度に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟しました。初代男女共同参画担当理事には中山榮子（昭和女子大学）が就任し、8名の委員とともに本学会の初めての男女共同参画活動が開始されました。

男女共同参画委員会は2013年6月に「ダイバーシティ推進委員会」と改称し（委員長恒次祐子、森林総研・当時）、多様な立場にある学会員をサポートしています。現在は第5期のダイバーシティ推進委員会となり、中山以下10名の委員で以下のような活動を行っています。

・男女共同参画学協会連絡会

本学会は2010年より、運営委員会に参加し、シンポジウムでも活動報告を行っています。

（17回シンポジウムは台風のため急遽Web公開となりました。）現在第5回アンケートWGに参加しています。

・女子中高生夏の学校

本年で8回目の参加を予定しておりましたが、コロナ禍のため、オンライン開催となってしまいました。

・第70回日本木材学会大会（鳥取）中の活動

第7回ランチョンミーティングを計画しておりましたが、コロナ禍で現地開催はできませんでした。

あわせて、学会2日目のポスター発表で、ダイバーシティ推進委員会の活動報告を予定しておりましたが、こちらも実施できませんでした。今回 本学会からのポスター発表の場をお借りし報告させていただきます。

このほか、優秀女子学生賞副賞のプロデュースもしております。芸術系の若手から木材系の若手に向けてエールの気持ちを込めて作品を提供いただいています。



第6回優秀女子学生賞副賞

活動報告

公益社団法人日本技術士会男女共同参画推進委員会

委員長 石田佳子 y.ishida@kankyogiken.co.jp

Activity Report

The Institution of Professional Engineers, Japan (IPEJ)

Gender Equality Committee

Gender Equality Committee was established under the Institution of Professional Engineers, Japan primarily for three purposes: i) encouraging female engineers working at enterprise to acquire qualifications for their carrier development, ii) hosting informal meetings of senior engineers and young, female engineers and students to discuss work-life balance, career development as engineers and so on., and iii) establishing networks of organizations and groups sharing the same purpose. Today, the interest to D&I (Diversity & Inclusion) is rising, and we have initiated activity about this.

1. 委員会の目的

委員会は以下の目的で2011年5月に設置された。
2020年9月現在、委員会は委員20名（男性11、女

性9）、委員補佐8名（男性2、女性6）と1つのワーキングG（7名:男性3、女性4）で構成、女子学生・女性技術者支援とDiversity & Inclusionを軸とした種々の活動を推進している。

- 1) 企業で働く女性技術者のキャリア形成のための資格取得の奨励。
- 2) 技術者を目指す若い女性と技術者としてのキャリア形成や仕事と家庭の両立などをテーマとした懇話会の開催。
- 3) 同じ目的を持った団体や組織とのネットワーク。

2. 2019年度の主な活動

1) 女子学生・女性技術者支援

J ABEE課程並びに技術者を目指す理工系女子学生、若手女性技術者との懇話会である「技術サロン」は、毎年度6月、9月、12月、3月の4回開催している。

（2020年3月は新型コロナにより中止したが、現在はリモート開催で実施。）

2) 地域本部との連携

第46回技術士全国大会において、各地域本部の活動状況を共有し、意見交換、課題の共有をした。

委員会からは、技術サロンの経緯・成果、技術サロンの声（質問や相談）の紹介を行った。

3) キャリアモデル集—あなたも技術のプロフェッショナルになりませんか？—および「新Q&A集」の発行

20名の技術士が、キャリア形成や技術士としての働き方などを語っている。学生や技術者、技術士を目指す方、学校関係や企業の方（特にリーダーや管理職、技術者を育成する立場にある方）にぜひ手に取っていただきたい（委員会Webサイトで公開）。

2) D&I関連行事

◆「D&I」フォーラム(2019)

「私にもある？アンコンシャスバイアス～「無意識の偏見」への気づきから職場改善、自身の成長へ～」

アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）」は誰にでもあり、人間関係やパフォーマンス、組織マネジメントなどに影響を与えている。D&Iを実現する上で、アンコンシャスバイアスが障害とならないよう、基本的な知識を学び、気づき、実践につなげることを目的とし、講演およびワークショップを行った。

◆第3回D&I学習会

参加者が一緒に考え、気づきを得られる場となるよう、委員が「外国人の活躍支援」、「若手技術者の支援」など自らのテーマで情報を提供し、テーマごとに参加者でディスカッションする形で行った。



3. 男女共同参画推進委員会Webサイト

http://www.engineer.or.jp/c_cmt/danjyo/

日本植物学会におけるダイバーシティ推進の取り組み

(公社) 日本植物学会 (ダイバーシティ推進委員会委員長 井川智子・千葉大学園芸学研究所)

The Approaches to the Diversity in the Botanical Society of Japan

The Botanical Society of Japan (Tomoko Igawa, Chiba Univ.)

Abstract: The Botanical Society of Japan was established in 1882 to promote researches in wide range of plant biology. The Society publishes a *Journal of Plant Research* for international distribution, as well as organizes an annual meeting with oral and poster presentations, symposia and public lectures. In our society, women represent 24.1% of about 1,800 members. For promoting gender equality, we set up the committee on gender equality on 2011. To promote the diversities in not only gender but also career and lifestyle, the committee was renamed to “diversity promotion committee” in 2020. Through the planning of special lectures in the annual meeting, we will promote the awareness of diversity in the society. (<https://bsj.or.jp/jpn/members/kyodosankaku.php>)

1. 日本植物学会について

日本植物学会は 1882 年に発足、2012 年に公益社団法人となった。学会誌「植物学雑誌（現在は *Journal of Plant Research*）」は明治 20 年発刊以来 120 年以上続く伝統ある学術誌である。2020 年 9 月現在で、総会員数 1800 名程度のうち、女性会員が 24.1% の高割合を占めている。2005 年より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟、2012 年に正式に加盟した。学会内では 2010 年に男女共同参画 WG を設置すると共に第 1 回の男女共同参画ランチョンセミナーを開催、翌 2011 年には男女共同参画委員会が正式に発足した。更に性別のみならずキャリアパスやライフスタイルの多様性を推進するため、2020 年に委員会名をダイバーシティ推進委員会に改称した。毎年 9 月の植物学会大会においてセミナーを開催し、継続的なダイバーシティ推進活動を進めている。

2. 活動報告

2019 年 9 月 16 日、東北大学川内北キャンパスで開催された日本植物学会第 83 回大会の第 2 日目において、男女共同参画ランチョンセミナー「じつは強力！博士号 ～目からウロコのキャリアパス～」を開催した。まず三村徹郎・神戸大学教授・日本植物学会会長は冒頭の挨拶において、大隅財団による企業アンケートでは博士人材が高く評価されていること、しかしながら博士号取得後のキャリアパスの問題が未だ継続している状況を述べた。続いて日原由香子・埼玉大学教授・男女共同参画委員長が近年の修士及び博士の進路

状況について紹介し、また諸外国と比較して日本の博士号取得数が減少傾向にあり、博士課程進学者数も年々減少しているデータを示した。この大きな要因として、博士のキャリアパスに対する不安が挙げられた。

そこで続くパネルディスカッションでは井川智子・千葉大学准教授が司会を行い、4 名の博士、石崎公庸氏・神戸大学准教授、梅村佳美氏・横浜市立大学 URA (リサーチアドミニストレーター)、桑原明日香氏・JST フェロー、西窪伸之氏・王子木材緑化株式会社副部長に登壇いただき「私たちのキャリアパス」についてお話いただいた。アカデミア研究のみならず、研究推進支援を行う URA、国内外の科学技術の動向調査に基づく文科省への提言を行う JST フェロー、森林資源を活用する企業戦略の構築とマネジメントの業務内容とやり甲斐も紹介された。また登壇者はすべてポストドク経験者でもあり、新たなポジションを得るための具体的な行動内容も紹介された。登壇者メッセージとして、博士号を取得するために培ったブレークスルー力はどういうような職種にも活かされること、やりたいことをやるチャレンジ力と海外も含めた活躍場所の拡大が大切である、と発信されていた。

セミナー後アンケートでは「新たな博士キャリアパスを知ることができた」と学生だけでなく、ポストドクや教員からもコメントが多く、今後進路を視野に入れる学生へのキャリアパス情報としてフィードバックされると期待できる。

公益社団法人 日本農芸化学会の男女共同参画活動報告

日本農芸化学会（ダイバーシティ推進委員会・〒113-0032 東京都文京区弥生2丁目4番16号 学会センタービル2F）

Activity Report of Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry (Committee on Gender Equality: Gakkai Center Building, 2-4-16 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0032, Japan)

Agricultural chemistry covers a wide range of bioscience, biotechnology, and agrochemistry, being based on the study of living things in general and agricultural organisms in particular. The Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry (JSBBA) was founded in 1924 as an academic organization called the Agricultural Chemical Society of Japan, with the objective of contributing to scientific, technological and industrial developments. More than 10,000 members belong to JSBBA and about 20% of them are women. For promoting gender equality, we set up the committee on gender equality in 2015, renamed the committee on promotion of diversity and equality in 2019.

1：（公益社団法人）日本農芸化学会について

農芸化学は、あらゆる生物と生産物を研究対象とし、生命・食・環境といったキーワードで代表されるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを中心とする多彩な領域の総合科学分野です。本学会は農芸化学分野の基礎および応用研究の進歩・普及、及び同分野の教育の推進を図り、それを通じて科学、技術、文化の発展に寄与することにより人類の福祉の向上に資することを目的として、1924年に設立された学術団体で、2012年3月に公益社団法人へ移行しました。会員数はシニア会員なども含め2020年2月29日現在で10,114名であり、このうち一般会員は7,499名（女性1,441名：19%）、学生会員は2,615名（女性1,096名：42%）です。

2：男女共同参画活動について

本学会は、2012年に男女共同参画学協会連絡会に加入し、同年に新たに男女共同参画に関する担当者会議を学術活動強化委員会の中に設けました。2015年3月には学術活動強化委員会から独立して、男女共同参画委員会を設置し新たに男女共同参画担当理事1名を任命することで、さらなる発展を図る体制を整えました。2016年度には担当理事を2名体制としましたが2019年度には組織変更に伴いダイバーシティ推進委員会と名称を改めました。現在の委員会のメンバーは15名で、このうち9名が女性です。

男女共同参画への取り組みとして、2003年度大会から託児ルームを設置し、2015年度大会から無料化し、2015、2016、2017、2018、2019年度大会でそれぞれ延べ28名、29名、35名、30名、28名の利用者がいました。2014年度大会から毎年、男女共同参画ランチョンセミナーを開催しています。2020年度大会では「女性のキャリア・ダイバーシティーに係わる耳寄りな話を聞いてみよう」というテーマで10名の講師を招聘し10グループ

に分かれ各講師が提示したテーマで自由討論を行うグループフォーラムを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止となりました。また、毎年次大会での発表者等の男女数調査では、女性一般発表者の割合は横這い状態、女性のシンポジウムオーガナイザーは2020年度大会では6名(女性比率9%)、講演者の女性比率は12%と増加しましたが、女性一般会員の比率と比較するとまだ非常に低く、今後の改善が求められます。以上の男女共同参画にかかわる事柄については、学会HP中に設けられた男女共同参画のページにて情報提供を行っています。(www.jsbba.or.jp/gender/)

年次大会における一般発表者数と女性比率

	発 表 数		
	男性	女性	女性比率(%)
2016 年	1451	680	31.9
2017 年	1282	626	32.8
2018 年	1236	642	34.2
2019 年	1135	541	32.3
2020 年	1033	565	35.4

3：女性研究者の表彰

2016年度、男女共同参画委員会の起案により、優れた女性研究者を表彰しその研究を奨励することで農芸化学分野の研究の発展および地域・国際社会に貢献する女性人材を育成することを目的として、「農芸化学女性研究者賞」、「農芸化学若手女性研究者賞」、「農芸化学女性企業研究者賞」の3賞を設置しました。2019年秋、第四回受賞候補者の募集を行い、これらの賞のために招集された農芸化学女性研究者賞等授賞選考委員会が選考作業を行い各賞2～3名の受賞候補者を選考しました。

一般社団法人日本解剖学会 活動報告

一般社団法人日本解剖学会 理事長 八木沼洋行（福島県立医科大学・教授）
事務局 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル4F 一般財団法人口腔保健協会内
Tel : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 e-mail: gakkai24@kokuhoken.or.jp

Activity report in The Japanese Association of Anatomists (JAA)

The Japanese Association of Anatomists (JAA)

Abstract:

We made the first great step by setting up the committee on promotion of gender equality in the JAA in March, 2011. In 2012, the JAA officially became a member of Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE). We held the 7th Luncheon Seminar to promote gender equality in the JAA at the 125th annual meeting (Held in a magazine by COVID-19) on March 25, 2020, by Ms. M. Ito (The Open University of Japan).

1. 解剖学会における男女共同参画の現状

最新の実態調査では日本解剖学会全会員のうち女性は19.70%を占めている。年代毎における女性の割合は20代：43.48%（40/92名）をピークに、30代：30.83%（115/373名）、40代：23.69%（127/536名）、50代：15.06%（72/478名）、60代：13.33%（48/360名）と若年層ほど女性の割合が高まっているが、人数は30・40代がピークとなっており、若い研究者の減少がやや不安材料である。しかし、学生会員79名のうちの男女比がほぼ3（50名）：2（29名）、と学会活動への関心は低くないことを示している。

理事会の中では、2015年3月の解剖学会総会で女性の理事が2人誕生し、2019-20年度は女性理事は4名、女性常務理事は2名となった。各委員会においては、15の委員会（若手研修者の集い含む）のうち女性委員が含まれる委員会が14委員会となり、その数は増加傾向にある。また、男女共同参画推進委員会の第5期委員長に松崎利行氏（群馬大学・教授）が第2期以来の男性委員長として就任した。2011年3月の男女共同参画推進委員会の発足以来、男性・女性がともにその能力を伸ばしつつ解剖学と学会の発展を支えていくことを目指している。

2. 全国学術集会での第7回男女共同参画推進シンポジウムの開催と男女共同参画についての「つぶやき」実施について

2020年3月の第125回日本解剖学会全国学術集会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によ

り、誌面開催となった。第7回男女共同参画推進シンポジウムについても、伊東 昌子（放送大学長崎学習センター）先生に「アカデミックキャリアと多様性の尊重ー研究室のタイムマネジメント向上ー」を誌面上で実施した。男女共同参画についての「つぶやき」は現地開催が叶わなかったことから開催を断念した。

3. 次年度全国学術集会での第8回男女共同参画推進シンポジウムの開催について

次年度の第126回全国学術集会は2015年度以来の日本生理学会との合同大会である。日本生理学会男女共同参画推進委員会と連携して、坂東眞理子先生（昭和女子大学・学長）による特別講演を実施する予定である。

4. 変革に向けての今後の取り組み

第4回男女共同参画学協会連絡会大規模アンケートの概要と解剖学会員回答の分析を行い、学会ホームページへ掲載するなど、会員各位への広報活動を積極的に行っている。広全国学術集会時シンポジウムの開催費用については、学会本部より財政的・人的支援を得て、学会全体の取り組みとして継続していく。

今後とも、男女共同参画への会員の意識を高め、学会運営の改革とともに大学や研究室などの現場での実践に結び付けて行くことが重要である。

日本魚病学会 活動報告

日本魚病学会（笠井久会・北海道大学・hisae@fish.hokudai.ac.jp）

Activity Report of the Japanese Society of Fish Pathology

The Japanese Society of Fish Pathology (Hisae Kasai · Hokkaido University)

The Japanese Society of Fish Pathology aims to advance the study of fish pathology and the dissemination of knowledge specific to fish and shellfish diseases. Currently, 337 members belong to the society and 39 of them are woman. This year, the annual meeting was cancelled due to COVID-19. The society has a plan to set up childcare room in the next year's meeting.

日本魚病学会は、病原体の分類や生態，病理，治療，予防など，魚介類の疾病に関する広範囲な分野について，研究の進歩と知識の普及を図ることを目的とし，1966年にその前身となる魚病懇話会が設立され，同時に世界で最も早く魚病専門誌である魚病研究（Fish Pathology）を創刊した。本学会の活動は，年1回の総会，学会講演およびシンポジウム，年4回の学会誌発行であり，それらを通して，魚介類の疾病に関する広範囲な分野について，価値の高い情報を公表している。また，養殖魚介類の疾病に関する最新情報の提供，意見交換を通して，重要疾病の蔓延防止と持続的な養殖生産の確立に寄与し，社会に貢献することを目的としている。2019年における会員総数は337人（うち女性39人，比率12%）である。男女共同参画に関する活動としては，2012年に男女共同参画学協会連絡会に加入するとともに，男女共同参画担当の評議員を指名した。男女共同参画および若手支援の取り組みについて以下に報告する。

1) 学会講演およびシンポジウム

本年度に予定されていた対面の学会は，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と，それに伴う政府要請の影響により，学会を中止した。日本魚病学会では，学術上の貢献著しく，将来一層の発展が期待される業績を挙げた個人（主として若手研究者）に対して研究奨励賞を授与する取り組みを行っている。令和元年度では，2名の研究者に賞を授与した。

2) 今後の予定

令和3年度の大会において，本学会で初めての取り組みとして託児サービスの提供を予定する。この取り組みをきっかけとして，男女共同参画への会員の意識を高め，学会運営にも女性が積極的に参画できる仕組みについて考えていきたい。

日本中性子学会 男女共同参画推進に関する活動報告

日本中性子科学会

Gender Equality Promotion of the Japanese Society for Neutron Science

The Japanese Society for Neutron Science (JSNS)

JSNS is now advancing efforts on establishing continuous commitment to gender equality promotion. As a member of Asia-Oceania Neutron Scattering Association (AONSA), JSNS respects AONSA's Statement on Diversity and Equity and discusses over effective measures to achieve gender balance.

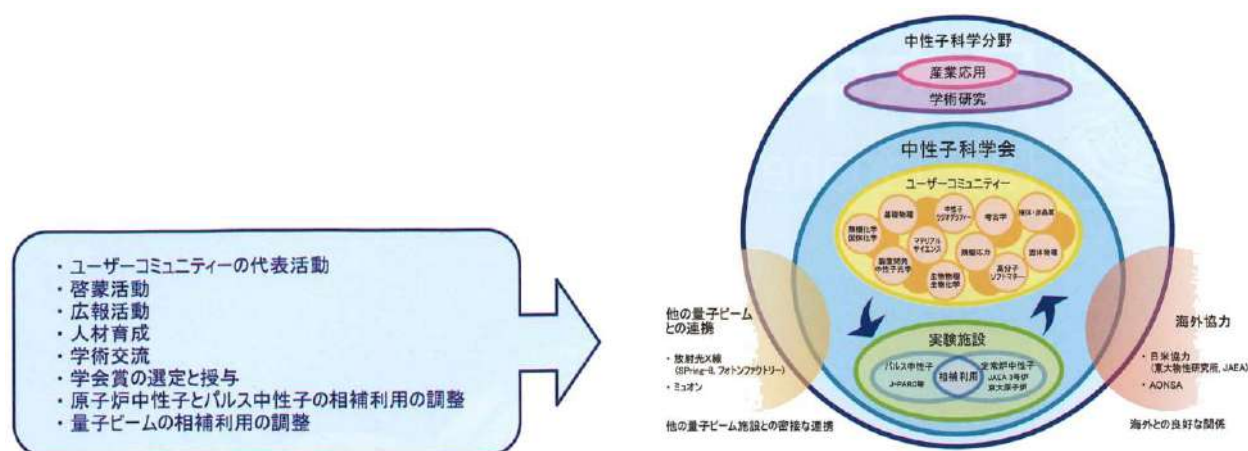
日本中性子科学会は、平成13年4月に中性子を用いた科学研究を推進することを目的として設立された学会であり、約600名程度の会員で構成されている。多岐にわたる分野の学術的議論や実験技術に関する情報交換、あるいは産業利用を含めた応用に関する普及活動などを行っている。また、量子ビーム科学に関する関連学会である日本放射光学会や日本中間子科学会などとも連携を図るとともに、海外の学術団体や研究機関などとも積極的な交流を行い、中性子科学研究の世界的な発展の一翼を担っている。

日本中性子科学会では、主な行事として、1年に1度年会を開催し、会員の研究発表の場を設けるとともに、学会誌『波紋』の発行や一般向けの公開講座の開催、産業分野への普及活動、中性子講座などを通じた人材育成などの事業を進めている。

日本中性子科学会における2020年9月現在の女性一般会員比率は約6%である。また、学会運営に携わる女性は、全評議員数16人中女性評議員が2名（12%）、全幹事数13人中女性幹事が1名（8%）である。

現在、幹事会や評議員会などにおいて男女共同参画への積極的な取り組みのための議論や、そのために必要な方策の具現化に向けての検討を始めている。

また、日本中性子科学会は、Asia-Oceania Neutron Scattering Association (AONSA)のMember Societyの一員であり、昨年AONSAにおいて提唱された "Statement on Diversity and Equity" に沿って、今後の活動を展開していく予定である。



日本熱帯医学会活動報告

一般社団法人日本熱帯医学会 理事長

狩野繁之（国立研究開発法人 国立国際医療研究センター/NCGM・kano@ri.ncgm.go.jp）

Gender equality symposium of Japanese Society of Tropical Medicine (JSTM)

President of JSTM, Shigeyuki Kano (NCGM・kano@ri.ncgm.go.jp)

Abstract: The Japanese Society of Tropical Medicine was established with the objective of contributing to the improvement in medical treatments and the health of people all over the world by presenting the results of research in tropical medicine at annual meetings and by publishing them in our journal. The Society started organizing a gender equality symposium in 2014 to support women researchers and foster an awareness of the gender equality among its members. Discussions have taken place on various issues in the field of tropical medicine. During the process, “Japanese Society of Tropical Medicine Women’s Award” was established in 2017. While continuing discussions on women researchers in Japan, the Society has begun expanding the symposium perspective to support young researchers contributing globally. A symposium is planned to discuss current situation and future prospect of women involved in clinical research in lower-middle income countries who are essential stakeholders in the field of tropical medicine.

1. 日本熱帯医学会における男女共同参画

研究・科学技術分野における日本の研究者に占める女性の割合は、内閣府男女共同参画白書 2020 年度の調査では 16.6%にとどまっています。一般社団法人日本熱帯医学会は、熱帯医学分野の学術的研究成果を年次大会および学術誌で発表・掲載し、熱帯医学研究の進展を国内外の人々に広く知らせ、その成果をもって全世界の人々の医療と健康の増進に貢献することを目的としており、日本の研究者の状況に鑑み、女性研究者の活躍推進支援と会員の意識醸成を目的として、2014 年度に男女共同参画推進委員会を設置しました。以来、熱帯医学会大会にて企画シンポジウムを開催し 2017 年には「日本熱帯医学会女性賞」を設立しました。

2. 男女共同参画推進委員会企画シンポジウム

シンポジウムでは第 1 回より女性研究者の活躍・キャリアパス形成に学会は何が出来るか、熱帯医学研究における女性の役割は何かを中心に議論を深めてきました。特に、若い研究者が世界で活躍することを目指し、多様な国籍、分野の演者に講演をいただき、経験を共有、意見交換を行ってきました。これまで開催したシンポジウムのテーマは以下の通りです：

第1回 「女性研究者/若手研究者のキャリアパス形成」 (2014年・熱帯医学会大会)

第2回 「熱帯医学研究における女と男」 (2015年・熱帯医学会大会)

第3回 「男女共同参画：世界のビジョン，熱帯医学会のビジョン」 (2016年・熱帯医学会大会)

第4回 「日本の女性・若手が世界で活躍するために」 (2017年・グローバルヘルス合同学会)

第5回 「How can we end TB in SDG era?」 (2018年・熱帯医学会大会)

第6回 「ジェンダーギャップ指数第110位の日本から未来に向けて」 (2019年・熱帯医学会大会)

本年度、4学会合同で開催される「グローバルヘルス合同大会 2020大阪」(11月1日～3日)での第7回企画シンポジウムにて、グローバルな視点から男女共同参画に関して議論を深める予定にしております。

3. まとめ

日本熱帯医学会では、2014 年より主に日本の女性研究者の意識、研究環境、直面する問題などに対する要望や提案について議論を行ってきました。今後は範囲を広げ、熱帯医学研究に必須の途上国での臨床研究に関わる女性について議論の機会を設けることを検討しています。

日本応用数理学会の男女共同参画への取り組み

日本応用数理学会（森山園子・日本大学・moriyama.sonoko@nihon-u.ac.jp）

Activity Report on Gender Equality in the Japan Society for Industrial and Applied Mathematics

The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics
(Sonoko Moriyama・Nihon University・moriyama.sonoko@nihon-u.ac.jp)

Abstract: The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics (JSIAM) is the central organization for industrial and applied mathematicians in Japan. The JSIAM's objective is to foster the mathematical sciences and engineering mathematics which contribute to the innovation of science and technology. It is a cross-disciplinary society consisting of people researching mathematical phenomena (in mathematics as well as in other sciences), those who apply mathematics (engineering, technology), and those who develop methods of analysis (computer science, experimental science). This is an annual report on JSIAM activities related to promotion of gender equality

日本応用数理学会について

一般社団法人 日本応用数理学会は、最近の研究、産業、教育における数理的イノベーションに因るために、1990年4月に発足し、その後2012年7月に一般社団法人に移行した学会です。2017年度には初めての女性会長が誕生する等、男女共同参画にも積極的に取り組んでいます。本学会会員の専門分野は理論から応用まで極めて多岐にわたっており、学際的に異分野の第一線の研究者や技術者が集まり、応用数理を研究、産業、教育に結び付けるための研究開発と普及、会員相互の連携・親睦、国際的な交流を積極的に行っています。国際機関 ICIAM (International Council for Industrial and Applied Mathematics) が4年に一度開催する国際研究集会が2023年8月20日-25日、早稲田大学で行われることが決まっています。

男女共同参画への取り組み

2014年に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2015年から年会で属性調査などを目的にアンケート調査を行っています。また、2016年秋からは、年会および研究連合発表会において、若手・女性研究者を中心としたランチミーティングを行い、情報交換を行ってきました。メーリングリストの整備に伴い少しずつ参加者も増え、若手や女性研究者間のネットワークができつつあります。2017年秋には、ICIAMとの連携において、11月に台湾で開かれる Gender gap project にも参加する等、国内外で男女共同参画に積極的に取り組んでいます。

男女共同参画への取り組みの一環として、女子中高生理系選択支援ワーキンググループによる「女子中高生夏の学校」にも参加しました。代表会員である今井桂子元理事が2020年度委

員長として準備を始めましたが、コロナ禍により来年度に延期となりました。今年はNPO法人女子中高生理系キャリアパスプロジェクトが主体となり、女子大学生ボランティアを中心に8月16日、23日、30日の3日間にわたりオンライン開催が急遽企画され、結果的に女子中高生が全国から参加しました。各大学でオープンキャンパス等が中止され、中高生にとって大学や研究者が遠い存在となるなか、研究者によるキャリア講演やキャリアに関するディスカッションを通じて、中高生の疑問や不安の解消に貢献することができました。今井桂子元理事はキャリア相談会において、生徒の質問に答えました。

今後の取り組み

年会などでのランチミーティングの開催、アンケートの実施などを続けて参ります。また、男女共同参画学協会連絡会に加盟して10年目である第22期（2023年10月～2024年9月）に、同連絡会幹事学会を務めることが決まっています。今後も男女共同参画への積極的な取り組みを継続して参ります。

日本衛生学会における男女共同参画推進活動

日本衛生学会（亀井美登里・塚原照臣）

Gender equality activities in Japanese Society for Hygiene

The Japanese Society for Hygiene

(Midori Kamei, Teruomi Tsukahara)

Abstract:

The Japanese Society for Hygiene is a scientific and professional organization founded in 1902, and according to recent statistics in 2020, among 1341 members, there are 443 women. Because there are relatively higher number of women researchers in this field, women support in Japanese Society for Hygiene has been long awaited. In 2015, we launched a working committee for gender equal society and ran a kick-off meeting with the project team. In the 85th Annual Meeting in 2015, we firstly held a symposium on gender issues and since then, we hold the symposium every year. In 2017 Annual Meeting, we declared that the Japanese society for Hygiene encourages our researchers to conduct a research that will bring clues to solve problems related to aging society with declining birthrate. In 2018, we have released a series of academic research papers to build Society Consensus Statement on this issue.

<学会の紹介>

日本衛生学会は日本医学会の一部会として明治35年(1902年)に「衛生学・細菌学・伝染病学」と連合し、昭和4 (1929) 年に日本連合衛生学会として第一回の大会が開催され、昭和24 (1949) 年に「日本衛生学会」に名称変更されました。平成27(2015)年4月から、小泉昭夫が理事長に就任、平成29(2017)年6月から法人化されました。日本衛生学会の会員は、実験的および疫学的手法を用いて、人間・環境・健康に関する学術研究を行い、成果を社会に還元することで学術集団として科学的な貢献を果たしてまいりました。

<学会の女性人数（2020年8月1日現在）>

学会会員数は 1,341 人（うち女性 443 人、33%）、評（代）議員数は 116 人（うち女性 23）、役員（理事・監事）数は 20 人（うち女性は 3 人）。

<男女共同参画推進活動の歩み>

日本衛生学会は平成27（2015）年1月より「男女共同参画学協会連絡会」に正式加盟いたしました。立ち上げは野村恭子先生（秋田大学医学部公衆衛生学講座）と荻田香苗先生（杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室）が行い、現在日本衛生学会男女共同参画委員会として亀井美登里、塚原照臣がこの活動を引き継いでおります。

<活動状況>

- ① 男女共同参画学協会連絡会・加盟 キックオフミーティング「日本衛生学会における男女共同参画推進への取り組み」を開催（H27.3.26）
- ② 第一回男女共同参画推進交流会の実施
- ③ 女性研究者のメーリングリストを創設
- ④ 28 年度日本衛生学会総会にてシンポジウム「男女共同参画と次世代育成」を開催（H28.5.11）
- ⑤ 学会からの少子化対策提言にむけて検討課題領域についてパブコメ（H28.8.10）
- ⑥ 29 年度日本衛生学会総会にてシンポジウム「学術研究からの少子化対策」を開催（H29.3.26）
- ⑦ 学会からの少子化対策提言にむけて少子化ワーキンググループによる第一回会議開催（H29.3.26）
- ⑧ 学会からの少子化対策提言にむけて少子化ワーキンググループによる学会誌連載を企画・始動・取りまとめ
- ⑨ 「日本衛生学会における少子化提言に向けて：日本衛生学会少子化対策ワーキンググループによるとりまとめ」を日本衛生学会誌に掲載(2018.11.18 受理)
- ⑩ 同じく Environmental Health and Preventive Medicine (EHPM)に掲載(2019,24:14)
- ⑪ 「日本衛生学会における少子化提言」(2018.12.19)

男女共同参画推進委員会（Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association; JES We Can）の活動報告

日本内分泌学会（男女共同参画推進委員会委員長 山本眞由美・岐阜大学・myamamot@gifu-u.ac.jp）

Report of the Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association (JES We Can) from the Japan Endocrine Society (JES)

Japan Endocrine Society (Mayumi Yamamoto, MD, PhD, MBA, Gifu University, myamamot@gifu-u.ac.jp)

Abstract: The Japan Endocrine Society (JES) has a percentage of female membership in 20s or 30s of around 50% at present. In 2009, JES organized a committee to promote women's careers, with the nickname "JES We Can (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association)." The acquisition rate as board-certified endocrinologists (BCEs) of women aged ≥ 40 years was significantly lower than that of men in 2009. However, in 2017, the gender difference among BCEs in this group (currently aged ≥ 50 years) improved considerably through various activities. However, the acquisition rate as certificated endocrine educators (CEEs) of women was still significantly lower than that of men in 2017. The ratio of female oral speakers or poster presenters at annual academic meetings has grown to equal or surpass the membership ratio and the numbers of female chairpersons and invited speakers have increased from 2009 to 2017. Female members make efficient contributions to society. JES We Can was found to be effective in reducing the gender gap in academic activities at JES. We hope that JES We Can supports women more intensely to raise the rate of CEEs and BCEs and promotes more women in higher positions in JES in the future.

【日本内分泌学会】 本学会は、内分泌代謝学に関する学理及び応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等を行うことにより、内分泌代謝学に関する研究の進歩普及を図り、もって我が国における学術の発展と人類の福祉に寄与することを目的としており、平成29年に90周年を迎えました。臨床専門領域は内科だけでなく小児科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科領域も包括し、研究領域も分子メカニズムから臨床疫学、情報など広範にわたります。よって、臨床医だけでなく、基礎研究者、企業関係者と多様な会員が所属しています。

【JES We Canの誕生】 平成17年、学会の教育育成部門の活動として、内分泌代謝専門医を取得する女性医師を支援する女性医師専門医育成・再教育委員会が発足しました。米国内分泌学会(ENDO)のWE (Women Endocrinologists) 活動を参考に、ニックネーム“JES We Can (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association)”が生まれました。

【男女共同参画推進委員会へ】 内閣府男女共同参画局、総務省、文科省の「女性研究者研究活動支援事業」をうけ、女性研究者会員の支援も行い、対外的な男女共同参画業務を担うために、平成28年、本委員会は「男女共同参画推進委員会」へと発展しました。現在は、役員（学会理事・監事）を兼ねる委員が理事会との連携を図り、女性医師応援小委員会と女性研究者応援小委員会を置き、活動しています。

女性医師応援小委員会は、9つの地方支部すべてに委員を置き、支部代表委員が中心となって、研究集会活動（企画運営へ参画）、先輩女性医師による後輩支援など、支部長と連絡を密に取りながら活動を進めています。また、内科系17基幹学会の一つとして「内科系学会の男女共同参画に関する連絡協議会」に属し、内科女性医師の環境改善の議論に積極参加しています。

女性研究者応援小委員会は、主に、全国レベルの学術集会でのJES We Can企画運営、啓発活動など、女性基礎研究者会員を中心に活動しています。「男女共同参画学協会連合会」にも参加し、全国の学協会の情報を、活動に反映させています。

WEとの交流も深めており、平成28年には第89回日本内分泌学会学術総会（京都）でWE会長Dr. Gaddyを招聘し特別講演を企画しました。平成30年には、筆者がENDOの学会改革会長諮問委員会(Governance Task Force)の委員に選出され、アジア女性会員の代表として役割を果たしてきました。

【JES We Canの活動成果分析】 本学会の女性比率の割合は33%と内科系基幹学会の中で最も高く、20歳代では50%に達しています。学術集会での口頭・ポスター発表者の女性割合は、会員の男女比と差がないだけでなく上回っていました。2009年には女性でやや低かった専門医取得率も、現在は男女同等になり、活動の成果が見られています。これらの結果の詳細は、Endocr J 66: 359-368, 2019. doi: 10.1507/endocrj.EJ18-0501で報告しました。

日本国際保健医療学会におけるダイバシティ強化

日本国際保健医療学会（大西真由美・長崎大学生命医科学域保健学系）

Enhancing Diversity in the Japan Association for International Health

Japan Association for International Health (Mayumi Ohnishi, Nagasaki University)

Abstract:

The Japan Association for International Health contributes to the progress and enhancement of international health, as well as the promotion of academic and cultural activities. Although the proportion of female membership is high, the number of female students and young female members has been decreasing in recent years. Challenges faced by the Association are new-member acquisition and conversion of student-members to full-members.

【日本国際保健医療学会の目的】

国際保健医療学に関し、会員の研究発表、知識の交換並びに会員相互間及び関連学会との研究連絡・連携の場となり、国際保健医療の進捗普及に貢献し、もって学術文化の発展に寄与する（学会ホームページより）。

≪学会ホームページ URL≫

<https://www.jaih.jp/>



【日本国際保健医療学会の会員構成】

会員種別 (2020年3月現在)	合計	男性	女性	女性 割合(%)
会員	1,055	380	669	63
一般会員	760	272	488	64
大学院生会員	119	33	86	72
学生会員	59	18	41	69
代議員	76	35	41	54
役員	29	17	12	41
理事	26	15	11	42
監事	3	2	1	33
名誉会員	6	5	1	17
賛助会員	6			

【女性および学生会員の推移】

		2014	2017	2020
総会員数（人）		1,216	1,126	1,055
女性割合	女性会員 (%)	63	64	63
	女性代議員(%)	49	56	54
	女性理事(%)	30	27	42
	女性名誉会員(%)	0	0	17
学生・大学院生会員(%)			23	17

【男女共同参画に係る取組】

1. 日本国際保健医療学会学生部会

- 全国にいる国際保健に関心を持つ様々な分野の学生に対して、地域格差のない情報や機会の提供を行い、世界で活躍できる人材を育成することをもって日本及び国際社会に貢献することを目指す
- 世界の健康格差を是正することを目的とした学問「国際保健」＝「グローバルヘルス」を学びたい学生のプラットフォームを構築



学生部会ホームページ URL

<https://jaihsstory14.jimdofree.com/>

2. 奨励賞

以下の要件を満たす論文の著者に対して授与

- 1) 原則として 40 歳以下（2020 年度は、45 歳以下とし、対象者を広く募った）
- 2) 3 年以上会員として在籍
- 3) 過去 2 年間に本学会誌“Journal of International Health”に掲載された論文・活動報告等を優先する。他の関連学術雑誌に発表された論文等の場合は、その内容が本人により本学会総会で報告されていること

【課題】

女性会員割合は比較的高いが、近年、学生会員・若手会員数が減少傾向であるため、新規会員増および学生会員から正会員への定着のための発信力を強化する必要がある。

日本海洋学会における男女共同参画関連の活動紹介

男女共同参画担当 安中さやか（海洋研究開発機構）・伊藤進一（東京大学）

Introduction for Gender Equality in the Oceanographic Society of Japan

Gender Equality Panel: Sayaka Yasunaka (JAMSTEC), Shin-ichi Ito (Univ. Tokyo)

The Oceanographic Society of Japan was established in 1941 to progress and promote oceanography in Japan. Percentage of women in our society increased to more than 10% in the 2000s from less than 5% in the 1990s. However, it has plateaued after the late 2000s. Events related to gender equality have been held in the annual meetings since 2017. We joined the Japan Inter-society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering in 2018.

<学会紹介>

日本海洋学会は、海洋学の進歩普及を図ることを目的として1941年に設立されました。年2回の研究発表大会開催の他、英文・和文の学術雑誌の発行、研究業績の表彰や若手研究助成などを行っています。詳しくは、<https://kaiyo-gakkai.jp/jos/>をご参照ください。

<男女共同参画の現状>

海洋学会の女性比率は、1990年代から2000年代にかけて、5%以下から10%超へ増加したものの、2000年代後半から約12%で頭打ち傾向が続いています（図1）。また、2019年の一般会員の女性比率は11%である一方、学生会員では29%となっています。比較的若い世代で女性比率が高いものの、定着率が低いことが、全体の女性比率の頭打ち傾向につながっているようです。世界の海洋研究者の女性比率が約40%（Global Ocean Science Report 2013）であることを考えると、改善可能な科学分野のはずです。

<取り組み>

2017年度より、秋季大会に合わせて、男女共同参画関連のイベントが開催されるようになりました（表1）。外部講師を招いての講演会や、大学で実施されている制度の紹介、育児休暇を取った男性研究者の体験談や意見交換会などを通して、男女共同参画の機運醸成を図っています。

2018年度の男女共同参画学協会連合会への加盟をきっかけに、幹事会の中に、男女共同参画担当が置かれました。連絡会の活動として行われる各種調査の結果は、幹事会で報告されるとともに、学会ニュースレターにも紹介記事が掲載されて

います。

女子中高生の夏の学校のポスター展示には、2014年度より参加しています。毎年、多くの女子中高生や女子大学生との交流を楽しんでいます。

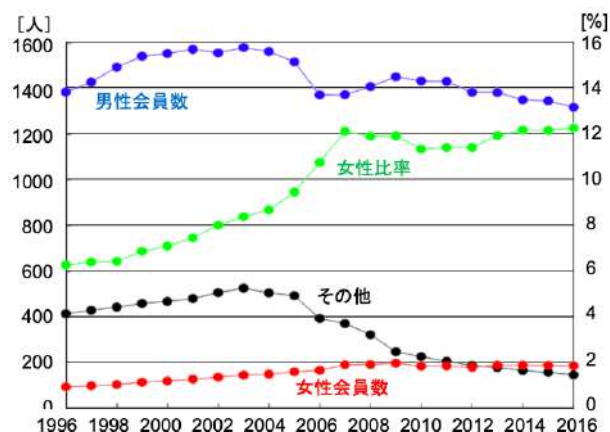


図 1：日本海洋学会における男女別会員数と女性比率の推移

表 1：日本海洋学会秋季大会における男女共同参画を考える会によるイベント

2017 年度	意見交換会
2018 年度	大坪久子先生による「無意識のバイアス」講演会
2019 年度	富山大学の取り組み紹介 育児休暇を取得した男性研究員の体験談

日本地形学連合 活動報告

日本地形学連合（小口千明・埼玉大学 ogchiaki@mail.saitama-u.ac.jp）

Proportion of women activities in the Japanese Geomorphological Union

Japanese Geomorphological Union (Chiaki T. Oguchi, Saitama University, ogchiaki@mail.saitama-u.ac.jp)

Abstract:

Japanese Geomorphological Union (JGU) established in October 1979. Members of JGU are belonging to not only geomorphology but also its adjacent fields such as geology, geophysics, geochemistry, civil engineering, agriculture, etc. The purpose of JGU is to elucidate and discuss issues that are closely related to the geomorphology itself or the terrain. It belongs to Japan Geoscience Union and corroborate each other. Main activities are publication, JGU summer school for encouraging young researchers, annual meeting or symposium, Natsugaku (summer school for high school girls), etc. Since the student ratio is low and the female student ratio is even lower, it is an urgent task for JGU to support and increase the number of young people.

<日本地形学連合とは>

日本地形学連合は、1979年10月に、地形学およびその隣接分野（地質学、地球物理学、地球化学などの地球科学諸分野、土木工学、農学等）の研究者や技術者が、地形そのもの、あるいは地形に深い関係をもつ諸問題について、解明し議論するために設立されました。

長時間にわたる地形変化は諸営力により地表付近の物体（岩石、水、土壌、生物、人工物など）を変質・移動し、その結果として、地表、水文現象、植生などの変化が比較的短い時間に生じたもののほかなりません。

地形を共通の対象として、講演、討論（連絡誌、論文集の刊行）を活発に行い、さらに現地討議などを通じて諸分野間の人的交流と地形研究成果の交換をはかっています。

<おもな学会活動>

通常の学会活動としては、学術雑誌の発行、学術大会、シンポジウム、JGU夏の学校（若手支援企画）などを行っており、日本地球惑星科学連合とも団体会員として相互に協力しています。

男女共同参画の観点からは、2013年度より「女子中高生夏の学校」に参加しています。2018年度まではアクティブラーニングを意識し、現地見学会を積極的に取り入れた実験企画を行っていました。夏学2020オンラインへの参加はスタッフ多忙のため見送りましたが、2019年度には、昨今の猛暑を鑑み、マインクラフトを用いた地形と地盤に関する室内実験を行いました。

<女性割合の基礎データ>

JGUにおける一般会員の女性割合は10.2%、学生会員の女性割合は6%であり、男女共同参画学協会連絡会のなかでは、最も「格差」がない学会です。しかし、これは、学生比率が低く、女子学生比率はさらに低いことに起因しており、学会そのものの活性化を必要としています。なお、代議員の女性割合は16%、役員（「主幹」と表記）の女性割合は9%です。

JGUは小規模な学術団体であるため、女性を対象とした賞はとくに設けられていません。これまでの受賞者における女性割合は、若手研究員を対象とした「研究奨励賞」（2009年度より実施）では9%、「ベストポスター賞」（2016年度より実施）では25%でした。

<今後の展望と課題>

JGUでは、若手の起用を意識して諸活動が進められてきました。しかし、その若手研究者の割合が低くなっていることから、若手や女子学生に魅力ある活動を意識して進めていくことが喫緊の課題です。

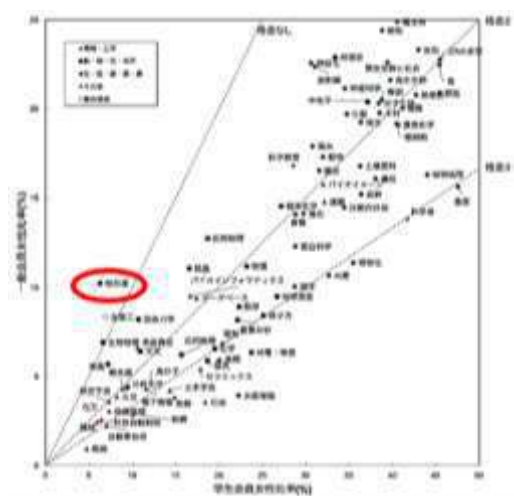


図1 一般会員女性比率と学生会員女性比率（連絡会調査データ、2019より）

<https://www.djrenrakukai.org/enquete.html#ratio>



男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会 活動報告

公益社団法人 地盤工学会

Equality and Diversity Annual Report 2019/2020

— the Japanese Geotechnical Society

The Japanese Geotechnical Society (<http://www.jiban.or.jp/>)

Abstract: The Japanese Geotechnical Society was established in 1949. One of its purposes is to promote technical advances and research activities in the field of geotechnical engineering. We are now challenging to increase young members and female members to fulfill the social demands. Engineers and researchers in geotechnical fields continue to contribute to the society which aims at safer environment against disasters and at reconstructing the existing infrastructures compatible to sustainable society.



【地盤工学会の概要】

地盤工学会は1949年に日本土質基礎工学委員会として発会、1954年に土質工学会として設立された。1995年に社団法人地盤工学会と改名、平成22年10月付で内閣総理大臣より公益社団法人の認定を受けた。2020年5月末時点での総会員数7,925人、うち女性は正・国際会員275人、学生会員118人、合計393人で女性比率は全体の約5%である。

男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会は、2010年に会員・支部部内に常設委員会として立ち上がった。主な活動は、①部会、各委員会メンバーへの女性会員の参加促進、②男女共同参画学協会連絡会への参加、③地盤工学研究発表会における託児所設置ならびにディスカッション・セッションの継続的開催、④同様の専門分野を扱う土木学会との情報共有と連携強化等である。

【男女共同参画・ダイバーシティに関する活動状況】

■会員費減免措置

2011年度より、ダイバーシティを促進するための会費減免を行っている。対象者の条件として、①若手（10歳代及び20歳代）であること、②男女共同参画に資すると認められること（30歳代女性）、③身体障害者手帳を有する障害を有すること、④出産休暇・育児休暇を取得していることとしている。

■コロナ禍における活動の模索

2020年7月に、地盤工学研究発表会（京都）で、例年実施していたダイバーシティ特別セッションと様々な世代間・国際交流を行う機会を提供している「サロン・土・カフェW（さろん・ど・かふえ・だぶりゅー）」を組み合わせ、会員同士の議論の場を設ける予定であった。しかし、コロナ禍で発表会が中止、セッション自体も中止となった。現在、委員会として学会に何が貢献できる

かを議論しており、オンラインで実施可能な活動を模索中である。

他学会の状況と同様に、地盤工学会でも、男女共同参画・ダイバーシティ委員会のみならず、学会活動全体において、対面行事の見直しを余儀なくされている。Zoomなどのリモート会議システムを急遽導入して、リモートでの行事实施、ルール化を進めているところである。先日もはじめてZoomでの講習会を開催し、対面講習会とほぼ遜色ない数の方に参加いただけた。

■HPを通じたダイバーシティの取り組み紹介

地盤学会誌2015年7月号に技術者・研究者の紹介を目的としたダイバーシティの特集が組まれた。その反響を機に継続的に様々な技術者・研究者の紹介を実施している。2017年1月から、技術者・研究者紹介web版をスタートさせた。仕事と家庭のバランスに悩んでいる方から、海外から日本にきて留学・就職して戸惑っている方まで、みんなが笑顔になるヒントが詰まっている。

今年度は、コロナ禍という特殊事情のなか、若手会員の子育て世代を中心に執筆をお願いし、準備を進めている。新型コロナウイルス感染拡大前後のワークライフバランス(WLB)について、半ば強制的にテレワークを余儀なくされた状況への対応の努力、子供の成長に合わせて出社・在宅の頻度を調整し、最適なワークライフバランスを模索するなど、今年の事情にマッチした興味深い内容が期待される。

■おわりに

会員の方々のWLBやダイバーシティへの取り組みを学会HPに掲載している※QRコード。今後もこの企画を継続し、多種多様なダイバーシティやWLBについて、ともに考えていきたい。

日本女性技術者フォーラム 活動報告

日本女性技術者フォーラム (本間美賀子・運営委員長 Email: info@jwef.jp, <http://www.jwef.jp/index.html>)

Japan Women Engineers Forum- Activity report

Japan Women Engineers Forum (Committee Chair Mikako Homma Email: info@jwef.jp, <http://www.jwef.jp/index.html>)

Abstract: JWEF was established in 1992 for women engineers to achieve the objectives by networking and exchanging information. The objectives are to improve each engineer's skill, to create the comfortable working environment where women engineers can demonstrate own abilities, and to contribute to society in increasing the number of women engineers. This year as well, we provided opportunities for female engineers to self-study and network through events and study sessions.

1. 当フォーラム紹介

日本女性技術者フォーラム (JWEF) は、①女性技術者自身の能力を伸ばす②能力を発揮できる職場環境、社会環境の実現 ③女性技術者を増やすための社会貢献を目的に、女性技術者相互の交流をはかり、業種業界を横断した研修の場を企画し、自己啓発や人材活性化の機会を設ける活動をしている。なお、2020年度からは、コロナ禍での活動継続や、地方会員の機会提供のため、オンラインによるイベント・勉強会などにも取り組んでいる。

【会員数】(2020年5月時点)

個人会員：101名 学生会員：13名

法人会員：15 社



女子中高生夏の学校
2019 への協力

2. 「JWEF女性技術者に贈る奨励賞」

その働きにより、既存の社会や職場での意識や風習を変革する成果をあげた若手女性技術者を表彰し、ロールモデルとして提示することを目的とした「JWEF 女性技術者に贈る奨励賞」を毎年実施している。2019 年度は、東京大学大学院理学系研究科准教授藤井通子氏が受賞。歴代の受賞者は、東京都「女性が輝く TOKYO 懇話会」への出席、女子中高生夏の学校への参画など、ロールモデル提示や女性活躍推進活動の一助を担って頂いている。

3. 部会活動

JWEF では、会員有志で、特定の目的を持った部会を作り、年間を通して活動を展開している。

例1) 産業技術勉強部会

経済産業省及び法人会員企業のご協力の下、我が国の産業の主な動向、今後の課題、施策、技術の現状などを俯瞰しより広い視野を得る機会を提供 (2019 年度のテーマ：海洋プラスチックゴミ/データ流通とブロックチェーン/CO2 排出削減の技術)。

例2) メンター部会

会員間でのメンタリング実施、メンター育成、ロールモデルカフェ等開催を実施

■2020.6.18 オンラインイベント「50代リケジョに聞いてみよう ～わたし、管理職になれますか?～」



4. 国際交流

JWEF は女性技術者及び科学者の世界的なネットワーク International Network of Women Engineers and Scientists (INWES) や、「日中韓女性科学技術指導者フォーラム」等への参画も行っています。

第19回中韓女性科学技術指導者フォーラム
@お茶の水女子大学



土木学会における男女共同参画の取り組み

土木学会 ダイバーシティ・アンド・インクルージョン (D&I) 推進委員会

(米山 賢 建設技術研究所 <http://www.committees.jsce.or.jp/diversity>)

Diversity and Equal Opportunity Achievements at JSCE in the 9th term

Japan Society of Civil Engineers (Ken YONEYAMA, CTI Engineering,
<http://www.committees.jsce.or.jp/diversity>)

Abstract: Diversity and Inclusion Committee of Japan Society of Civil Engineers (JSCE) works in a two-year term, proposing various activities while developing a stable foundation within committee. In this article, the achievements in the 9th term are introduced. They include: (1) JSCE Diversity and Inclusion Action Statement, (2) records of past activities and women civil engineers, (3) promotion of JSCE 2020 Project.

1. 土木学会の概要

土木学会には約38,000名を数える個人会員（正会員、学生会員）が所属し、女性会員の比率は5.7%となっている。1998年を基準とした最近20年間の経過では男性会員数がほぼ横ばいで推移しているのに対し、女性会員数は約4倍と大きく増加している。

土木学会ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会（略称：D&I推進委員会）は、2004年に教育企画・人材育成委員会のジェンダー問題特別小委員会として発足後、2006年に男女共同参画小委員会、2010年にダイバーシティ推進小委員会と名称を変更し、2014年にダイバーシティ推進委員会に格上げされ、さらに2020年に「インクルージョン」を加えた現在の名称に変更し、今日に至るものである。

当委員会は、2年一期を単位として現在第9期の活動を行っているところである。

2. ダイバーシティ推進に関わる活動状況

(1) ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言

多様な人材の活躍を推進する活動に取り組むという宣言である「ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言」（以下、「D&I行動宣言」という）は、将来にわたる継続的かつ発展的な社会資本整備の推進とそれを実現する人材の育成を目的として、2015年に策定された未来志向の宣言である。

D&I行動宣言はその策定・発表にとどまらず、宣言に基づいた具体的な行動に結びつけることが重要と考え、宣言の周知と意識向上の一助とすることなどを目指して「D&Iウィーク」という集約型イベントを前年に引き続き、2019年11月に実施した。

本イベントでは参加者がさまざまな視点からD&Iや働き方を考えるきっかけとなることを目指し、期間中に各団体や職場のD & I ポスターを展示したほか、D&Iカフェの開設、D&I関連の図書展示を行った。

(2) これまでの活動と女性技術者の記録

土木学会D&I推進委員会は、その前身の小委員会としての活動の中で、ジェンダー問題、男女共同参画などを取り扱ってきた。また、活動を通じて、さまざまな女性技術者の苦労や課題解決に向けた取り組みなどを、後進の参考としてもらうよう、その収集・周知などを行ってきた。

これまでの活動を現在もしくは将来に活かすため、男女共同参画やダイバーシティ推進が現在ほど認知されていなかった時代に苦労した方々の知見や経験を、インタビューなどを通じて収集・記録する活動を行った。記録の方法、蓄積した記録の取り扱いなどを示した要領を作成したうえで、2019年度中に3回のインタビューを実施した。

(3) JSCE2020 プロジェクトの推進

土木学会の2020年度からの新たな5か年計画である「JSCE2020-2024～地域・世代・価値をつなぎ、未来社会を創造する～（略称：JSCE2020）」における4つのプロジェクトの一つとして、「土木D&I2.0にむけた活動の場とツールをつくる」が位置づけられた。本プロジェクトは20～30年後に達成すべき目標である中期重点目標の「目標4：次世代の土木技術者の育成と多様な人材が活躍できる社会の実現」に該当する。

プロジェクトは、当委員会が他の委員会・組織と連携しながら進めるもので、これまで推進してきた土木学会のD&Iの成果と活動実態をふまえ、女性に限定しない対象の拡大と、取り組みの裾野の拡大をはかるためのアクティブなプラットフォームを構築する。また、それぞれの職場でD&Iの進捗状況、成果を意識化することで、土木界のD&I進展をはかるための土木界向けツールを作成することを目的としている。実施期間は2020～2022年度の3カ年を予定する。

日本鳥学会 2019－2020年度の男女共同参画活動報告

日本鳥学会企画委員会（堀江明香（大阪市立自然史博物館））

Report on the activities of the Ornithological Society of Japan for equal participation of men and women in science in 2019-2020

The Ornithological Society of Japan (Sayaka Horie, Japan Bird Research Association)

Abstract: The Ornithological Society of Japan was established in 1912, and currently has approximately 1,200 members. The main purpose of the Society is to contribute to the development of a wide range of ornithological studies. In 2019, the report written about the 16th symposium of EPMEWSE was published in Japanese Journal of Ornithology Vol. 69 (2020) No.1.

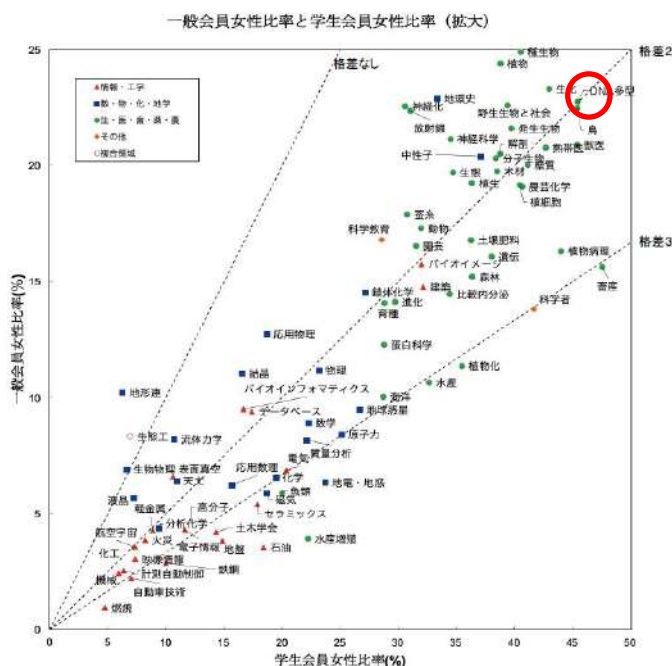
<日本鳥学会について>

日本鳥学会は、1912年（明治45年）に発足し、創立以来、鳥学の発展および鳥類保護への学術的貢献を目的として、様々な活動を行っている。

会員数は現在1246名。2019年の調査では、一般会員数は1068名（うち女性は240名、22.5%）、学生会員は141名（うち女性は64名、45%）。学生の男女比はほぼ1:1であるのに対し、一般会員には女性が少ない。女性の副会長への就任はあるものの、評議員15名のうち女性は2名である。

<日本鳥学会における現状と課題>

一般会員の女性比率は 13%（2013 年）、12%（2015 年）、14%（2017 年）、22%（2019 年）と、2019 年には多少改善されたものの（図）、いまだ十分ではない（いずれも「連絡会加盟学協会における女性比率に関する調査」(男女共同参画学協会連絡会) より引用)。



<2019-2020年度の男女共同参画の取り組み>

1. 第 16 回、第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告を学会誌等へ掲載

2018 年 10 月 13 日に開催された第 16 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに、日本鳥学会企画委員 1 名が参加し、2020 年 4 月に日本鳥学会誌 69 巻 1 号に、2020 年 6 月に学会員向けのブログ「鳥学通信」に参加報告を掲載した。

2019 年 10 月 12 日に開催される予定だった第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムは、台風 19 号の接近に伴い中止になったが、日本鳥学会企画委員が、後日公開された資料に基づいて男女共同参画の動向についてまとめ、学会員向けのブログ「鳥学通信」に掲載した。

また、男女共同参画学協会連絡会運営委員会に日本鳥学会企画委員がオブザーバー参加した。

<男女共同参画学協会連絡会と日本鳥学会>

2007 連絡会にオブザーバー加盟

第 5 回連絡会シンポジウムに参加（以後、毎年参加）

2008 大会において託児所開設（以後、毎年設置）

2012 第 3 回大規模アンケート調査実施

2013 年次大会でポスター発表

2014 学会誌に連絡会シンポジウムの内容について

ての報告を掲載（以後、毎年掲載）

2015 年次大会でポスター発表

2016 第 4 回大規模アンケート調査実施

日本植物バイオテクノロジー学会 男女共同参画活動報告

日本植物バイオテクノロジー学会 キャリア支援・男女共同参画委員会
(榎原圭子・理研、伊福健太郎・京都大学、梅原三貴久・東洋大学、藤原すみれ・産総研)
<https://www.jspb.jp/>

Recent Activities for the Promotion of Gender Equality in Japanese Society for Plant Biotechnology

Japanese Society for Plant Biotechnology

Abstract: Japanese Society for Plant Biotechnology (JSPB) supports development of both basic and applied researches in the fields of plant tissue culture, molecular biology and cell technology. To this end, we hope to facilitate exchanges of research information and cooperation among researchers of various disciplines, including basic science, agriculture, pharmacy, and engineering. The society has been concerned about gender equality and formed a gender equality working group in 2013. Upon request from the working group, arrangements of daycare during the annual meeting and subsidization of the cost have been decided. The society is also active in carrier support for young researchers.

<日本植物バイオテクノロジー学会について>

本学会は、前身を日本植物組織培養学会として1981年に設立されました。その後、1995年に日本植物細胞分子生物学会と改称、2016年7月に一般社団法人化、2020年7月に日本植物バイオテクノロジー学会と改称され、現在に至っています。植物組織培養、分子生物学、および細胞工学の基礎研究とその応用開発研究の発展をめざして、理学、農学、薬学、工学などの多方面の分野における研究者の協力と研究情報の交流を図ることを目的として活動を行っております。

<男女共同参画への取り組み>

学会設立30周年記念事業の提案に基づき、2013年に男女共同参画ワーキンググループ(WG)が設置され、2016年の一般社団法人化を機に、キャリア支援・男女共同参画委員会へと再編成されました。

2020年8月現在、本学会の会員数は807名(名誉会員6、一般会員630、学生会員145、特別賛助会員15、賛助会員11)であり、女性比率は、一般会員18.3%、学生会員40.7%、理事会37.5%、代議員14.0%です。代議員および理事会における女性比率に関して、一般会員における女性の比率と同等あるいはそれ以上になるように配慮しています。

1. 男女共同参画学協会連絡会活動への参加

日本植物バイオテクノロジー学会は、2013年からオブザーバー会員として男女共同参画学協会連絡会に加盟し、シンポジウム、運営委員会に参加しています。

2. 大会時における託児所の設置

本学会では、大会を年1回開催しています。これまで大会時の託児所設置の有無は、大会運営側に一任していましたが、男女共同参画WGの提言により、2014年度の大会より、託児所の設置もしくは紹介を実施するよう、学会側から大会運営側に依頼しています。また、設置の早期周知も依頼しています。

3. 託児所利用費の補助

大会時の託児所利用について、利用者の負担額を子供1人当たり半日:3,000円、1日:5,000円とし、実際にかかった経費との差額を学会から補助しています。

4. 座長の女性比率

大会における座長選定にあたっては、会員女性比率を考慮するよう大会運営側に依頼しています。

5. キャリア支援活動

2019年度の大会では、キャリア支援・男女共同参画委員会により、男女共同参画と、学生への海外留学の勧めというキャリア支援の観点から、ランチョンセミナー「海外研究生活から考えるキャリア形成とライフイベント」を開催し、アカデミアで活躍する若手・中堅研究者から、海外(ドイツ、フィンランド)で出産、子育てされた経験談、ご自身の子育てとの両立についてご講演頂きました。また、委員会から、日本学術振興会等による支援制度について紹介しました。

日本組織細胞化学会 活動報告

日本組織細胞化学会 理事長：小澤一史（日本医科大学・大学院教授）

事務局：〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル 中西印刷株式会社 学会部内

TEL：075-415-3661 FAX：075-415-3662 E-mail：jshc@nacos.com

Activity report: Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry

Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry (JSHC)

Abstract:

We held the Symposium organized by women in JSHC at the 60th annual meeting. At the symposium, six female speakers were invited to present their wonderful research. It was a good opportunity to promote gender equality.

1. 日本組織細胞化学会における男女共同参画の現状

日本組織細胞化学会は1959年に設立され、2020年9月現在会員数713名である。このうち女性会員は190名（27%）である。190名の内訳は20代23名、30代2名、40代50名、50代39名、60代21名などとなっている。30代が極端に少なく、ライフイベントとの関連が示唆され、ライフイベントと研究・学会活動を両立できるような環境づくりが必要と考える。

理事会では現在2名の女性理事（2名とも常任理事）が活躍している。現在、男女共同参画委員会は2名の男性委員と2名の女性委員から構成され、委員長は松崎利行氏（群馬大学・教授）が務めている。学会内では男女共同参画委員会としての活動は現時点では盛んとは言えないが、2019年の第60回学術集会では、女性理事2名がオーガナイザーとなり、シンポジウム「女性研究者セッション：組織化学研究の魅力を語る」を開催した。演者もオーガナイザーもすべて女性というセッションで、多くの聴衆が集まり、質疑応答も活発で、大変に盛況であった。

2. 今後の取り組み

上記、2019年の学術集会シンポジウムを契機に、男女共同参画委員会としての活動もおこない、会員の意識を高め、学会内はもちろんのこと、大学や研究室などの現場での男女共同参画の実践に結び付けて行くことが重要である。

男女共同参画委員会活動報告

公益社団法人 応用物理学会

(連絡先：為近恵美（横浜国立大学）、近藤高志（東京大学）、筑本知子（中部大学））

Committee's activities for gender equality

Japan Society of Applied Physics (JSAP) Contact: Emi Tamechika (Yokohama National University),
Takashi Kondo (The University of Tokyo), Noriko Chikumoto (Chubu University),

The committee aims to promote diversity in the fields of science and technology by providing everyone, regardless of gender and age, with the opportunities for making the most of their talents.

設立の経緯

2001年2月 男女共同参画ネットワーク準備委員会
を発足

2001年7月 「男女共同参画委員会」設立

2006年3月 「人材育成・男女共同参画委員会」へ
発展的改称

2011年4月 「人材育成・教育事業委員会」へ改編

2012年2月 「人材育成委員会」へ改称

2015年3月 「男女共同参画委員会」へ改編

目標

真に暮らしやすく個々が能力を発揮できる豊かな社会の実現を目指しています。十数名の委員（男女比約半々）が中心となり、男女共同参画の推進に取り組んでいます。応用物理学会内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、社会の活性化に寄与したいと考えています。

主な活動

【シンポジウムの開催】

応用物理学会における女性研究者の見える化、ロールモデルの提示を目的に年一度シンポジウムを開催しています。2013年春より4回にわたり、太陽電池、フォトニクス、バイオエレクトロニクス、プラズマと応用技術の各分野で活躍する女性研究者が最新の研究成果と将来展望を発表しました。

2017年春からは、男女に限らず誰もが能力を発揮し活躍できる社会の実現を目指し、若手研究者のキャリアパスや海外と日本の研究環境の違い等、様々なテーマを取り上げています。

【国際交流】

2008年IUPAP-WGに講演したのを皮切りに、GS (Gender Summit)、IUPAP (International Union of Pure and Applied Physics) にて、定期的に講演・ポスター発表を行っています。

【研究者ネットワークの強化】

2013年より、女性会員を中心とした研究者のネットワークの活性化を目指して、女子だけではなく「女子会」を開催してきました。2016年より、男性・女性・国籍を問わず多くの方にご参加頂くという趣旨で「NEWMAP (NEtwork for Women and Men in Applied Physics)」へ改称し、活発な議論の機会を提供しています。

【女子中高生の理系進路選択支援】

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、毎年「女子中高生夏の学校」へ参加しています。

【表彰事業】

2009年に、小舘香椎子先生の寄付をもとに「女性研究者研究業績・人材育成賞」が設立されました。応用物理学の研究活動において著しい成果をあげた女性研究者及び男女共同参画活動の推進・人材育成に大いに寄与した研究者（男女対象）を表彰しています。

詳細は下記ウェブページをご覧ください。

（公社）応用物理学会 男女共同参画委員会
<https://www.jsap.or.jp/gender-equality>

プラズマ・核融合学会 男女共同参画委員会活動報告

プラズマ・核融合学会 安藤 晃(東北大学)、下妻 隆(核融合科学研究所)、村上 泉(核融合科学研究所)、
芦川直子(核融合科学研究所)、井 通暁(東京大学)、
齋藤真貴子(量子科学技術研究開発機構)、筒井広明(東京工業大学)

gender@jspf.or.jp

Recent Activity of Gender Equality Promotion Committee in the Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research (Akira Ando・Tohoku Univ.)

Abstract: The recent activities of Gender Equality Promotion Committee in the Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research (JSPF) have been reported. The Committee was launched in June 2014. It has been carrying out (1) Investigation of the gender distribution of the JSPF members, (2) Planning of the activity of the Committee, (3) Convene an Informal Meeting in the annual JSPF meeting, and (4) Participation in the Summer School for Women's Junior and Senior High School Students.

プラズマ・核融合学会では、2013年9月に「男女共同参画委員会規定」を理事会承認し、2014年6月に委員会を組織し活動を開始した。これまで9回委員会を開催するとともに、いくつかの活動を実施してきている。以下に2019～2020年度に実施した主な活動内容を紹介する。

1. 本学会の女性会委員数の調査

本学会の2020年8月20日現在での女性会員は、1,457名の全会員中で57名(3.91%)であり変化はない。57名中正会員は38名、学生会員19名で、特に女性正会員は30-50歳台に25名と半数以上が分布している。民間企業の女性会員においては、3名と特に少ないが変化はない。

2. 本学会の男女共同参画委員会活動

本委員会の主な活動として、学会年会においてインフォーマルミーティングを企画すること、男女共同参画学協会シンポジウムへの参加、情報収集活動や「女子中高生夏の学校」への積極的な参加を行ってきている。また、本学会のホームページに、委員会の活動報告等の詳細を掲載している。

3. 男女共同参画委員会ランチョンミーティング

プラズマ・核融合学会第36回年会にて(2019年11月29日)、男女共同参画活動に関してのインフォーマルなランチョンミーティングを開催した。今回は京都大学の門信一郎先生による「中学高校理科におけるプラズマ現象の位置づけ」と題した基調講演ののち、現在の中学、高校生理科教育において、プラズマ現象をほとんど学ぶことができない現状を鑑み、「女性研究者が増えるために学会としてできることは何か?」について自由な意見交換を行った

(写真は、門先生ご講演の様子)。



4. 「女子中高生夏の学校2020」への貢献

毎年8月に国立女性教育会館で開催される同夏の学校は、今年度は新型コロナ禍の影響でオンライン開催となった。関連コンテンツの整備を本委員会でバックアップした。下記の図は、今回新たに準備したホームページの一部を示している。



<http://www.jspf.or.jp/genderequality/poster/>

参加学生とのキャリア相談は、今回リモートでの開催となり、グループ毎15分で合計7名の学生との面談を行った。生徒にとっては、進路選択に少しでも参考になるアドバイスが得られる貴重な機会となり、リモート開催でも、今年も無事に実施されたことは大変有意義であった。

尚、今回準備したWEBサイトは、若干の改訂を行いながら継続して運用される予定であり、コンテンツを整備する良い機会ともなった。



日本数式処理学会 活動報告2020

日本数式処理学会 (広報委員会内 男女共同参画担当)

Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation – Activity report 2020 –

*Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation
(Committee on Public Information)*

Abstract: The Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation (JSSAC) is an association consisting of those who have a deep interest in research, development, application, and usage of symbolic and algebraic computation. JSSAC was established in April 1992 for the purpose of progressing, developing, and popularizing symbolic and algebraic computation through mutual cooperation and exchange between members and related organizations. In June 2009, JSSAC moved to a general incorporated association. This report is the summary of our activities on gender equality.

<日本数式処理学会について>

日本数式処理学会は、数式処理に係わる研究・開発・応用・利用に深い関心を抱く者から成る組織であり、会員間および関連組織との相互協力・交流を通じて、数式処理の進歩・発展・普及を図ることを目的として1992年4月に設立されました。その後、2009年6月には一般社団法人に移行しています。

本学会は、数式処理そのものを研究対象とする数学系、情報系の会員から、数式処理を利用する立場の理学系、工学系、教育系の会員まで、幅広い分野の会員が所属しています。

2006年度には女性会長が誕生しており、早くから女性が活躍している学会といえるかと思えます。現在、理事7名中、副会長1名を含め2名が女性です。本学会では、入会時に性別のデータを集めていないため会員全体の男女比は不明ですが、理事における女性比率は明らかに会員比における女性比率より高くなっています。

<男女共同参画の活動>

(1) 本学会における男女共同参画の経緯

本学会は規模が小さいこともあり、男女共同参画に関する独立した委員会は設置されていません。ですが、その代わりとして 2014年に広報委員会内に男女共同参画担当が配置されました。以降、その体制の下で「女子中高生夏の学校」をはじめとした男女共同参画に関する学会内の調整や業務が行われています。

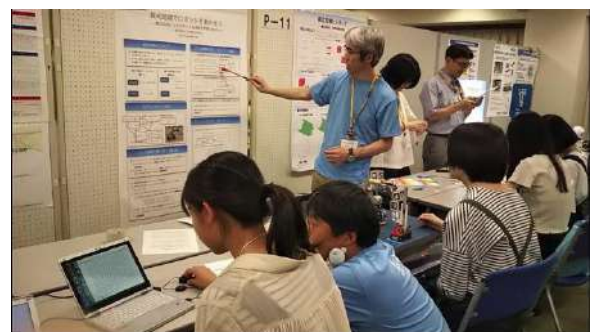
また、本学会は 2015年に男女共同参画学協会連絡会にオブザーバ会員として加盟致しました。以来、男女共同参画に関するアンケート調査などへの協力を行っています。

(2) 女子中高生夏の学校での活動

「女子中高生夏の学校」には、2015年から参加しています。

2019年度には、会長以下4名と学生TA2名で、以下のプログラムに参加しました。

- 研究者・技術者とのキャリア・進学懇談会への参加
- サイエンスアドベンチャー I 「ミニ科学者になろう」 実験・実習において "『数式処理』体験 -コンピュータを使った数学探求活動-" をマルチメディア室にて実施 (Raspberry Pi 上で Mathematica を使った計算実験を行いました。)
- サイエンスアドベンチャー II 「研究者・技術者と話そう」 ポスター展示において "計算力の限界を探る - 一手計算の限界を超えてひらける世界 -" を展示 (実際に、ロボットに触れたり、PCで計算を行ってもらったりしました[写真]。)
- Gate Way への参加
- 交流会への参加
- 「キャリアプランニングポスター発表」の見



一般社団法人 日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画 活動報告

一般社団法人 日本放射線影響学会 (担当: 常任理事 細谷 紀子・東京大学大学院医学系研究科)

連絡先: 学会事務局 E-mail: jimukyoku@jrrs.org

Annual report on the activities for career path and gender equality in the Japanese Radiation Research Society (2019-2020)

The Japanese Radiation Research Society (Noriko Hosoya, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo)

Abstract: The Japanese Radiation Research Society (JRRS) was established in 1959. As of May 2020, the society has 848 members and 22.9% of them are women. The JRRS Career Path and Gender Equality Committee was set up in 2015. Our activities include organizing annual seminars to discuss career progression or work-life balance, providing support for childcare during the annual meetings, and carrying out visibility surveys of female scientists in JRRS.

1. 日本放射線影響学会について

日本放射線影響学会は、1959年、放射線の人体と環境に対する影響とその機構の解明、ならびに利用への貢献を目指して学際的な放射線科学研究を推進する場として設立されました。設立当初から、物理、化学、生物、環境、医学、工学、放射線防護、被ばく医療などの幅広い分野の研究者が集い、分野横断的な研究交流の場としての機能を果たしてきました。学術集会として、1959年10月の第一回大会を皮切りに毎年学術大会が開催されており、2020年10月には、新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、第63回大会が「WEB開催」という形式で開催されます。また、学会誌として、1960年よりJournal of Radiation Research (JRR)を発行しており、2009年からは日本放射線影響学会 (JRRS) と日本放射線腫瘍学会 (JASTRO) の両学会の機関誌として、広く放射線科学に関連した研究成果を世界に発信しています。

本学会は、2015年4月に一般社団法人に移行しました。会員数(2020年5月31日時点)は848名(正会員652名、学生会員80名)であり、全体に占める女性会員の割合は22.9%、学生会員に占める女性の割合は33.8%です。2011年度より放射線科学研究の活性化と日本放射線影響学会の発展に寄与した女性研究者を顕彰するために岩崎民子賞を設けています。

男女共同参画学協会連絡会には、2016年度よりオブザーバー学協会として加盟しています。

2. キャリアパス・男女共同参画への取り組み

日本放射線影響学会キャリアパス・男女共同参画委員会は、2014年度に若手研究者支援活動の一環として設置された男女共同参画ワーキンググループを前身としており、2015年4月の一般社団法人化に伴い、専門委員会として設置されました。キャリアアップを支援する活動の企画や本学会における男女共同参画の実情を把握し、支援することを目的としています。2020年9月現在の当委員会の委員数は8名(男性4名、女性4名)です。

2019年度は、第62回大会(京都大学吉田キャンパス・京都府京都市)の1日目(11月14日)に、第6回委員会企画セミナーを開催しました。第一部では、京都大学理事・副学長の稲葉カヨ先生より「京都大学における男女共同参画の取り組み」についてご講演いただきました。稲葉先生は、京都大学男女共同参画推進センターの取り組みについて紹介された後、男女共同参画の実現のためには、女性側の意識改革や自身の能力を最大限に発揮する努力も大切である旨を述べられました。第二部では、「放射線影響科学から広がる多様な道～年代・性別の枠を超えて～」と題したパネル討論を行いました。大学院生からシニア研究者までの様々な年代の学会員5名をパネリストに迎え、会場全体の「リアルタイム意識調査」を行いながら、放射線影響科学から広がるキャリアパスにまつわる経験や考えを共有し、活発な意見交換を行いました。また、2度目の大会会場内託児所の設置・運営も行いました。

男女共同参画学協会連絡会で実施されている各種調査にも参加し、2017年度からは、学術大会における演題発表者等の属性調査も行い、女性会員の活動度の経年変化をモニターしています。

学会ホームページ内に、委員会のページを立ち上げており(下記URL)、活動状況を掲載しています。

https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html

3. 今後の予定

第7回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーを第63回大会の直前にオンライン(Zoom)で開催する予定です。「ウイズコロナ・ポストコロナ時代の研究推進のための知恵」をテーマに、各年代の学会員が、緊急事態宣言下、そして、解除後に、どのような苦労をし、どのような工夫をして研究を継続したのかについて共有し、ポストコロナ時代に向けて研究を発展させるための知恵を議論する予定です。

日本食品科学工学会活動報告

日本食品科学工学会（専務理事 川本伸一・学会事務局・kawamoto@jsfst.or.jp）

Introduction of the Japanese Society for Food Science and Technology and the ratio of women to the executives, delegates and members

The Japanese Society for Food Science and Technology (Shinichi Kawamoto・Secretariat・kawamoto@jsfst.or.jp)

The Japanese Society for Food Science and Technology was founded in 1953 as the Society for Agricultural Processing Technology, renamed the Japanese Society for Food Technology in 1962, and given its present name in 1984. We currently have approximately 2,000 members. Our Society engages in various activities such as convention of annual meetings, lectures, and research seminars as well as presentation of academic awards with the objective of contributing to the advancement of food science and technology through cooperation among researchers, engineers, and other professionals in businesses, universities, and national and public research institutions. In addition, we publish our journal in Japanese with English abstract("Nippon Shokuhin Kagaku Kogaku Kaishi") and English ("Food Science and Technology Research"). Current ratios of women to the executives, delegates and members are approximately 14%, 9%, and 27%, respectively. (132 words)

1. 日本食品科学工学会の紹介

日本食品工学会は、1953年に農産加工技術研究会として当時の農林省食糧研究所内に発足し、1962年に会名を日本食品工業学会に変更、1984年に社団法人日本食品工業学会、1994年に会名を社団法人日本食品科学工学会に変更、2013年に公益社団法人日本食品科学工学会となり現在に至っています。個人会員数が約1,800名と賛助会員（維持会員＋団体会員）数が178の学会です。

学会の目的は、食品科学工学に関する学術の発展と科学技術の振興を通じて国民の食生活向上に寄与するため、食品科学工学に関する学理及びその応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等を行うことです。具体的には、年1回学術大会（8月末に3日間で開催）と支部会（6支部）の開催、さらに学会委員会・支部企画の講演会、市民フォーラム等を不定期に開催しています。年次大会では、通常参加者約1,000名で一般講演発表数約350、シンポジウム・研究会講演数約70、若手の会ポスター発表数約100などが行われます。

学会では、発足以来和文誌の「日本食品科学工学会誌」（年間12号）を発行しており、2020年で67巻となります。また、英文誌「Food Science and Technology Research」（年間6号）も発行しており、2020年で26巻となります。英文誌のインパクトファクター（IF）は表1のようにここ3年間上昇しています。

表1 Food Science and Technology SearchのIF

年	ジャーナルIF	5年間IF
2019	0.553	0.749
2018	0.448	0.675
2017	0.379	0.593

最近では、他の学会同様に入会者の減少、特に学生を含む若手研究者の減少が顕著であります。そこで、学会では3年前に会費を半額にする学生オンライン会員制度とその一年後に会費を減額した通常オンライン会員制度を新たに導入しました。さらに、次世代を担う若手研究者（学生～入社2～5年程度）の研究・技術力向上と産官学の横断的な技術交流促進の場を提供するために1泊2日のフレッシュマンセミナー（講義と施設見学）を定員30名ほどでここ数年実施しています。

2. 会員、役員および評議員の女性比率

現在の学会の個人会員総数に占める女性会員の比率は、27%です。学会の役員（理事・監事）と代議員の任期は2年です。17期（2016年度－2017年度）、18期（2018年度－2019年度）および19期（2020年度－2021年度）での役員と代議員中に占める女性数を表2に示しました。

表2 役員および代議員中に占める女性数

期	役員(定員 28 名)	代議員(定員 70 名)
17	2	6
18	2	6
19	4	6

役員の女性数は19期で倍増する一方、代議員では女性数の増加は3期6年間なく、女性会員比率27%よりかなり低い9%となっています。

現在の社会情勢を鑑み、今後、特に役員と代議員に占める女性比率を高める努力を学会として真摯に取り組む必要があると考えています。

日本脂質栄養学会活動報告

日本脂質栄養学会（理事長 守口徹・麻布大学・moriguchi@azabu-u.ac.jp）

Proportion of women giving management and research presentations in the Japan Society of Lipid Nutrition

Japan Society for Lipid Nutrition (Toru Moriguchi・Azabu University・moriguchi@azabu-u.ac.jp)

Abstract:

The Japan Society of Lipid Nutrition currently has about 330 members, whose areas of expertise are primarily medicine, biochemistry, nutrition, and agriculture. The society's annual academic conference has contributed to information sharing and dissemination of research results on lipid nutrition, especially fatty acids. About 41% of the society's members are women, but women account for only 17% of officers, 22% of councilors, and 17% of committee members. Furthermore, although women gave 40% of poster presentations, they were underrepresented in oral presentations and symposia, accounting for only 34% and 18%, respectively. Looking at the changes in these rates over the past decade, we can say that there seems to have been no improvement over the past 10 years. (117 words)

1. 日本脂質栄養学会の紹介

日本脂質栄養学会は1992年に設立され、2021年には設立30周年を迎えます。現在、会員はおおよそ330名程度であり、医学、生化学、栄養学、農学系の専門家が中心となっています。年1回開催の学術集会は、脂質栄養、特に脂肪酸に関する情報共有および研究発表の場として貢献して参りました。特にその中でも多価不飽和脂肪酸（オメガ6系脂肪酸とオメガ3系脂肪酸）を扱ったテーマは多く、生活習慣病、アレルギー性疾患、精神神経疾患などとの関連を、基礎研究から応用研究・臨床研究まで幅広く取り上げて参りました。一般演題・シンポジウムのテーマは既述の分野を万遍なくカバーしている状況です。ただ、最近では（他の学会でも見受けられるように）若手研究者の減少が顕著であり、その世代の獲得・育成が課題となっております。その一環として、今年度からは、脂質領域を新たな探索の場として考えている若手研究者向けに「研究相談制度」を開始しました。またさらには、この脂質栄養全体の活性化および啓蒙活動のさらなる推進のために「講師派遣制度」を導入し、一般の方々へ広く脂質栄養の理解を広げていこうと考えております。

2. 会員、委員会、学術集会での参加者、発表者、シンポジウム、オーガナイザー、講演者等の女性比率

学会員における女性の比率	41%
役員(理事・監事)における女性の比率	17%
評議員における女性の比率	22%
9つの委員会における女性の比率	17%（重複あり）

学会発表の女性比率の調査方法：

過去（2010～2019年）の要旨集より、一般演題（ポスター発表、口頭発表）およびシンポジウム+招待・特別講演+ワークショップ+パネルディスカッションの発表者および共同演者の女性の合計人数をそれぞれの全体の合計人数で割って算



出した。

* 2018年は子連れの学会参加への対応を行った。

3. まとめおよび考察

2018年の学術集会では、乳幼児から高校生までの大会参加費の無料化、会期中無料かつ予約不要の託児室を会場内に設置した。2010～2019年におけるポスター発表、口頭発表、およびシンポジウム等の全体の女性比率は、それぞれ40%、34%、18%であり、一般演題に比較して明らかにシンポジウム等で女性比率は低かった。推移については、もともとの母集団が少ないために結論を導き出すことはできないが、少なくともこの10年の間で増えているとは言えない。

日本高血圧学会におけるダイバーシティ推進委員会の活動

日本高血圧学会 (中村敏子・関西福祉科学大学・s-nakamura@tamateyama.ac.jp)

Activities of the Diversity and Inclusion Committee of the Japanese Society of Hypertension

Japanese Society of Hypertension (Satoko Nakamura ・ Kansai University of Welfare Sciences ・
s-nakamura@tamateyama.ac.jp)

Abstract:

The Gender Equality Committee of the Japanese Society of Hypertension (JSH) started in 2013, and changed its name to the Diversity and Inclusion (D&I) Committee in 2018. JSH has collaborated with physicians and relevant healthcare professionals across generations, genders and specialties. JSH has promoted career development and lifelong education of its members, appointing young and/or women investigators to session chairs and symposium speakers. One of JSH's board members has been a woman since four years ago, who will chair the next annual academic meeting.

<日本高血圧学会について>

日本高血圧学会は、高血圧並びにこれに関する諸分野の研究調査、知識の普及・啓発、学術集会の開催を行い、国民の健康増進に寄与することを目的として、1978（昭和53）年4月1日に設立されました。

<ダイバーシティ推進委員会について>

日本高血圧学会（JSH）の男女共同参画委員会は2013年に発足し、2018年にその名称を「ダイバーシティ推進委員会」に変更しました。JSHは、世代、性別、専門分野にわたって医師や関連する医療専門家と協力してきました。JSHは、会員のキャリア開発と生涯教育を推進し、若手および女性をセッションの議長やシンポジウムの講演者に任命しました。JSHの理事の内1名は女性で、2021年5月の開催される第9回臨床高血圧フォーラムの会長を務めます。

<ダイバーシティ推進委員会活動報告>

(1) 託児室の設置：2021年のフォーラム時には12歳までの子供を受け入れます。

(2) 委員会ブースの設置：学会員同士の交流を支援します。

(3) 女性研究者奨励賞の授与：
2015年から行っておりキャリア開発に貢献しています。

(4) 委員会企画：2013年から学術総会内でD&Iに関する講演を行っています。

(5) 子どもの減塩教育に関する他の委員会との協力：2021年のフォーラム・総会では、親子でランチin大阪や、学会入ツアーのキッズイベントを行う予定です。

(6) 2020年にD&Iアンケートを実施し、その結果につ

いての論文を発表します。

(7) 2018年に委員会ホームページを作成。

(8) 2018年に The Asahikawa Declaration in Promotion of Diversity by the Japanese Society of Hypertension - the JSH Asahikawa Declaration -を行い、論文を発表しました（S Nakamura, et al. Hypertens Res、2019、42：1483-1484）。

<第9回臨床高血圧フォーラムのご案内>

日時：2021年5月15日(土)、16日(日)

会場：千里ライフサイエンスセンター

会長：中村 敏子

(関西福祉科学大学・福祉栄養学科・教授)

副会長：豊田 一則

(国際循環器病研究センター・副院長)



軽金属学会男女共同参画委員会活動報告

軽金属学会（関史江、元東京大学、sekif2010@gmail.com

Activity report of JILM Gender Equality Committee

The Japan Institute of Light Metals (Fumie Seki, sekif2010@gmail.com)

Abstract: It is the only academic group in Japan regarding light metals (JILM) that was established in 1951 with the aim of advancing science and technology related to light metals such as aluminum, magnesium and titanium. Main activities are 1) holding research meetings, academic lectures, etc. 2) promoting research cooperation and collaboration in Japan and overseas 3) publishing academic journals, academic books, etc. Recently, in collaboration with related organizations such as Japan Aluminum Association, through various research and development utilizing the characteristics of light metals, we have played a leading role in the fields of recycling and energy saving and contribute to the maintenance and improvement of the global environment. In November 2006, the first "Women's Member Meeting" was held and from the 3rd meeting, becoming an official organization of the society. The 29th meeting will be held in November 2020. We established "Light Metal Women's Future Award" in 2009. The Award is the first academic society in Japan to honor young women, is given to up-and-coming female researchers and engineers under the age of 45. The JILM Gender Equality Committee since March, 2018. (<https://www.jilm.or.jp>)

1. 一般社団法人 軽金属学会の紹介

軽金属学会は、アルミニウム・マグネシウム・チタンなど軽金属に関する学術・技術の進歩を図り、工業の発展を目的として1951年に発足した軽金属に関する日本で唯一の学術団体です。主な活動は1)研究会、学術講演会等の開催2)国内外における研究協力・連携の推進3)学会誌、学術図書等の刊行等。最近では日本アルミニウム協会等の関連団体と連携し、軽金属の特徴を活かした各種研究開発を通じ、リサイクルや省エネ分野で指導的役割を果たし地球環境の維持・改善に貢献しています。

2. 女性会員の会と男女共同参画委員会設置

2006年11月講演大会中、第1回「女性会員の会」を開き、第3回から学会正式組織となりました。女性会員相互の親睦と情報交換を通じて、女性研究者・技術者が能力を十分に発揮できる環境づくりを目的とした、ゆるやかな会合を重ね、2020年11月に、第29回を迎えます。成果1：2009年「軽金属女性未来賞」創設。日本の学協会で初めてとなる、若手女性を讃える「軽金属女性未来賞」は、軽金属分野で顕著な功績をあげ、将来の活躍が期待される45歳以下の新進気鋭の女性研究者・技術者に贈るものです。現在までの受賞者は12名。成果2：2011年から学会託児室を継続設置。成果3：2018年3月、男女が共に活躍する学会活動

を通じて、研究・技術の活性化と発展を目的とする男女共同参画委員会を設立しました。2019年5月第1回セッション「男女共同参画の今を語る」、同年11月、第2回「若手のキャリアパス」を開催しました。

3. 2018年3月男女共同参画学協会連絡会オプザーバー加入

学協会連絡会の有益な情報を共有し、無意識のバイアスを意識して、男女平等を図ります。2018夏学の見学で若手育成の意義に共感したので、2019夏学ポスター展示に初参加しました。2020夏学オンライン、キャリア座談会に参加し、女子高生との会話で、未来の夢を共有しました。



2019年11月 第27回女性会員の会(於東京)

公益社団法人日本水産学会 活動報告

公益社団法人 日本水産学会 男女共同参画推進委員会

Activity Report of the Japanese Society of Fisheries Science

The Japanese Society of Fisheries Science

(4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477, TEL/FAX 03-3471-2165, e-mail: fishsci@d1.dion.ne.jp)

Abstract: The Japanese Society of Fisheries Science (JSFS) was established in 1932 and is a non-profit registered charity, dedicated to the promotion of all aspects of fisheries science. 3,077 members belong to the society and 388 of them are women. The committee on gender equality was set up and the activity was started in 2012. This is an annual report of JSFS activities related to promotion of equal participation of men and women until September 2020.

<日本水産学会の概要>

日本水産学会は、水産学に関する学理および応用の研究についての発表、連絡、知識の交換、情報の提供などを行う場となることにより、水産学に関する研究の進歩・普及を図り、学術の発展に寄与することを目的として1932年に設立された。2011年3月1日には公益社団法人として認定され、2020年における会員（名誉会員、正会員、団体会員、賛助会員、外国会員および学生会員）の総数は3,289名であり、個人会員3,077名のうち女性は388名、学生会員270名のうち女性は80名である。国内はもとより、諸外国からも水産系の最も充実した学会として認められている。男女共同参画学協会連絡会へは、2011年度に正式加盟が承認され、2012年3月に男女共同参画推進委員会が発足した。

<男女共同参画に関する取り組み>

これまでに、①学会大会開催期間中における託児所の設置、②日本水産学会誌における女性研究者からの話題提供（2010年7月号～、隔月、「水産科学の分野で活躍する女性たち」）などを行ってきた。2018年以降における主な活動内容は以下のとおりである。

2018.3.26 日本水産学会春季大会理事会主催シンポジウム「日本水産学会のこれから－課題と展望」において、「将来へ向けた会員制度のあり方－多様な参画の確保へ向けて」を講演

2018.3.29 日本水産学会春季大会において、男女共同参画推進委員会談話会（ランチョンセミナー）「第3回 水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催

2019.3.26-29 日本水産学会春季大会において、大規模アンケートの結果のダイジェスト版をクリアファイルで配布

2019.3.29 日本水産学会春季大会において、男女共同参画推進委員会談話会（ランチョンセミナー）「第4回 水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催

なお、日本水産学会の全委員会委員数（延べ）292名のうち女性は20名で（特別委員会は除く）、役員20名のうち女性は2名である。数値のみにとらわれず、水産分野における男女共同参画推進についての質的な問題点の整理を当面の目標としている。

<学会の活動>

【大会の開催】 年2回（春季・秋季）開催される大会では、研究発表、シンポジウム、会員交歓会等が行われる。水産学関連の学会の中でも最も規模が大きく、この分野の中核をなす集会であり、周辺分野を含めた水産関連の最新の情報を得ることができる。

【支部の活動】 各地域の水産業との連携を強めるため、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の7支部を設け、研究発表会、講演会、見学会等の地域に根ざした催しを開催している。

【学会誌の刊行】 奇数月に約10編（年間約60編）の和文学術論文と各種の情報を掲載した「日本水産学会誌」、約20編（年間約120編）の英文学術論文を掲載した「Fisheries Science」を刊行している。

【学術図書への刊行】 最新の進歩を記述した単行本「水産学シリーズ」、水産に関する様々な知識や情報を一般向けにわかりやすく提供する「ベルソブックス」、水産の技術的解説ノートなどを論文にした「水産技術」の監修を行っている。

【産業界との連携】 産業界と学会を有機的に結びつけることを目的に、水産環境保全、漁業、水産利用、水産増殖、の4分野について懇話会等を開催し、産業界との連携を図っている。

【他の学術団体等との連携】 日本農学会に所属し国内の学協会等との連携を図るとともに、外国の諸学会との間に学術交流協定を締結し、国内外との交流を積極的に進めている（国内：日本農学会・男女共同参画連絡協議会・日本技術者教育認定機構など、海外：世界水産学協議会・アメリカ水産学会・イギリス諸島水産学会・韓国水産科学会・中国水産学会・アジア水産学会等）。

大学・研究機関 活動報告一覧



国立大学法人広島大学
森林機構

広島大学における産学官連携による女性研究者活躍促進の取組

国立大学法人 広島大学 男女共同参画推進室長 石田 洋子

TEL : 082-424-4428 FAX : 082-424-4355 E-mail : syokuin-sen@office.hiroshima-u.ac.jp

URL : <https://www.hiroshima-u.ac.jp/gender>

Hiroshima University's Industry-Academia-Government Collaborative Challenges to Support Women Researchers

Yoko Ishida, Director, Gender Equality Promotion Office, Hiroshima University

Abstract:

Hiroshima University (HU) has committed itself to realizing gender equal environment and to contribute to the achievement of the Sustainable Development Goals (SDGs) Goal 5 "Gender Equality" by valuing suitable balance between work and daily living for all university teachers and staff members and by making various attempts to support women researchers' research activities and leadership, since its announcement of Gender Equality Declaration in 2006. With the JST funding programs, HU has conducted various approaches including establishing a university-based nursery school; providing young female scholar encouragement awards etc. by setting goals with specific targets. HU established Diversity Research Center to carry out researches and practices related to diversity in 2016. New activities for further strengthen gender equality have been implemented since 2017 under the Career Advancement Project for Women Researchers (CAPWR), which is a JST funding program of "Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment (Collaboration Type)," in collaboration with academic/research institutes, local governments, and private companies to further support women researchers with women researchers in STEM field focused.

<本学のこれまでの取組状況>

広島大学は、2006年に男女共同参画宣言を表明し、2008年には男女共同参画担当副理事を配置、男女共同参画推進室を設置し、積極的に男女共同参画を推進する体制を整備してきた。

男女共同参画推進の行動計画に基づいて、広島大学の教職員が、性別にかかわらず、それぞれの能力を発揮し、高めあえる職場環境・教育現場にすることを目的として、男女共同参画に取り組んできた。現在は国際目標の持続可能な開発目標（SDGs）ゴール5「ジェンダー平等」達成への貢献も目指している。

具体的には、公募文書へのポジティブ・アクション記載と女性教員採用割合部局別数値目標の決定とその定期的モニタリング、学内保育施設の拡充・増設、育児介護支援、学童保育の実施、病後児保育利用料の補助とキャリア支援担当員の配置、などを通して仕事とライフ・イベントの両立を目指し、働きやすい職場環境の整備に努めている。

女性研究者支援に当たっては、女性研究者奨励賞の授与、既在籍女性教員に対するポストアップや女性限定公募といったポジティブ・アクションの実施を行うとともに、企業との連携（インターンシップなど）などを展開している。

上記の積極的な取組により、女性研究者・女

性管理職の割合は徐々に増加している。2016年にダイバーシティ研究センターを設立し、多様性から新たな価値を創造する研究と実践を進めている。

<国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム(Career Advancement Project for Women Researchers (CAPWR))>

広島大学は、2017年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択され、「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム(CAPWR)」を、共同実施機関であるマツダ(株)、デルタ工業(株)、(一財)国際開発センターを中心に、地域の大学や研究機関、地方自治体、民間企業等の38機関と連携して実施している。

同事業では、研究環境整備、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、女性研究者の積極採用・上位職登用、ダイバーシティ研究環境実現モデル開発の4つの取組を通して、大学と地域の企業等の女性研究者に新たな知識や機会を提供し、地域に根差しつつ、国際的な視点も有する女性研究者、特に理工農学系女性研究者の量的・質的拡充を目指している。

(国研) 森林研究・整備機構におけるダイバーシティ推進の取組について
 国立研究開発法人森林研究・整備機構 (伊ヶ崎 知弘, 工藤 直樹, 星野 大介, 久保田 多余子,
 小長谷 啓介, 松原 恵理, 田中 良平, 高山 範理, 菅原 久美子, 古田 直美・森林総合研究所・
 geneq@affrc.go.jp)

Promotion of Diversity and Inclusion in Forest Research and Management Organization

Forest Research and Management Organization (Tomohiro IGASAKI, Naoki KUDOU, Daisuke HOSHINO, Tayoko KUBOTA, Keisuke OBASE, Eri MATSUBARA, Ryohei TANAKA, Norimasa TAKAYAMA, Kumiko SUGAWARA, Naomi FURUTA・Forestry and Forest Products Research Institute・iga@affrc.go.jp)

Abstract: The Forest Research and Management Organization (FRMO) is promoting various environmental improvements on the working circumstances for diversity promotion. In view of a wide range of activities, in April 2016 the name and system of the “Encourage Promotion Headquarters” was changed to “Diversity Promotion Headquarters”, and the “Gender Equality Office”, which was the secretariat of the Headquarters, also renamed to “Diversity Promotion Office”. In the future, we will continue to disseminate various initiatives such as public relations and seminars both inside and outside of the organization, and promote diversity and inclusion throughout the FRMO in cooperation with local communities and other research institutions and universities.

1. ダイバーシティ推進の取組

森林研究・整備機構(機構)は、職場のダイバーシティ推進に向け様々な環境の整備を進めています。幅広い活層を視野に、平成28年4月には「エンカレッジ推進本部」の名称と体裁を「ダイバーシティ推進本部」に変更し、推進本部の事務局である「男女共同参画室」も「ダイバーシティ推進室」に改称しました。今後も引き続き、PRやセミナー等様々な取組について機構内外へ発信するとともに、地域社会や他の研究機関等と連携し、機構全体のダイバーシティを推進しています。

2. 機構内のダイバーシティ推進の意識啓発

平成29年4月の森林研究・整備機構への改称にあわせ、第4期中長期目標期間における機構としてのダイバーシティ推進の取組に関するパンフレットを作成し、ダイバーシティ推進の方針について機構内外に発信しています。

また、ダイバーシティ推進室のホームページ(HP)では、職員の育児や介護の経験を紹介する記事の連載、各種のガイドブックや男女共同参画の意識調査結果を取りまとめたリーフレットを作成しPDFで配布しています。活動を通じてダイバーシティ意識の向上と働きやすい職場環境作りに取り組んでいます。

一方、意識啓発のためのセミナー等として、研究所にて継続的に「ワーク・ライフ balan

ス」・「健康づくり」・「介護」等をテーマとしたセミナーを開催し、機構内別部門の森林整備センター、森林保険センターにおいてもダイバーシティ推進についての研修を開催しています。このほかに、内閣府が定めた男女共同参画週間(6月23日～29日)には、毎年、研究所正面玄関においてポスターの企画展示やどんぐりるーむ(一時預り保育施設)の見学会を実施しています。これらの活動を通じて、意識の向上と働きやすい職場環境作りに取り組んでいます。

3. 情報発信及び他機関との連携

機構では、令和元年9月から令和2年9月まで全国規模でダイバーシティ推進に取り組む研究・教育機関のコンソーシアムであるダイバーシティ・サポート・オフィス(DSO)の事務局・会長機関として活動しています。また、つくば市の男女共同参画学協会連絡会、つくば女性研究者支援協議会等にも参画し、シンポジウムやワークショップ、機構のHP、パンフレット等を活用してダイバーシティ推進の取組についての情報発信を行っています。

第 18 期男女共同参画学協会連絡会 活動報告



第18期 男女共同参画学協会連絡会 活動報告

幹事学会 公益社団法人 日本農芸化学会

Report of Activities during the 18th year of the Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)

The 18th secretary office: Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

Abstract: This report summarizes our activities, such as events, studies and proposals & requests, during the 18th year (November 2019-October 2020) of EPMEWSE.

<概 要>

幹事学会：日本農芸化学会

第18期幹事学会として、2019年11月1日から1年間、本連絡会の運営委員会開催、および事務局運営を担当しました。

[組 織]

委員長：熊谷 日登美

副委員長：裏出 令子、野尻 秀昭

委員：安保 充、飯嶋 益巳、上田 賢志、恩田 真紀、亀谷 将史、新町 文絵、竹中 麻子、辻 智子、袴田 航、室田 佳恵子、山口 勇将、吉永 直子
会計監査：野尻 美穂子、根岸 正己（日本物理学会）

[運営委員会]

下記の3回の運営委員会を、開催しました。

第1回 2019年12月9日

(明治大学アカデミーコモン)

第2回 2020年5月9日 (Web会議 (ZOOM))

第3回 2020年8月29日 (Web会議 (ZOOM))

<主催行事>

第18回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムを企画し、下記の後援のもと、2020年10月17日にWeb会議システム(ZOOM)で開催しました。

後援：内閣府男女共同参画局、文部科学省、経済産業省、科学技術振興機構、日本学術会議、国立大学協会、日本私立大学連盟、国立女性教育会館

[プログラム概要]

全体テーマ：「女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために～女性リーダーが例外ではない社会をめざして～」

分科会

・講演

原田 尚美 氏

(国研) 海洋研究開発機構地球表層システム研究センター長第60次南極観測隊夏隊長)

神崎 夕紀 氏

(協和発酵バイオ株式会社 常務執行役員経営企画部長)

・Workshop Summary

Dr. Lily Cushenbery

(Associate Professor, Stony Brook University's College of Business)

特別企画

・第18期提言・要望活動の報告

熊谷 日登美 氏 (日本大学教授)

・緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査報告

志牟田 美佐 氏

(東京慈恵会医科大学助教)

シンポジウム

・挨拶

吉田 稔 氏

(日本農芸化学会会長・理化学研究所・東京大学教授)

大矢 祐治 氏

(日本大学 副学長・生物資源科学部学部長・教授)

Kelsey De Rinaldis 氏

(Assistant Cultural Affairs Officer, U.S. Embassy, Tokyo)

松尾 泰樹 氏

(文部科学省 文部科学審議官)

林 伴子 氏

(内閣府 男女共同参画局局长)

・基調講演

上野 千鶴子 氏

(東京大学名誉教授・認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN) 理事長)

Dr. Elizabeth Lyons

(Program Director, Office of
International Science and Engineering,
National Science Foundation)

渡辺 美代子 氏

(科学技術振興機構副理事)

栗原 和枝 氏

(東北大学名誉教授・NICHe 教授, 男
女共同参画学協会連絡会第 8 期委員
長(第 5 期副委員長))

・パネルディスカッション

パネリスト: 上野 千鶴子 氏(前掲)

渡辺 美代子 氏(前掲)

栗原 和枝 氏(前掲)

司会: 北川 尚美 氏(東北大学教授)

・第 18 期委員長挨拶

熊谷 日登美 氏

(日本大学生物資源科学部教授)

・第 19 期委員長挨拶

岩熊 まき 氏

(株式会社東建エンジニアリング
R&D センター所長)

<主な活動>

(1) 「緊急事態宣言による在宅勤務中の研究者・技術者の実態調査」の実施

COVID-19 感染症にかかる緊急事態宣言による在宅勤務中の本会に所属する自然科学系学会の学協会員・人文社会科学系学協会の研究者・技術者を対象に提言要望 WG にてアンケートを 2020 年 5 月 15 日～6 月 13 日に実施し(回答数約 11,112 件)、2020 年 6 月より提言要望 WG(担当: 日本生理学会 志牟田 美沙、日本物理学会 野尻 美穂子) にて解析作業ならびに報告書(2020 年 7 月公開)作成を行いました。解析結果は HP に掲載すると共に、プレスリリースおよび講演を行いました。

(プレスリリース参加者: 第 4 期大坪 久子、第 11 期 佐藤 恵、第 12 期 平田 典子、第 16 期 寺田 宏、第 17 期 野尻 美保子、第 18 期 熊谷 日登美、第 19 期 岩熊 まき、日本生態学会 三宅 恵子、日本地球惑星科学連合 小口 千明、日本植物学会 佐々木 成江、日本生理学会 志牟田 美佐)

2020 年 7 月 6 日(ZOOM ミーティング)

毎日新聞大阪本社地方部 菅沼 舞 氏

2020 年 7 月 8 日(ZOOM ミーティング)

日刊工業新聞 論説委員兼編集委員 山本 佳世子 氏

2020 年 7 月 30 日(ZOOM ミーティング)

NHK 松田 伸子 氏

2020 年 7 月 13 日(オンライン講演)

JpGU-AGU Joint Meeting 2020

U-23 Diversity Covid-19 session(講演者: 第 12 期 平田典子)

(2) 第 4 回大規模アンケート解析報告書英文抄訳第 2 版の公開と印刷

第 4 回大規模アンケート解析報告書英訳 WG にて第 4 回大規模アンケート解析報告書英文抄訳本文に対して、より正確に意味を伝えるための補足説明資料を 2 ページ追加し、同時に英文抄訳 WG メンバーの名前も記載した第 2 版の報告書を連絡会 HP に公開するとともに 50 部印刷しました。(担当: 日本物理学会 佐野 幸恵)。
https://djrenrakukai.org/doc_pdf/2017/4th_enq/4th_enq_survey_report_en_v2.pdf

(3) 政府各所への要望活動

女性研究者・技術者の育成、および男女共同参画の一層の推進を目指し、第 6 期科学技術・イノベーション基本計画、第 5 次男女共同参画基本計画に要望書・声明文が反映されるよう、提言・要望書 WG と委員長を中心に、以下の 3 つの項目を要望する活動を、継続的に行っています。(省庁訪問参加者: 第 4 期大坪久子、第 11 期 佐藤 恵、第 12 期 平田 典子、第 15 期 北川 尚美、第 16 期 寺田 宏、第 17 期 野尻 美保子、第 18 期 熊谷 日登美、第 19 期 岩熊 まき、日本生態学会 三宅 恵子、日本地球惑星科学連合 小口 千明、日本植物学会 佐々木 成江、日本生理学会 志牟田 美佐)

・大学等全ての高等教育機関・研究機関における女性研究者の研究力強化のためのさらなる基盤整備

・多様な人材確保を目指した環境改善
推進及び女性研究者の育成支援

・次世代を担う女性研究者の育成

2020 年 2 月 27 日

文部科学省 科学技術・学術政策局

局長 菱山 豊 氏

人材政策課長 奥野 真 氏

人材政策推進室長補佐 有蘭 文博 氏

基礎人材推進第一係長 荒田 孔明 氏

2020 年 3 月 4 日

総合科学技術・イノベーション会議(CSTI) 議員 上山 隆大 氏

2020 年 5 月 19 日

内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当) 松尾 泰樹 氏

内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付 企画官 篠澤 康夫 氏
内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付 主査 加藤 正治 氏
内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付 主査 江崎 寛人 氏
2020年6月2日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
議員 上山 隆大 氏
2020年6月29日（ZOOM ミーティング）
高等教育局国立大学法人支援課
専門官 上原 貴之 氏
高等教育局私学部私学助成課 助成第一係
係長 鳥居 甲禄 氏
科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策
推進室 室長補佐 有蘭 文博 氏
科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策
推進室 基礎人材推進係
係長 西田 洋輔 氏
2020年7月29日（ZOOM ミーティング）
内閣府男女共同参画局 池永 肇恵 局長
2020年7月31日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
議員 上山 隆大 氏
2020年8月7日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
非常勤議員 富士通 梶原 ゆみ子 氏
2020年8月17日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
非常勤議員 松尾 清一 名大総長
名古屋大学理事 東村 博子 氏
2020年8月19日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
専門調査会委員 慶應大学教授/Yahoo CSO
（チーフストラテジーオフィサー）
安宅和人 氏（「シン・ニホン」著者）
2020年9月1日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
非常勤議員 株式会社三菱ケミカルホールデ
ィングス
取締役会長 小林 喜光 氏
2020年9月10日（ZOOM ミーティング）
文部科学省 松尾 泰樹 文部科学審議官
2020年9月10日（ZOOM ミーティング）
内閣府男女共同参画局 林 伴子 局長
2020年9月10日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
非常勤議員 国立研究開発法人物質・材料研
究機構（NIMS）橋本 和仁 氏
2020年9月10日（ZOOM ミーティング）

総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
非常勤議員 東北大学 小谷 元子 氏
2020年9月28日（ZOOM ミーティング）
高等教育局国立大学法人支援課 生田 知子
視学官，上原 貴之 氏
高等教育局私学部私学助成課
助成第一係 係長 鳥居 甲禄 氏
2020年9月29日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）
議員 上山 隆大 氏
2020年10月5日（ZOOM ミーティング）
文部科学省 松尾 泰樹 文部科学審議官
2020年10月5日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）非
常勤議員 NTT 会長・経団連副会長 篠原 弘道
氏
2020年10月12日（ZOOM ミーティング）
内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーシ
ョン担当）付 参事官 永井 岳彦 氏
内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーシ
ョン担当）付 企画官 中澤 恵太 氏
内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーシ
ョン担当）付 企画官 篠澤 康夫 氏
2020年10月20日（ZOOM ミーティング）
総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）専
門調査会委員 慶應大学教授/Yahoo CSO（チ
ーフストラテジーオフィサー）安宅和人 氏

(4) 内閣府男女共同参画推進連携会議
内閣府男女共同参画推進連携会議議員に熊谷委
員長が就任しました。

2020年3月2日

第64回女性の地位委員会（CSW）について聞
く会，が中央合同庁舎8号館1階講堂で開催
され熊谷委員長が出席する予定でしたが、
COVID-19感染防止のため中止されました。

2020年3月19日

「次世代への働きかけ チーム会」第1回会合
が中央合同庁舎8号館1階講堂で開催され
熊谷委員長が出席する予定でしたが、
COVID-19感染防止のため中止されました。

2020年10月13日

第39回男女共同参画推進連携会議に出席し、
「緊急事態宣言による在宅勤務中の研究者・
技術者の実態調査」の解析結果を報告した。

(5) 日本哲学会臨時大会 男女共同参画ワーク
ショップでの講演

2020年9月20日（オンライン講演）

日本哲学会臨時大会 男女共同参画ワークショップで、裏出副委員長が科学技術分野における男女共同参画の実態と男女共同参画学協会連絡会の取り組みを紹介する講演を行いました。

(6) 日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会と人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（以下、GEAHSS）との連携

2020年2月18日

日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会とGEAHSS主催の『どうする？ジェンダー平等人文社会科学系学会の未来』が日本学術会議講堂で開催され、熊谷氏が来賓として挨拶しました。

(7) WG 活動

女性研究者の採用促進に関する他国の政策と効果の調査WG、第4回大規模アンケート解析報告書英訳WG、女子中高生理系進路選択支援WG、提言・要望書WG等の活動支援を行いました。また、ホームページ検討委員会を発足させました。

(8) 新規加盟学協会の承認

正式加盟学協会（1学会）

日本熱帯生態学会

オブザーバー学協会（1学会）

情報処理学会

(9) 共催・協力・協賛・後援

共催（なし）

協力（1件）

・国立大学法人神戸国立大学 一般社団法人関西科学塾コンソーシアム「第15回女子中高生のための関西科学塾」

協賛（1件）

・日本化学会 男女共同参画シンポジウム「働き方改革時代におけるプロモーションとマネジメント」

後援（11件）

・日本解剖学会 第125回総会・全国学術集会 男女共同参画推進委員会企画シンポジウム「アカデミックキャリアと多様性の尊重-研究室タイムマネジメント向上-」

・一般社団法人日本熱帯医学会 男女共同参画推進委員会 第60回日本熱帯医学会大会第6回熱帯医学男女共同参画ワークショップ「グローバルヘルス：日本の女性・若手が世界で活躍するために III」ジェンダーギャップ指数第110位の日本から世界に向けて

・日本女性技術者フォーラム

2019年JWEF女性技術者に贈る奨励賞授賞式と記念シンポジウム「女性の力を活かした持続可能な未来づくり」

・日本農芸化学会ダイバーシティ推進委員会 日本農芸化学会2020年度福岡大会 男女共同参画ランチョンシンポジウム「女性のキャリア・ダイバーシティに係わる耳寄りな話を聞いてみよう」

・日本森林学会 第131回日本森林学会大会「森林学会におけるダイバーシティの実現について考える～だれもが楽しく参加できる学会・大会を目指して～」

・日本学術会議 第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会 「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティに関する課題と今後の展望」

・四国ダイバーシティ推進委員会（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学、徳島県立工業技術センター、徳島県立農林水産総合支援センター、アオイ電子株式会社、協和株式会社）平成30年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトシンポジウム2019「女性研究者が輝く Strong Network」

・日本学術会議 社会学委員会ジェンダー分科会 日本学術会議公開シンポジウム「理数科系教育とジェンダー」

・日本動物学会 第20回男女共同参画懇談会「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究を続けるためのコツとは～」

・日本放射線影響学会 第7回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー「ウイズコロナ・ポストコロナ時代の研究推進のための知恵」

・日本技術士会 第3回D&Iフォーラム「ダイバーシティ 2.0ー多様性を活用できる組織こそが生き残る時代へー」

(10) 活動調査の実施

全加盟学協会の活動調査結果は10月末にホームページで公開する予定です。

(11) 分担金

第18期分担金はすべての加盟学協会から分担金が納入されました。

■謝辞

第 18 期の活動にあたり、連絡会の内外からの多くの方々にお世話になりました。皆様のご指導とご支援に深く感謝いたします。

ワーキンググループ 活動報告



ワーキンググループ（WG）は、女性研究者・女性技術者の男女共同参画に関する問題・提案・活動の種をボトムアップ的に形成し、継続的な活動を行う場として、第8期からスタートしました。第18期におけるWGの活動は以下の通りです。一部WGについては詳細資料を掲載いたします。

1. 女性研究者の採用促進に関する他国の政策と効果の調査

コア学会：女性科学者の会

活動内容：今期は日中韓に絞り、女性科学者の活動促進やワークライフバランス等について調査を行う。アンケート解析結果も出てくるので、それに似せた比較調査などもする。

2. 女子中高生理系進路選択支援

コア学会：日本化学会・日本応用数理学会

参加学会：日本物理学会・日本応用物理学会・日本女性科学者の会・日本原子力学会・日本数学会・日本分子生物学会・日本女性技術者フォーラム等

活動内容：女子中高生理系選択支援事業の実践を通じた活動を行う。主に春（関西科学塾）または夏の学校の企画または実行委員会委員として活動を行う。中高教員や企業技術者等連絡会運営委員でない方の参加を認め、多様な視点からの実践活動を行う。さらに、大きな課題となってきた関連事業の継続の問題にも取り組む。

3. 大規模アンケート

コア学会：日本技術士会

活動内容：コア学会はアンケート実施年の幹事学会とし、大規模アンケート調査の設問検討を行う。第5回の大規模アンケートは2021年10月～11月頃の実施を予定しており、第4回までの設問を再整理、継続調査すべき設問、社会情勢に鑑み新たに加える設問の検討に着手した。なお、新たに加える設問に関しては、どのような視点が必要かについての勉強会も予定している。

4. 提言・要望書

コア学会：日本数学会

活動内容：大規模アンケートの結果を元に作成した提言・要望書を踏まえ、第5次男女共同参画基本計画及び第6期科学技術・イノベーション基本計画の内容及び施策について外部関係機関への働きかけを実施する。

5. 運営検討

コア学会：日本建築学会

活動内容：任意団体である男女共同参画学協会連絡会を一般社団法人に移行させるため、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会の組織、定款・規定等の案を作成し、運営委員会での審議を経て設立する。

6. ホームページ検討

コア学会：日本農芸化学会

活動内容：一般社団法人への移行を見据えて、ホームページのリニューアルを行う。

「女性科学者技術者の活躍促進に関する政策と効果の国際調査」WG 活動報告

日本女性科学者の会（野呂知加子・日本大学・E-mail: noro.chikako@nihon-u.ac.jp）

International investigation of policies and effects promoting participation of female scientist and engineers

*The Society for Japanese Women Scientists**(Chikako Yoshida-Noro・Nihon University・E-mail: noro.chikako@nihon-u.ac.jp)*

Abstract:

The ratio of Japanese woman researcher is lower than other countries. The increasing ratio of woman researcher is small, too. We investigated a policy and the increase of the real woman researcher ratio carried out in other countries and tried to check what was the most effective.

In addition, we have continued the meeting of women leaders in Japan, China and Korea for twelve years. To increase the number of women researchers and engineers, to invite more girls to the scientific fields, and to prepare better environment for the women researchers, enthusiasm of women researchers for solving these problems should have been a strong driving force for continuing the forum. In the forum of 2019 in Japan, we discussed on “Gender Equality for Sustainable Development Goals”. We hope to spread the international survey to the countries in all Asia and to continue the JCK Forum to make a better situation for women researchers in STEM.

1. ワーキンググループの目的と概要

女性研究者採用促進の政策は、日本だけでなく各国で行われている。他国の取り組みを、日本で効果的に採用するため、他国のプログラム、およびその効果を調査することを目的に本 WG を立ち上げた。現在のテーマは、

- 1) 欧米の施策と先進事例調査を行い、日本の施策に活かす。
- 2) 共通課題が多いアジアの実情、政策と効果について、調査、および会議による意見交換や情報収集を行う。

2. 活動実績

2010年4月に日本女性科学者の会(SJWS)で活動を始めた。連絡会WGとしての活動主体はSJWSであり、日本化学会・日本遺伝学会・日本生化学会等の様々な学協会と共に活動している。特に、日本女性技術者フォーラム(JWEF)および日本技術士会は、日本女性科学者技術者ネットワーク(JNWES: SJWSとJWEFと日本女性技術士の会JSPEWの連合)としてご協力いただいている。

2019-2020の活動

- 1) 欧米と日本のジェンダー平等評価比較
報告書作成 タイトル:「女性研究者支援 10年のあゆみ〜ジェンダー平等評価に向けた重要課題の整理と国際比較」 進行中
- 2) アジアの実情調査と会議
2013年 東アジアを対象として、国際 WEB

アンケートを実施(科学技術国際交流センターJISTEC:「女性研究者の採用・処遇に関する国際調査」実施。第11回連絡会シンポジウム分科会Aにて結果報告。

日中韓女性科学技術指導者フォーラムは2008年韓国ソウルにおいて開催され、以来1-2年毎に日中韓3国間で毎年主催国を変えて、女性科学者の増加、活躍できる環境の整備およびリーダーシップ育成等について議論している。

第9回日中韓女性科学技術指導者フォーラム2019年10月11日金曜日 9-17時 お茶の水女子大学国際交流留学生プラザにて開催 一般公開 主催: 特定非営利活動法人日本女性技術者科学者ネットワーク(JNWES)・男女共同参画学協会連絡会(「女性科学者技術者の活躍促進に関する施策と効果の国際調査」WG) 共催: お茶の水女子大学 後援 MEXT JST NVEC 報告書は連絡会ホームページよりダウンロード可
<https://www.djrenrakukai.org/symposium1.html>

3. 展望

日中韓女性科学技術指導者フォーラムは、今後も日中韓の女性研究者交流と発展の為に連絡会が主体となって継続してほしい。

「夏学」～2020女子中高生夏の学校～

女子中高生理系進路選択支援ワーキンググループ

“NATU-GAKU”-2020 Summer School for High School Girls

Promotion of Science and Engineering Education Working Group

The members of Promotion of Science and Engineering Education Working Group joined to the driving committee of “NATU-GAKU”, a three-day summer school for high school girls, supported by STEM Career Path Project for Girls(GSTEM-CPP). In Natu-gaku's plan, the participants are school girls and the staffs are scientists and engineers from academia and industry, school teachers and university students. The programs in Natu-gaku are supported by academic societies, companies and industrial organizations. The 2020 Natu-gaku plan is held in 2021 due to the CV19 issue.

（今年の女子中高生夏の学校はどうなった？）

2005年を初回とする女子中高生夏の学校（夏学）は、今年で16回目を迎え、国立女性教育会館（NVEC）において、8月8日～10日の2泊3日、コンセプトは「科学・技術・人との出会い」をテーマとし、実行委員長に今井桂子氏（日本応用数理学会）、学生委員長に古市萌氏で実施予定であった。しかし、コロナ禍の影響を受け、2021年8月7日～9日に延期した。これまでの共同者NVECが脱離し、連絡会を後ろ立てに、継続を目指して設立したNPO-GSTEM-CPPと実行委員会（WG）の出発の年でもあった。

（今年のWG活動は？）

2020年の夏学は延期となったが、WGはいくつかの活動を行った（1）～（3）。

（1）「夏学14年のあゆみ」編集

夏学は継続を実現する一つの選択として法人化の道を選択し、過去の在り方から大きな方向転換を行った。このタイミングで、過去の夏学活動を「14年史」として、野呂知加子氏（日本発生物学会）を中心に編集を行った。これは14年に渡り、連絡会加盟団体の多くの会員が、夏学という一つの目的の下での協同作業の記録である。冊子は販売もしているが、デジタルデータは次のサイトからダウンロードできる。

http://natsugaku.jp/natsugaku_archive/

（2）夏学オンライン

今年予定の夏学は延期となかったが、学生委員長古市萌氏と前学生委員長小暮純子氏の提案による夏学オンラインが実施された。その熱い想いは多く人を動かした。多くの学生が合流し、そこへ夏学実行委員会メンバーやWGメンバーも参加した。この夏学オンラインでは永合由美子氏（日本女性技術者フォーラム）が実行委員長として、山本文子氏（日本物理学会）が渉外担当として、多くの人の熱い想いの実現をサポートした。8月

16日、23日、30日の三日間において、その内容はキャリア講演、キャリア座談会、キャリアプランニング発表会、それらは夏学のエッセンスでもある。参加中高生は全国から150名を越え、夏学の新しいあり方を示した。

<http://natsugaku-online.natsugaku.jp/>

（3）NVECフォーラムオンライン

NVECは毎年8月末に男女共同参画に関心を持つ行政や多くの団体の関係者などが一堂に会するNVECフォーラムを開催する。今年はオンラインで8月26日～9月27日で行われた。WGは9月6日に夏学が生まれてから安定期への前半、9月20日には安定期から変化への後半を通じ、関係者が参加して、夏学14年の歴史を、広く情報発信する企画を行った。

6日は、2020年報告を実行委員長今井桂子氏、発足時期を野呂知加子氏、発足時からの仲間である日本原子力学&WINJの小林容子氏、2009年学生委員長刑部南月子氏、高校教諭の立場から古澤亜紀氏、ジェンダー研究者の横山美和氏、20日は連絡会加盟団体から、日本数学会の柏原賢二氏と大山口菜都美氏、稲城玲子氏（日本腎臓学会）、河西奈保子（応用物理学会）、湯浅富久子氏（日本物理学会）、横倉隆和氏（日本分子生物学会）、永合由美子氏、参加した中高生とその保護者や夏学TA、最後に法人化の中心である山本文子氏が、それぞれの想いを語った。

（夏学を知る）

夏学を知るためには、夏学ホームページは、<http://natsugaku.jp/>、NPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトホームページは、<https://www.gstem-cpp.or.jp/>、またはNVECホームページ>研修・イベント>研修をご覧ください。

（問い合わせ）

森義仁（日本化学会）, mori.yoshihito@ocha.ac.jp

女子中高生夏の学校

連絡会とその15年の歴史



連絡会女子中高生理系進路選択支援WG

(問い合わせ先: 森義仁(日本化学会), mori.yoshihito@ocha.ac.jp)

夏学は、単純に、科学・技術イベントに分類されるものではなく、男女共同参画推進の枠組みの活動であり、キャリアイベントと言ってもよい。その内容は、中高生に年齢が近い大学生は大学院生が実行委員となり、接続性の、軸となる企画を作り、3日間を参加者である中高生と時間と空間を共有する。連絡会WGはそれをサポートする。

男女共同参画学協会連絡会

2002年発足、理工系学術団体男女共同参画系委員会の連合体、
2018年8月現在104学協会加盟
◎大規模アンケート調査
◎提言(アンケート調査をもとに政府に提言)
◎シンポジウム
◎女子中高生理系進路選択支援

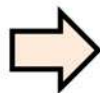
大規模アンケート調査

第1回目: 2003年、19291件
21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像
～男女共同参画推進のために～
第2回目: 平成19年、14110件
科学技術系専門職における男女共同参画実態の大規模調査
第3回目: 2012年、16314件
科学技術系専門職の男女共同参画実態調査
第4回目: 2016年、18159件
科学技術系専門職の男女共同参画実態調査



女子の理系進路選択の低さを解析すると

◎理系進学者増加のため
ロールモデルとの出会いが必要
◎進学に大きな影響を持つ保護者・教員に対するキャリアプラン情報



平成17年、2005年8月
第一回夏の学校を開催

共同提案



国立女性教育会館
男女共同参画推進における国の拠点

2020年脱離!

夏の学校の歴史

(1)2005/H17	(8)2012/H24
(2)2006/H18	(9)2013/H25
(3)2007/H19	(10)2014/H26
(4)2008/H20	(11)2015/H27
(5)2009/H21	(12)2016/H28
(6)2010/H22	(13)2017/H29
(7)2011/H23	(14)2018/H30
	(15)2019/R01

平成18年度予算

文部科学省 女性のチャレンジ支援関連施策

平成18年10月 文部科学省

- ◎女性のキャリア形成支援プラン(拡充)500万円
- ◎専修学校社会人新キャリアアップ教育推進事業(新規)2000万円
- ◎独立行政法人国立女性教育会館(拡充)7520万円
- ◎特別研究員事業における出産・育児になる研究中断からの復帰支援(新規)1310万円
- ◎女性研究者支援モデル育成(科学技術振興調整費プログラム)(新規)5000万円
- ◎科学技術分野における女性の進路選択支援(新規)3500万円

国の補助金から離れる(2018)

NPO女子中高生理系キャリアパスプロジェクト(2018)

夏学の全国への波及を目指して

各自治体の男女共同参画センターにご提案＝各センターでミニ夏学を実施(教育センターとは一線を画す)

国立女性教育会館での夏学は年に一回、100名程度の中高生が対象で、規模は限界、

そこで、案は、国立女性教育会館は国の男女共同参画センターであるなら、各自治体の男女共同参画センターでミニ夏学を試行する。

事例①: 講演会: 香川県×女性教育会館×夏学メンバー

Rikejoフェスタ保護者向けキャリア講座: 平成29年8月21日(月)

事例②: 講演会: 文京区男女平等センター×夏学メンバーor東北大学×夏学メンバー

今井桂子氏(「女性と教育格差とは」: 令和元年7月6日)、山本文子氏(「理工系女子キャリアパスのこれまでとこれから」平成31年3月1日)

事例③: 夏学風理科教室: 文京区男女平等センター×文京区女性団体連絡会×お茶の水女子大学環境科学倶楽部×夏学メンバー

未来の女性科学者育成事業「女子中学生のための科学への招待席」

平成26年12月19日、平成27年7月24日、平成28年11月27日、平成29年7月23日、平成30年3月25日

事例④: ミニ夏学: 自治体×夏学メンバー

長野塩尻: 平成30年3月25日・26日、群馬太田: 平成31年1月12日、長野塩尻: 平成31年3月23・24日、島根益田: 令和元年8月3・4日、

千葉: 令和元年7月27・28日

男女共同参画活動の枠組みの活動であり、教育センターの科学・技術イベントとは一線を画す

提言・要望書 小委員会 活動報告

男女共同参画学協会連絡会 提言・要望書WG (平田典子・日本数学会)

Report of activities by Proposals & Requests Working Group

EPMEWSE Proposals & Requests WG

Abstract: For the purpose of Gender Equality in Japan, we present our proposals and requests to Council for Science, Technology and Innovation (CSTI), Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) and several offices in Japanese Government, to try to improve the 6th Science and Technology Basic Plan. Since it seems to be still indispensable to support female researchers in Japan, we suggest concerning affirmative actions together with numerical goal of portion of female researchers and engineers in STEM.

<概要>

第4回大規模アンケート解析結果を踏まえ、2019年11月1日18期開始時から現在にわたり、第6期科学技術基本計画・第5次男女共同参画基本計画の本文の下書きの時期に女性研究者支援に関する記述を入れていただく目的のために、各省庁及び内閣府総合科学技術・イノベーション会議の議員と専門調査会委員の先生方に連絡会の要望書をお届けして説明をおこなった。連絡会要望書に含まれているGEMST Index 導入の必要性の認識を広め、第6期科学技術・イノベーション基本計画及び第5次男女共同参画基本計画に、国の基本指針における女性研究者・技術者支援に関する積極的な施策を入れていただけるよう、お願いしている。特に女性研究者・技術者登用の数値目標としては、「分野別・職位別・全体」の3種類の登用目標値を明記していただくことを依頼している。そのための具体的かつ段階的なプランを構築し、説得力のあるエビデンスと共に、資料として作成することを鋭意実行した。

また新型コロナウイルス感染症拡散防止のための緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査をおこない、解析したものを報告書にまとめて各所で発表した。報告書のプレスリリースもおこない、取材も受けた。当該報告書は連絡会のHPにも掲載されている。

<主な活動>

(1) 17期にまとめた要望書の付加資料を作成の上、各所にお届けした。内閣府総合科学技術・イノベーション会議の議員・専門調査会委員への説明に際しては、女性研究者・技術者登用の数値目標が説得力のあるもの、かつ実現可能なものになるよう、博士課程在籍者の女子学生割合に基づいた算出をおこない、試算したものを作成した。また若手研究者支援においては、若手女性研究者のライフイベントを考慮した年齢

制限緩和が必須であることも述べた。

要望書及び説明資料の提出先を以下に記す。

- ・2020年2月27日 文部科学省 科学技術・学術政策局長 菱山 豊氏
- ・2020年3月4日 総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI) 議員 上山隆大氏
- ・2020年5月19日 内閣府 政策統括官 (科学技術・イノベーション担当) 松尾泰樹氏
- ・2020年6月2日 CSTI議員 上山隆大氏
- ・2020年6月29日 文部科学省 高等教育局 国立大学法人支援課 上原貴之氏
- ・2020年7月29日 内閣府男女共同参画局長 池永肇恵氏
- ・2020年7月31日 CSTI議員 上山 隆大氏
- ・2020年8月7日 CSTI非常勤議員 梶原ゆみ子氏
- ・2020年8月17日 CSTI非常勤議員 松尾清一氏
- ・2020年8月19日 CSTI専門調査会 安宅和人氏
- ・2020年9月1日 CSTI非常勤議員 小林喜光氏
- ・2020年9月10日 文部科学省 文部科学審議官 松尾泰樹氏
- ・同日 内閣府男女共同参画局長 林 伴子氏
- ・同日 CSTI非常勤議員 橋本和仁氏
- ・同日 CSTI非常勤議員 小谷元子氏

(2) 緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査を2020年5月15日から1ヶ月間にわたり、Google Formで実施した。2020年7月27日付の日刊工業新聞にその報告記事が掲載された。回答者数は計11,112名(うち男性7,882名、女性3,140名)。毎日新聞・NHKからも取材を受けた。また地球惑星連合の国際会議においても本調査の報告を講演した。

(文責：提言・要望書 WG 委員長 平田典子)

在宅勤務アンケート報告書

緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査結果報告（令和2年7月15日）

男女共同参画学協会連絡会 提言・要望委員会

解析担当：志牟田美佐（東京慈恵会医科大学・日本生理学会）

野尻美保子（高エネルギー加速器研究機構・日本物理学会）

目的

新型コロナウイルスの感染拡大のため4月に出了された緊急事態宣言により、長期の休校や在宅勤務が続いた。状況によっては感染が再度拡大する等によりこのような事態が断続的に繰り返されることが懸念される。そのため緊急事態宣言により生じた環境の変化による科学者・技術者の実態を調査することで、問題点を抽出し、必要とされる支援や対策を早急に国や研究機関に要望するために本調査を実施した。

なお、詳細解析や自由記述の解析の追加は随時学協会 HP にて公開していく予定である。

アンケートの方法と実施期間

設問14件（付随する自由記述7件）を無記名式の電子アンケートを用いて、令和2年5月15日（金）～6月13日（土）に実施した（総回答者数：11,112人）

対象

男女共同参画学協会加盟学会（以下、学協会）に所属する学会の学会員、および社会・人文系学会など幅広い専門分野に属する研究者・技術者。

補足事項

設問7.2と設問10において、アンケートの英語版に誤記があった。しかし、英訳版を用いて回答した回答者数は非常に少ないことが推測されるため、影響は少ないと判断し、集計結果は修正せずそのまま掲載している。

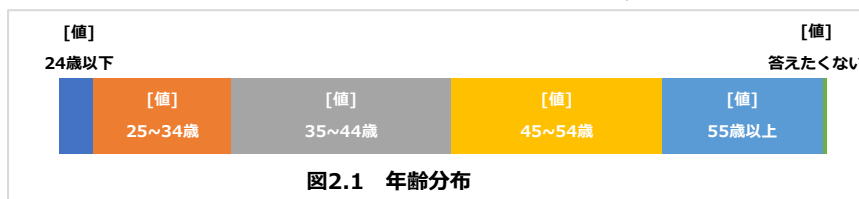
解析結果

設問1. あなたの性別を教えてください（必須回答）



総回答者数：11,112人
 男性：7,882人（70.9%）
 女性：3,140人（28.3%）
 答えたくない：90人（0.8%）

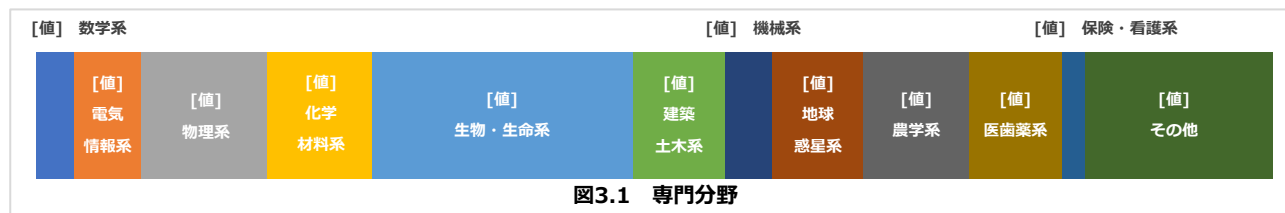
設問2.1. あなたの年齢を教えてください（必須回答）



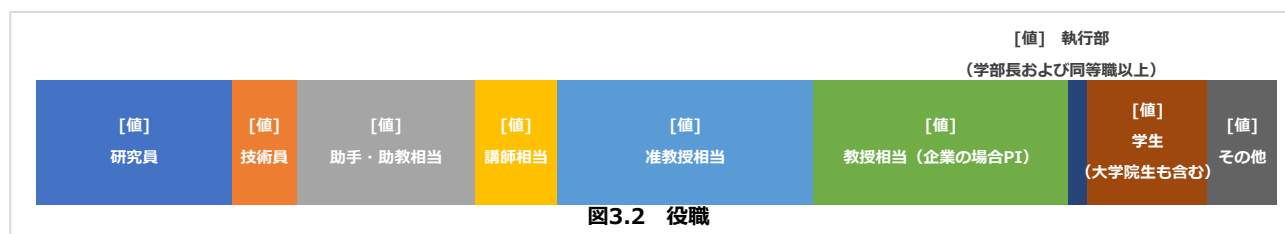
設問2.2. あなたの勤務先の都道府県をお答えください（解析中）

設問 3.1. 専門分野について、最も近いものを1つお選びください（必須回答）

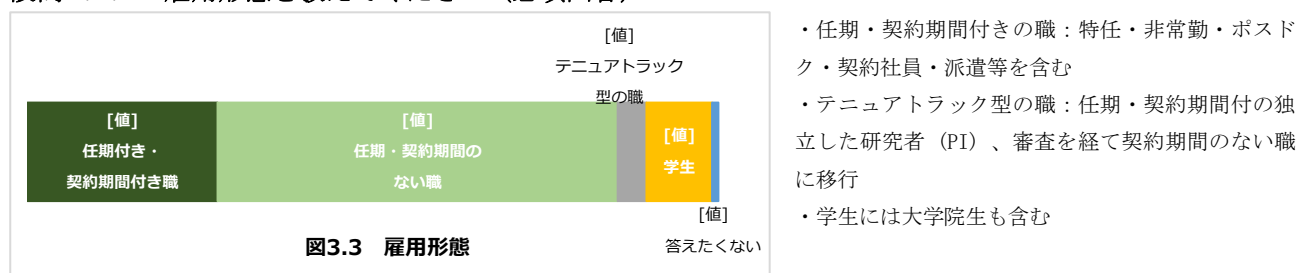
多様な分野の科学者・技術者から回答が得られた。なお、このアンケートは当初、本連絡会加盟学会の学会員を対象に選択肢を作成したため、人文・社会学系の研究者の多くは「その他」で回答していただいた。



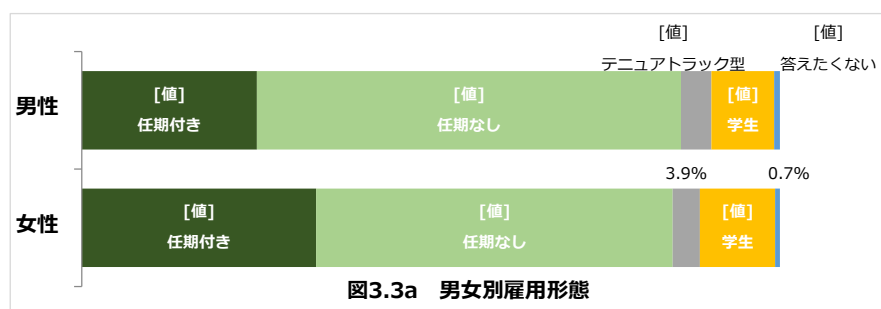
設問 3.2. 役職名（身分）を教えてください



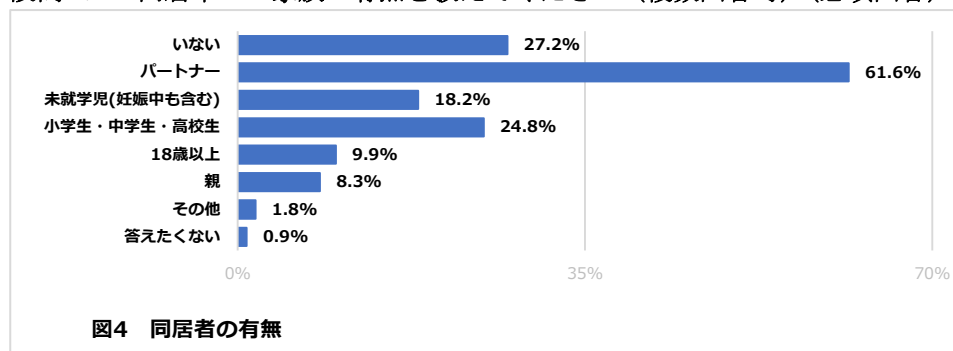
設問 3.3. 雇用形態を教えてください（必須回答）



男女別の雇用形態の解析では、女性は任期付き職の割合が男性より多いことが示された。



設問 4. 同居中のご家族の有無を教えてください（複数回答可）（必須回答）



設問 5. 介護中のご家族の有無を教えてください（必須回答）



緊急事態宣言後の変化を教えてください

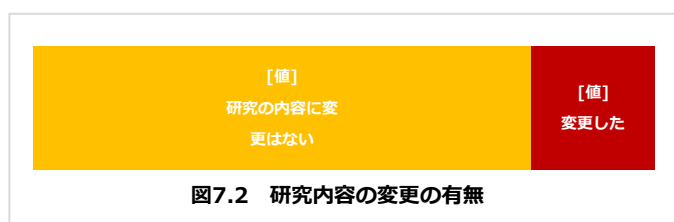
設問 6. 現在の勤務状況を教えてください（必須回答）



設問 7. 1. 現在の研究に費やす時間を教えてください（回答者数 11,089 人）



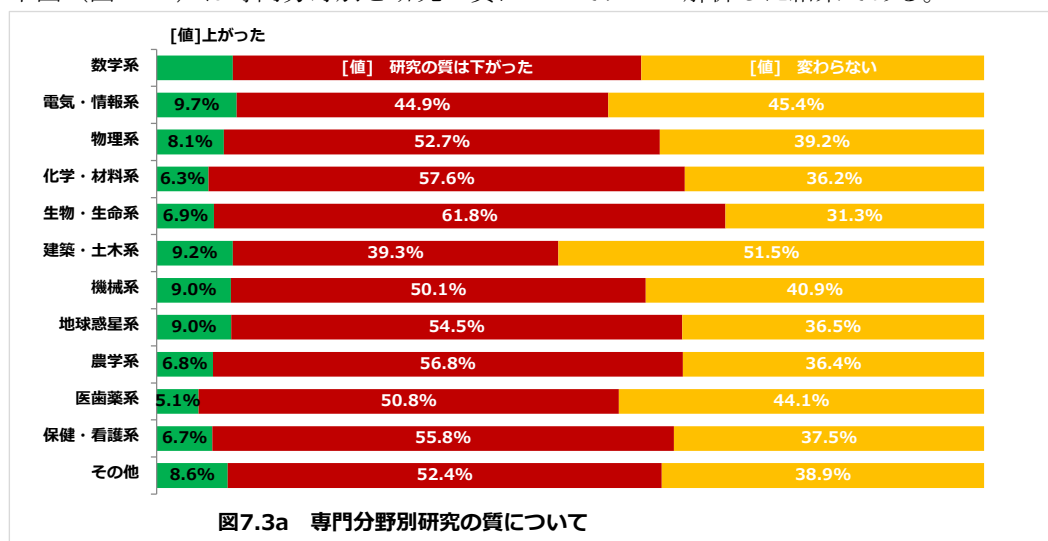
設問 7. 2. 現在の研究内容について教えてください（回答者数 11,050 人）



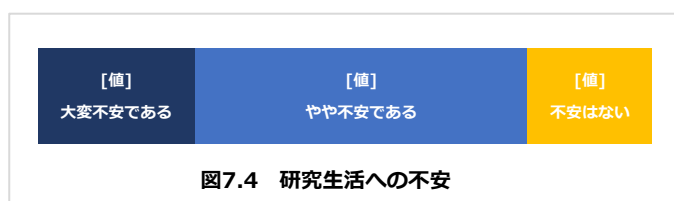
設問 7. 3. 現在の研究の質について教えてください（回答者数 11,050 人）



下図（図 7. 3a）は専門分野別と研究の質についてクロス解析した結果である。



設問 7. 4. 研究生活における不安はありますか（回答者数 11, 072 人）



研究生活における不安の雇用形態別クロス解析では、回答した学生（大学院）の約 90%が研究生活に不安を持っていることが示された。次に任期・契約付き職での不安が大きかった（図 7. 4a）

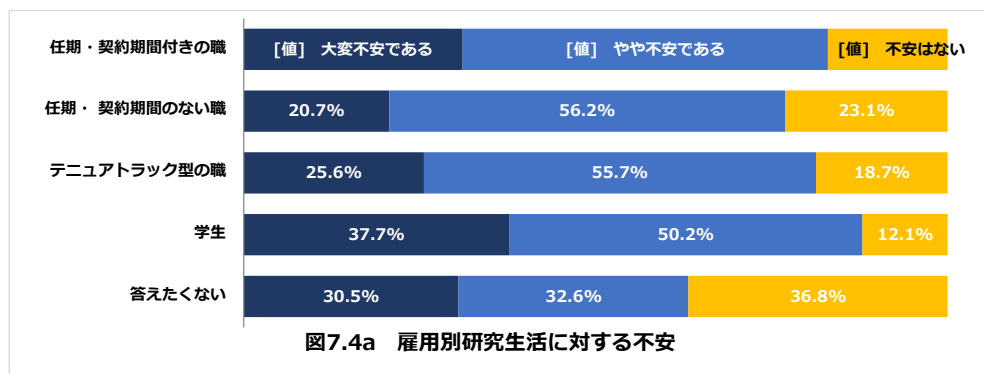
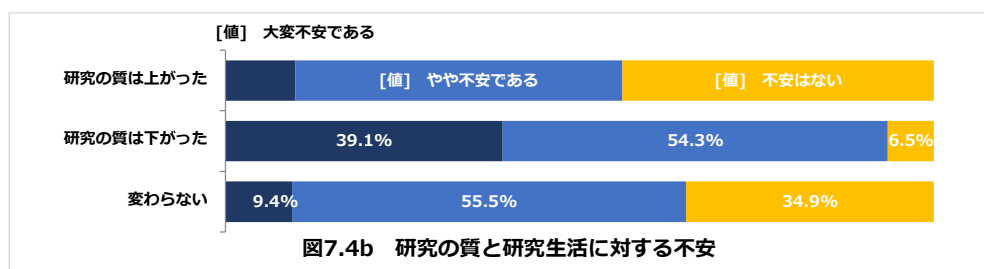
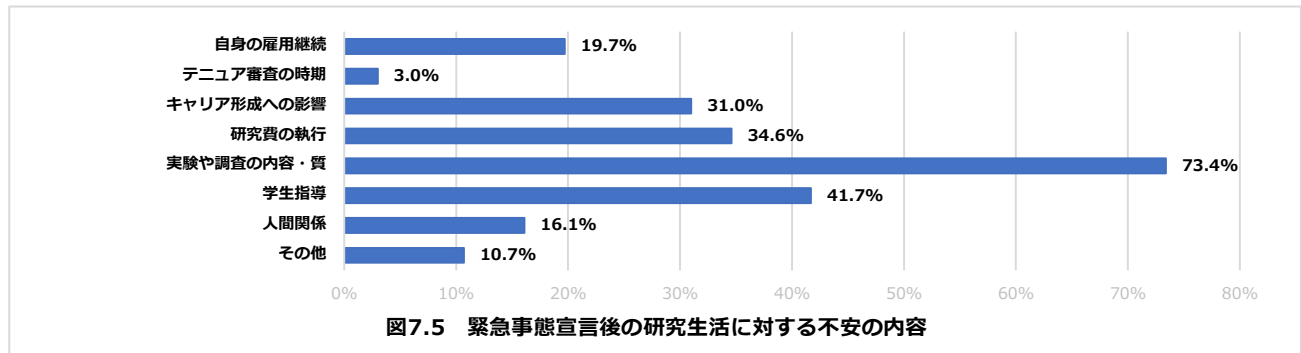


図 7. 4b は、研究生活に対する不安と質についてのクロス解析である。研究の質が低下したとする人々において特に不安が大きい。



設問 7.5. 研究生生活に不安があると答えた方は、その不安は何ですか（複数回答可）（回答者数 8,922 人）



上記で、その他を選んだ方は具体的な内容を教えてください（自由記述）（5月25日までの回答数984件）
内容別に8項目に分類した。

① 研究の遂行に対する不安（323件）

「移動の制限によるフィールドワークの中断」を訴える回答者が最も多く、次に「施設や機器、また研究内容の制限による研究の継続や質に対する不安」の記述が多かった。特に、生物・生命系では「大学の厳しい研究室使用制限のために組換え体の維持ができず、貴重で高額な研究費をかけて作製してきた組換え体を失ってしまった」「クラスター発生時には特殊な系統も含めすべて動物の殺処分の方針が決定された」など切実な内容が記されていた。

② 研究時間の確保ができないことによる不安（201件）

感染対策の業務、遠隔授業の準備、家事・育児・介護の増加を訴えるものが多かった。

③ キャリア形成・雇用・任期・留学、及び卒業（学位取得）に対する不安（115件）

学生による学位の取得、卒業論文の作成に対する不安が特に多かった。他にも「海外で雇用されるはずだったポスドクが渡航できず、無給で研究活動を行っている」、「強制的に帰国になりパートタイムの仕事になった」などが記されていた。

④ 学会・研究会中止、及び国内外交流に対する不安（71件）

⑤ 研究費についての不安（69件）

⑥ 指導・育成・教育に関する不安（56件）

⑦ 所属機関の運営、自身の収入に対する不安（39件）

⑧ その他（感染対策、健康、人間関係など）（110件）

設問 8. 1. ～8. 5. は教育に関わっている方のみお答えください。

設問 8. 1. 現在の教育に費やす時間を教えてください（回答者数 7, 205 人）



図8.1 教育に費やす時間

設問 8. 2. 現在の教育の内容について教えてください（回答者数 7, 101 人）



図8.2 教育の内容

設問 8. 3. 現在の教育の質について教えてください（回答者数 7, 075 人）



図8.3 教育の質について

専門分野別にみた教育の質に対する解析では、実習や実験など施設利用を伴う研究が多い分野では、研究の質が下がったとの回答が他より多かった（農学系 62.2%、生物・生命系 58.1%）。

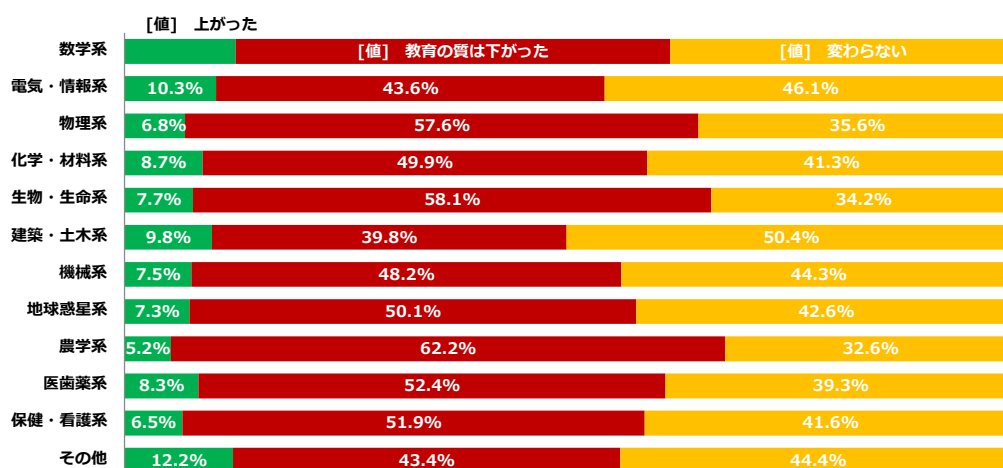
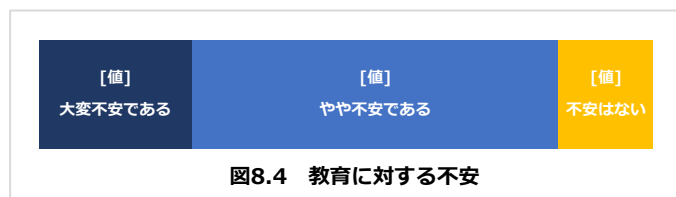
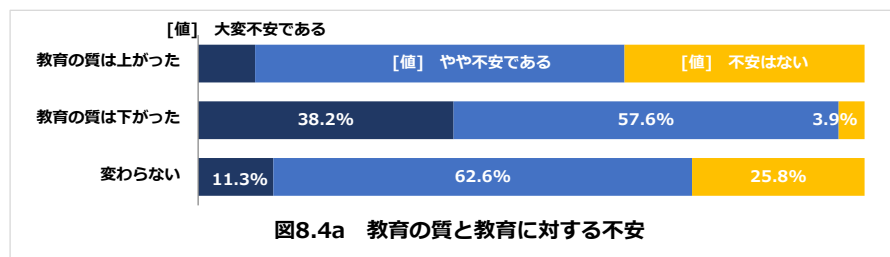


図8.3a 専門分野別教育の質について

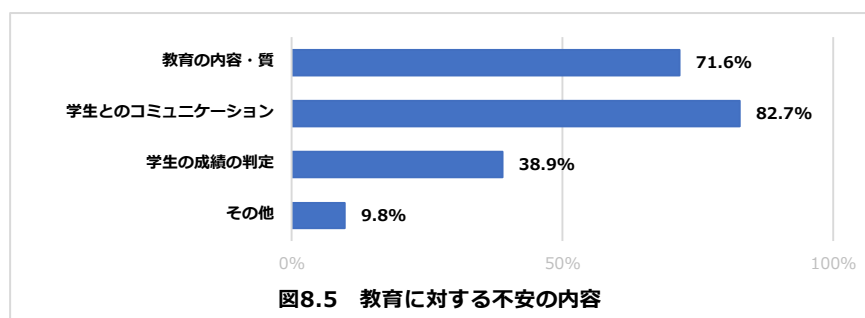
設問 8.4. 教育に対する不安はありますか（回答者数 7,113 人）



教育に対する不安は回答者の 84.6%が抱いており（図 8.4）、教育の質が下がったと回答した人ほど不安が大きいことが教育の質と教育の不安に対するクロス解析で示された（図 8.4a）

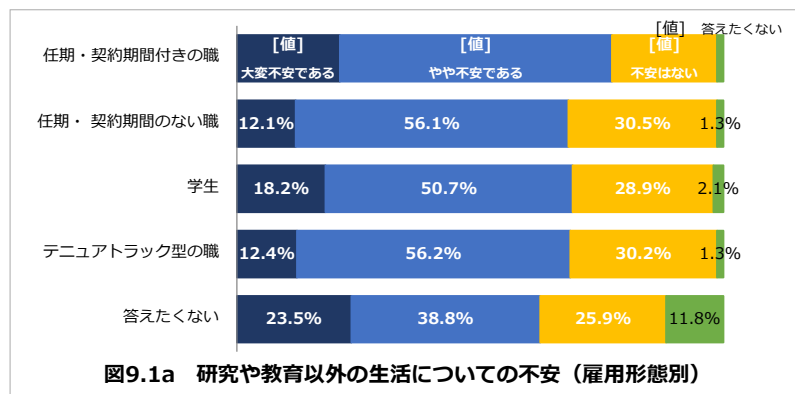
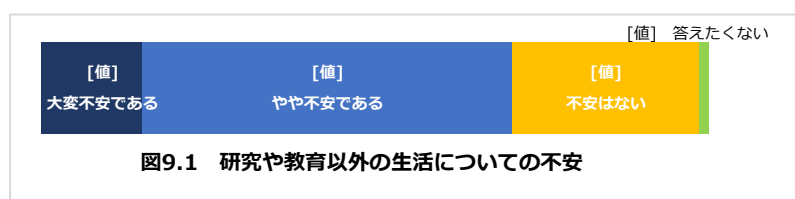


設問 8.5. 教育に不安があると答えた方は、その不安は何ですか（複数回答可）（回答者数 6,060 人）



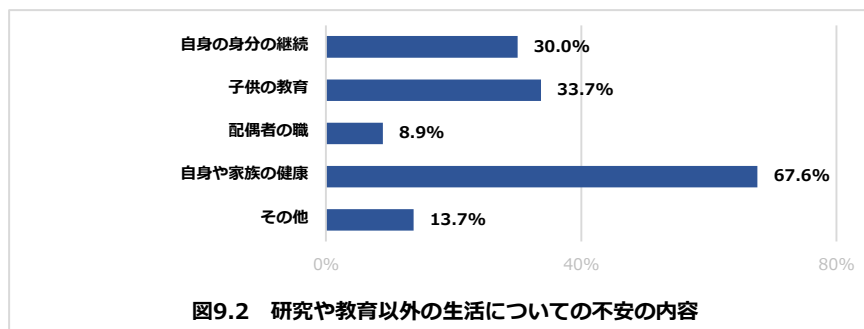
上記で、その他を選んだ方は具体的な内容を教えてください（自由記述）（解析中）

設問 9.1. 研究や教育以外の生活についての不安はありますか（回答者数 10,928 人）



雇用別の研究や教育以外の生活についての不安は、任期・契約付き職が最も不安を感じている割合が多く（77.1%）、次に学生が多かった（69%）（図 9.1a）。不安定な立場である任期・契約期間付き職と学生では、研究生活においても私生活においても不安が強いことがわかった（図 7.4a 参照）。

設問 9.2. 不安があると答えた方は、その不安は何ですか（複数回答可）（回答者数 7,739 人）



上記で、その他を選んだ方は具体的な内容を教えてください（自由記述）（解析中）

設問 10. 現状における勤務上の支障について教えてください（複数回答可）（総回答者数 11,112 人を分母にした）

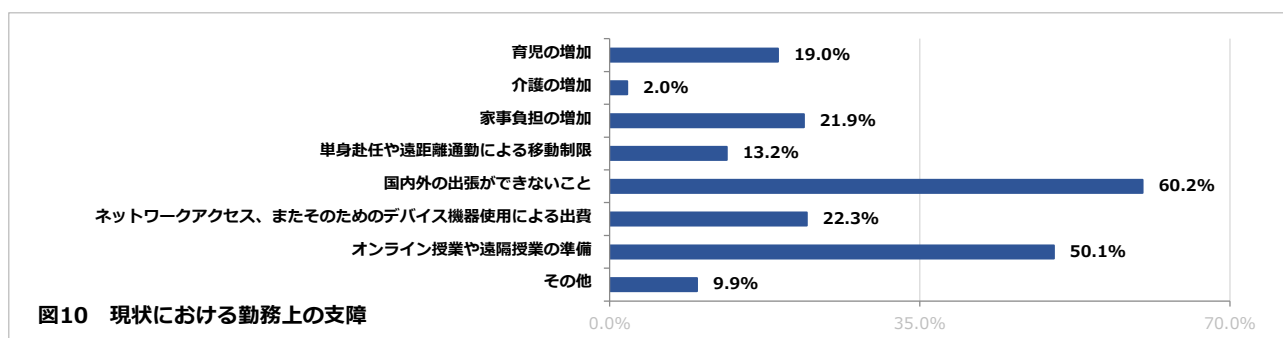
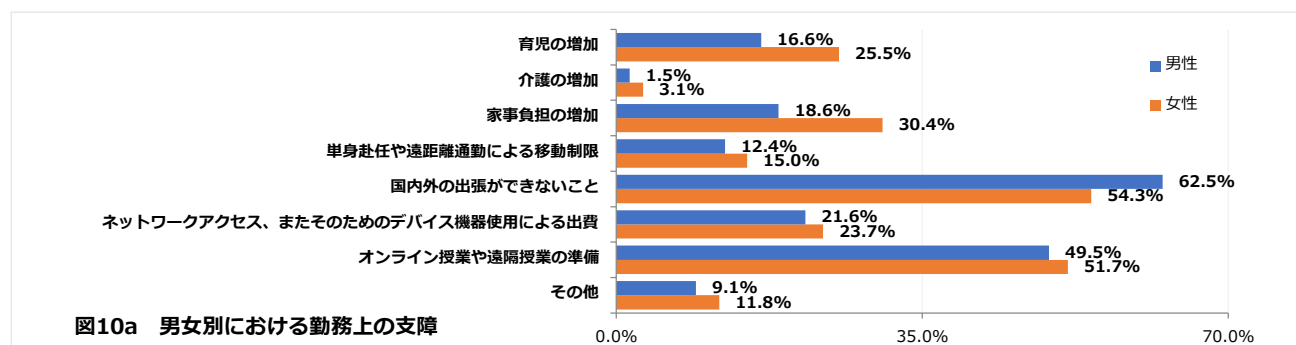
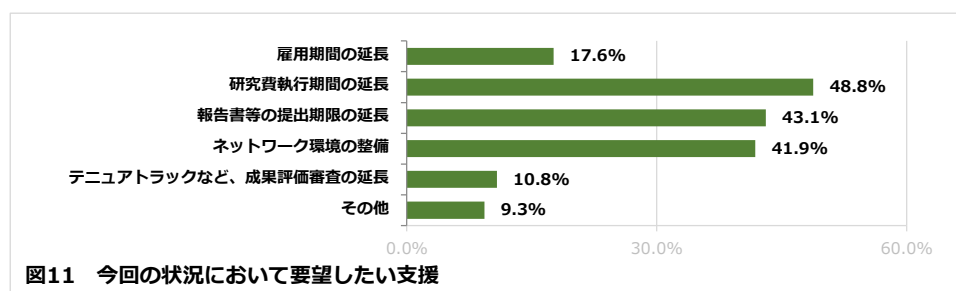


図 10 から移動の制限による研究への支障が深刻であることがわかる。性別とのクロス解析では家事、育児の負担においては、男性より女性の方が多く選択していることが示された（図 10a）。

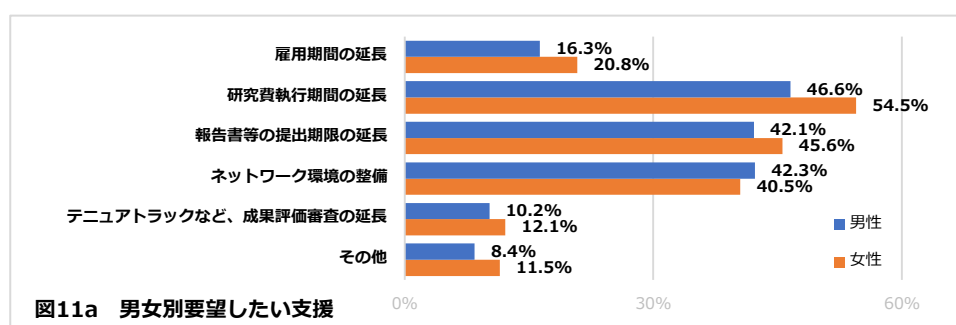


上記で、その他を選んだ方は具体的な内容を教えてください（自由記述）（解析中）

設問 11. 今回の状況において要望したい支援を教えてください（複数回答可）（総回答者数 11,112 人を分母にした）



男女別の解析でも研究費執行期間の延長が最も多く選択されていた。



上記でその他を選んだ方は具体的な内容を教えてください（自由記述）（解析中）

設問 12. 今後要望したい勤務制度や支援策について教えてください（複数回答可）（総回答者数 11,112 人を分母にした）

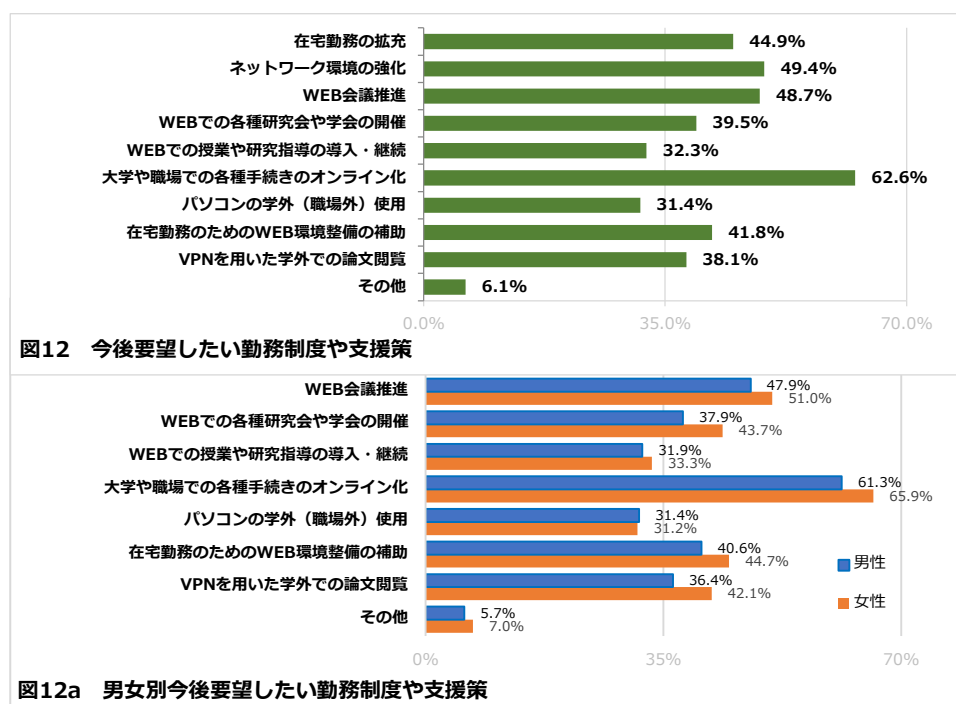


図12a 男女別今後要望したい勤務制度や支援策

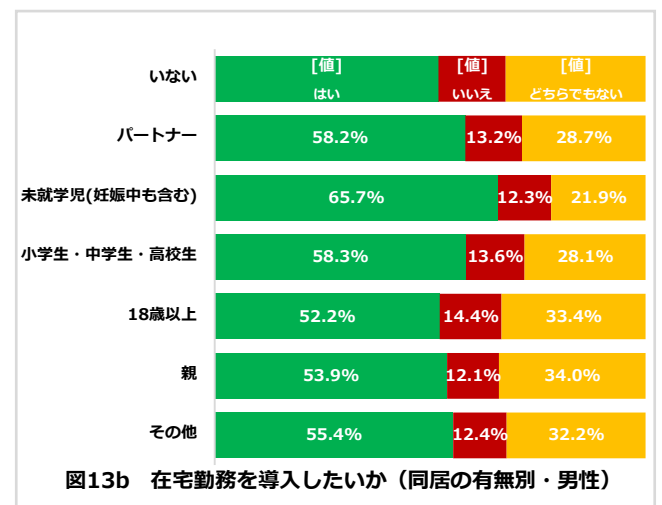
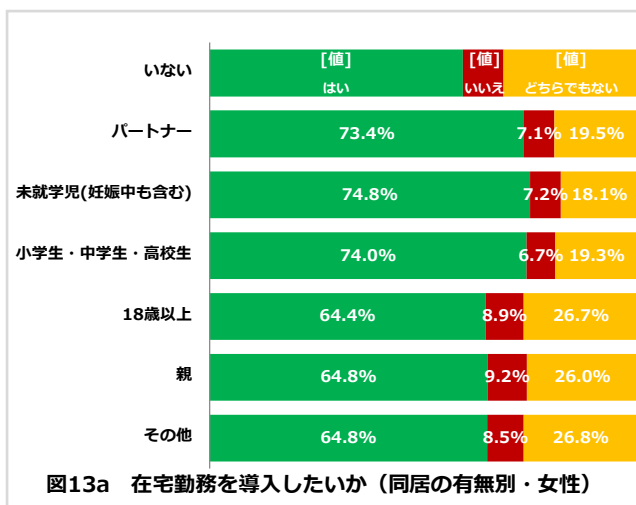
上記で、その他を選んだ方は具体的な内容を教えてください（自由記述）（解析中）

設問 13. 今後の働き方改革として、通常時にも在宅勤務を導入して欲しいですか（回答者数 10,988 人）

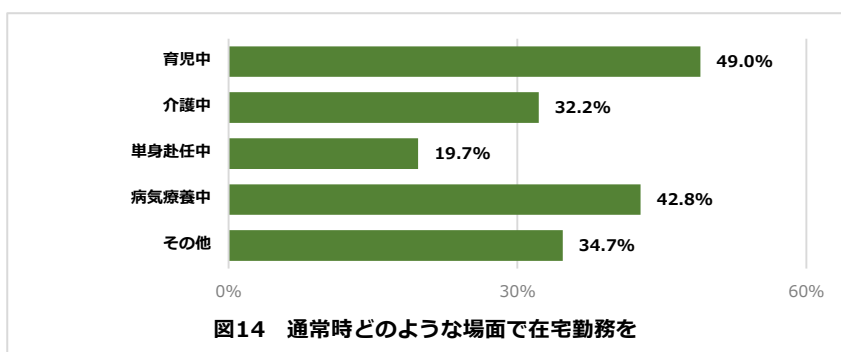


今後の働き方改革として、59.4%は通常時にも在宅勤務を導入して欲しいと回答している（図13）。

男女別と同居の有無でのクロス解析では、全ての群において女性の方が男性より在宅勤務を希望している割合が高かった（図13a、13b）。女性では同居人にパートナー、未就学児、小・中・高校生をもつ回答者の70%以上が在宅勤務を希望している。また男性でも未就学児をもつ回答者の65.7%は在宅勤務を希望していることがわかった。



設問 14. 13. で「はい」を選んだ方に質問します。通常時においてどのような場面で在宅勤務を利用したいですか（複数回答可）（回答者数 6,402 人）



上記で、その他を選んだ方は具体的な内容を教えてください（自由記述）（解析中）

まとめ

緊急事態宣言によるさまざまな制限から、回答者の約8割が今後の研究や教育に不安を抱いていることが示された(図7.4、図8.4)。また、任期・契約期間付き職や学生は特に不安が大きいことも示された(図7.4a)。任期内に研究を遂行できないことで、今後の評価や単位取得に影響がでること、将来の雇用にも影響することが懸念されるためであろう。自由記述では、留学を中断した学生やポストクが無給で研究を続けているとの話もあった。一方で、教員の立場からは学生指導が十分行えないことの不安をあげる人が8割を超えた(図8.5)。また、緊急事態宣言により家事・育児の負担が増えたことが勤務の支障となっていると答えた人は、女性に多かった(図10a)。

以上の問題点をふまえた上で、設問11~13で要望された支援策に基づき、学協会連絡会では以下のことを国や研究機関に要望したい。

1. 研究費の執行内容の柔軟な変更、使用期間の延長や報告書提出期限の延期などの迅速な対応
2. 任期・契約期限付き職に関しては任期期間の延長を、学生や帰国を余儀なくされたものには雇用の支援策を実施。
3. ネットワーク環境の強化を行い、WEB会議やWEB学会を推進
4. 在宅勤務の拡充を推進し、大学等の職場での各種手続きをオンライン化の促進
5. 女性の家事・育児の負担増を解消するような意識変革の働きかけを積極的に推進

「一般社団法人男女共同参画学協会連絡会」の設立へ

運営検討ワーキング（寺田 宏・日本建築学会・hiro.terada@shimz.co.jp）

Report on the innovation of managing and re-organizing EPMEWSE

Innovation of Management and Re-organization W.G. (Hiroshi Terada · Architectural Institute of Japan)

EPMEWSE was established by 12 members in 2002, and now we have more than 100 members. Our committee have the mission of innovating the management of EPMEWSE. We have studied and been authorized the innovation plan to a general incorporated association at the meeting in May and August 2020.

We completed the register procedure at August 21st and the new incorporated association committee will start at November 1st. EPMEWS will hold the memorial general meeting at December 14th.

当会は2002年7月に12の学協会で歩みを始めたが、現在は正会員、オブザーバー会員で約100学協会となり、近年は対外的活動上、任意団体から法人化への必要が迫られていた。

第16期幹事学会がこの法人化についての問題を提起し、第17期に運営検討ワーキングを設立、その法人化への検討をスタートさせた。

課題は法人化することの意義を会員全体で共有し、そのうえで法人化の方法、実現の工程の検討であった。現状を鑑みると時間的余裕はなく、また幹事学会が年度により交代する当会の運営方法に混乱をきたさず、また法人化に当たっては様々な既存の活動が円滑に切れ目なく継続する方法を検討、実行することであった。

以上を踏まえ法人化の具体的な実効策を関係者と詰めることを第18期第一回運営委員会にて承認いただいた。その方策は以下である。

- ・「一般社団法人」とする
これは法人化が喫緊の課題となる当会が大きな変更なく円滑にかつ今後の運営のしやすさから最適な方法と結論付け選択した。
- ・3名以上の理事により運営とする。
理事は幹事学会委員長、役員から選出し、承認は運営委員会とし理事会は設定しないことが現行と大きな変更なく進められると結論付けた。
- ・定款、規定は現行の規定を踏まえ、また12月の運営委員会を社団総会として法人の意思決定機関（総会）とする。
現状は幹事学会の引継ぎが10月末であり、現行の定例会議の運営方法を活用し大きな変更を必要としないと判断した。
- ・スケジュールは2020年8月に「一般社団法人男女共同参画学協会連絡会」として設立登記を実

施し（第18期関係者及びワーキングのメンバーで一時的に設立理事を担う）10月末を団体の年度末とし2020年10月に任意団体の解散と財産、会員の一括移行を一般社団法人に行う。
最も移行が円滑かつ活動の継続が確実に担保される方法を選択した。

- ・2020年12月の運営委員会を「設立総会」とし、第19期幹事学会の役員より理事を選出する。

以上を法人化の方策として第18期第二回運営委員会にて承認・決議、また任意団体の解散と移行決議を第三回運営委員会にて承認・決議いただき実施の運びとなった。

登記申請は2020年8月7日に実施、8月21日に完了した。

現状は10月末に任意団体の解散、新社団法人への一括移行を実施し、12月14日に予定されている第19期第一回運営委員会を設立総会として、新理事の承認および理事長の選出を行い、新法人の船出を待つのみである。

なお、法人化に当たり「会員の種類、役割、権限」を明確にすることを求められ、定款、規定の下記の点を一部変更・追補した。

オブザーバー会員は定款上不明確と指摘があり、規定を改めた。また、今後は発生が想定される学協会に所属しない、本活動に関心の高い個人のための個人正会員を追加した。

以上、2020年11月1日より「一般社団法人男女共同参画学協会連絡会」が活動を開始する。

（英語名：The Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering、略称：EPMEWS）

さらなる理系の男女共同参画推進活動の活性化を期待したい。

規定等

男女共同参画学協会連絡会規約

制定 平成 15 年 3 月 7 日
改定 平成 16 年 9 月 17 日
改定 平成 17 年 9 月 15 日
改定 平成 21 年 3 月 25 日
改定 平成 25 年 6 月 26 日
改定 平成 26 年 8 月 4 日

1. 位置づけ・名称

本会は非営利の任意団体で、「男女共同参画学協会連絡会」(以下「本連絡会」)と称する。

2. 目的

学協会間での連携協力を行いながら科学・技術の分野において、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りを行い、社会に貢献することを目的とする。

3. 事業

3.1 本連絡会は、上記目的を達成するために次の事項に関する協議・事業を行う。

- (1)男女共同参画事業の企画、運営に関する事項
- (2)広報、調査研究、研究発表、情報収集等の活動に関する事項
- (3)国内外の学会等との連携事業に関する事項
- (4)その他、目的を達成するために必要な事項

3.2 本連絡会の事業年度は、毎年 11 月 1 日に始まり、翌年 10 月 31 日に終わる。

4. 会員・組織・責務

4.1 本連絡会の会員は、上記 2.の目的に賛同する日本国内の科学・技術系学会、協会とする。会員は運営委員会において採決権を有する正式加盟学協会と採決権を有しないオブザーバー学協会とする。会員の資格は、別途定める。

4.2 本連絡会への入会は、文書で申し出て、本連絡会の承認を得る。また、退会は文書で申し出る。

4.3 本連絡会に委員長1名と副委員長、監事を置く。委員長、監事は正式加盟学協会の互選により選任する。副委員長は委員長が指名する。

4.4 委員長、監事と副委員長の任期は 10 月から1年間とする。ただし、再任を妨げない。

4.5 委員長は、本連絡会を代表し、事業のとりまとめを行う。副委員長は、委員長を補佐し、委員長の事故・不在等の場合にその任務を代理する。

4.6 監事は運営委員会で決算書の監査報告を行う。

5. 運営委員会

5.1 本連絡会に、事業全般についての意思決定を行う運営委員会を置く。

5.2 運営委員会は、委員長が招集し、正式加盟学協会の3分の2の出席(委任状を含む)を以って成立する。

5.3 委員長は運営委員会の議長をつとめる。

5.4 運営委員会にはオブザーバー学協会の参加も認める。

6. 採決

承認事項並びに議長の判断により、採決の必要のある場合には、運営委員会において、出席正式加盟学協会を各一票とし、その過半数の投票で可決する。可否同数の場合は、議長が決定する。

7. 分担金

会員は、本連絡会の運営にかかる経費を分担負担する。分担方法は別途定める。

8. 幹事学協会

委員長、副委員長の所属団体を幹事学協会とし、事務局業務を行う。幹事学協会は事業計画に基づく予算書を作成し、運営委員会の承認を得る。

9. 規約の発効、変更

規約の変更は運営委員会にて採決を以って行う。

10. 細則

この規約の施行に必要な細則は、運営委員会が別途定める。

本規約は、平成 26 年 8 月 4 日から適用する。

以上

改定 平成 30 年 8 月 24 日

【項目 4.1 の定めによる会員の資格】

1. 学術研究の向上発達を図ることを目的とする団体であること
2. 名称、目的、事務所、構成員の資格及び代表者について定めがあること
3. 科学者、技術者により構成されている団体であること
4. 構成員の資格を、特定の地域や、大学、研究機関に限っていないこと
5. 構成員が 100 人を下回らないこと
6. 学術研究の向上発達を図るための活動が引き続き3年を越えて行われていること
7. 構成員による学術研究の発表または、討論のための集会を年1回以上開催していること
8. 学術研究論文発表のための刊行物を年1回以上刊行していること

【項目 7. の分担方法】

1. 分担金の基本的考え方

本連絡会の活動にかかる経費を事業年度ごとに会員で分担負担する。

2. 分担方法

(1) 当該事業年度予算額を会員学協会の規模に応じた比率で分担する。

(2) 分担は以下の比率とする

会員数 1 万人を越える正式加盟学協会:4、

会員数 5 千人を越える正式加盟学協会:2、

会員数 1 千人を越える正式加盟学協会:1.5、

会員数 1 千人以下の正式加盟学協会およびオブザーバー学協会:各 1

(3) 各学協会の分担額は、以下の額を超えないものとする

会員数 1 万人を越える正式加盟学協会:4 万円、

会員数 5 千人を越える正式加盟学協会:2 万円、

会員数 1 千人を越える正式加盟学協会:1 万 5 千円、

会員数 1 千人以下の正式加盟学協会およびオブザーバー学協会:1 万円

3. 分担金の算出および支払い時期

(1) 分担金は、運営委員会で承認された予算書に基づいて算出し、運営委員会に諮った後、会員学協会に請求する。

(2) 幹事学協会は決算書を作成し、監事の監査を受け、監査報告書とともに運営委員会に諮る。

附則

1. 本規約細則は、平成 26 年 8 月 4 日(第 12 期第 4 回運営委員会)から適用する。

2. 本規約細則は、平成 30 年 11 月 1 日から適用する。

以上

第 18 期 男女共同参画学協会連絡会 担当



第 18 期幹事学会 公益財団法人 日本農芸化学会

統括、運営

委員長	熊谷 日登美	日本大学生物資源科学部
副委員長	裏出 令子	京都大学複合原子力科学研究所
副委員長	野尻 秀昭	東京大学生物生産工学研究センター

シンポジウムWG

主 査	熊谷 日登美	前 掲
委 員	安保 充	明治大学農学部
委 員	飯嶋 益巳	東京農業大学応用生物科学部
委 員	上田 賢志	日本大学生物資源科学部
委 員	裏出 令子	前 掲
委 員	恩田 真紀	大阪府立大学大学院理学系研究科
委 員	亀谷 将史	東京大学大学院農学生命科学研究科
委 員	新町 文絵	日本大学生物資源科学部
委 員	竹中 麻子	明治大学農学部
委 員	辻 智子	(株) 吉野家ホールディングス
委 員	野尻 秀昭	前 掲
委 員	袴田 航	日本大学生物資源科学部
委 員	室田 佳恵子	島根大学生物資源科学部
委 員	山口 勇将	日本大学生物資源科学部
委 員	吉永 直子	京都大学大学院農学研究科

第 18 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集

2020 年 10 月 17 日発行
発行 男女共同参画学協会連絡会
<http://djrenrakukai.org.jp/>

〔禁無断転載〕

本紙に掲載する著作物を転載または引用する場合には、掲載する刊行物に「第 18 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集」から転載または引用した旨を付記下さるようお願いいたします。

Vector Graphic by WebDesignHot (<http://www.WebDesignHot.com>)



EPMEWSE

第18期
男女共同参画学協会
連絡会事務局

JSBA 公益社団法人
日本農芸化学会

The Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

Design by Naoko Yoshinaga

Photo by engine akyurt on Unsplash